〔表紙〕

新納久仰譜

安政五年五月朔日ヨリ八月晦日マテ

「新納久仰譜巻十下　安政五年五月朔日ヨリ八月晦日迄」

一五月朔日、曇、出勤、八ツ退出、夫ヨリ二之丸砲術調練御式日ニ罷出候、毎之通三番組之内三小組被召出、再度之　御出、七ツ過ニテ大鐘過相済、直ニ御引入被為在候ニ付直ニ退席イタシ候、今日二之丸ニテ御内用向段々承知仕候事、且亦廿九日之御式日ハ飛脚立ニテ御取込ニ付朔日ニ被相替候事也、

一五月二日、晴天、梅雨中ニハ珍敷天気也、出勤毎之通ニテ八ツ退出ヨリ下總殿・登殿并ニ福崎助八申談、祇園洲台場ヨリ集成館内諸御製造見分トシテ差越候処上様ニ茂夕方被為入候、尤今日四ツ時御供揃ニテ上瀬辺御釣リ被遊、夫ヨリ不図被為入候間、拙者共ハ不構上、諸所致見分、夕方引取暮前帰宅イタシ候事、

一今日新納休右衛門事、御勘定方小頭格勤方是迄之通被仰付候、尤是迄ハ御徒目付産物方掛ニテ候、右之通難有被仰付候ニ付、祝之取肴類并酒共休右衛門方ヨリ被差遣候、此方ヨリモ昼之内両種為祝儀差遣シ候事、

一今晩七ツ過武村寿国寺之下百姓家壱軒致焼失候、次郎四郎殿出役イタシ候事、

一五月三日、八ツ前西田町後田屋敷居住有馬七郎右衛門所一ケ所出火ニテ焼失イタシ候、風ナト無之、無程鎮火之由也、

一五月四日、出勤毎之通、退出ヨリ二之丸調練御式日ニ罷出候、左衛門殿同断、毎之通リ
御出被遊候、七ツ半比相済、直ニ退席、
但
下總殿事本多下總守様ニ差合之訳ヲ以テ名前替被願出、昨日左衛門ト改名被仰付候事也、

一五月五日、朝微雨昼ヨリ強降、先日ヨリ梅雨ナガラ照続候ヘトモ今日ヨリ雨ト成リ候、尤先月二十七日ヨリ入梅、来ル十六日出梅也、
一今日四ツ前出勤毎之通、
御出座御祝儀有之、九ツ退出、今日若殿様初御節句ニ付、於大奥御吸物・御酒等被下候筈候ヘトモ、御取込モ有之我々モ込リ候筈ニ付、其筋ヲ以テ於御家老座頂戴被仰付候旨致承知候間、難有頂戴仕候、左候テ退出ヨリ大奥ヘ罷上リ若殿様ヘ御祝儀申上置、夫ヨリ外御庭御昇御飾リ拝見ニ罷出候テ相下リ候、尤今日初御節句ニ付、大目付以上相中ヨリ御肴進上イタシ候事、
一退出ヨリ北郷浪江殿所ヘ見廻候、是ハ此内浪江殿養子ニ宗八郎殿内約有之候ヘトモ、先比ヨリ申談之趣有之、四郎殿養子ニ宗八郎殿モライ受度段、内々豊前殿始都之城役人等ヘ申入置候処、弥其通相決シ、先日右浪江殿方ヘモ取返シノ筋ニ豊前殿ヨリ被申入、左候テ浪江殿方ヘハ旬之助ヲ則養子ニ被遣候筋ニ内決有之候由、都之城并ニ浪江殿方ヨリモ吹聴承候、且お悦事ハ矢張此内之通宗八郎殿ヘ取合之儀相違無之旨モ、豊前殿ヨリ訳テ承候間、旁ニ付見廻リ候事也、夫ヨリ重富御本宅近習迄御祝儀申上置、静洞殿ヘモ罷出暫時御咄申上候テ罷帰リ候、今日モ敬四郎殿御モライ受御養育被成度趣トモ段々被仰聞候事、

一五月六日、朝鹿島郷十郎相招キ、昨日静洞殿ヘ罷リ出候処致承知候趣キ、且ハ拙者内存之程細々周防殿ヘ御序ヲ以テ申上置被呉候様申達置候事、

一五月八日、晴天、八ツ後ヨリ細雨、朝六ツ半時分出宅、調練場へ出席、二番組并ニ四番組惣人数之調練御覗之筈候付テ也、

上様四ツ時御供揃ニテ被為　入、直ニ相勤候処、二組之調練并ニ大砲打方迄八ツ過比相済、夫ヨリ

上様ニハ同所台場并ニ荒田塩浜

御覧被遊候テ御立被遊候、右之塩浜ハ近比御手許計ニテ赤穂伝之焚方御仕立有之、江夏十郎へ掛リ被仰付置候ニ付テ之事ナリ、右之諸所御覧済御立被遊候テ、我々モ直ニ退席、七ツ時分致帰宅候、右之塩浜御覧之時分ヨリ細雨降出シ、都合能事ニテ候、

一五月九日、出勤毎之通、長崎ヨリ蒸汽船又々明十日出帆ニテ、山川之様廻船、夫レヨリ御城下前之濱へ廻着之筈、殊ニ御目付木村圖書殿乗付之筈ニ候旨、今日問合相達候間、則ヨリ殿々御手当之事候テ取込候事也、

一今夕方ヨリ島津相馬殿・村橋數馬殿・新納休右衛門殿・畠山吉次郎・肥後太郎八・伊地知小十郎被参候、畠山家取続旁之一件ニ付相談事モ有之、段々ニテ長談四ツ半比被帰候ナリ、

一五月十日、御趣法方ヨリ大坂へ町便仕立、御参勤并ニ琉人立方御用金取合弐万五千三百両余御下シ金、来月中相調ヒ候様申遣シ候事也、

一五月十一日、川上主膳殿・川上源十郎殿被参候、是レハ申遣シ置キ候故也、訳ハ先比山吹之間へ楽書落居、且ハ暦面へ楽書有之候モ、右之両人并ニ桂小吉郎・島津掃部・北郷作左衛門等仕業之由承候ニ付、内々承合置度申遣候事也、

一今日九ツ時御供揃ニテ

上様弁天波戸台場并ニ万年丸・鋳製所等へ被為　入、

御見分被遊候筈也、

一五月十二日、出勤毎之通リ、明日方長崎ヨリ蒸汽船廻着之賦、尤御目付之木村圖書殿乗込之由也、依之御手当多端ニテ、山田壮右衛門ヲ以テ、拙者ニモ鋳製所等ヘ出会イタシ候様ニト、段々御差図承知仕候事、

一今晩九ツ半時分御軍賦役坂元彦五郎参候テ、今日七ツ時分坊泊之沖蒸汽船等敷船二艘相見得候段只今相達候就テハ廻着之船ニ可有之ト則ヨリ御手当ニ及候事ナリ

一五月十三日、雨終日不止、然トモ降リ方ニ強弱ハ有之候、今暁ヨリ御軍賦役・書役共ニ、追々拙宅ヘ参リ御手当事ニテ、六ツ過ヨリ何レモ御殿ヘ罷出候、拙者モ五ツ時分ヨリ出勤、諸事御用イタシ候、何モ央ニテ候得共、下町津畑出張座ヘ九ツ過ヨリ左衛門殿一所ニ出張候テ、猶万事致差図候、此節モ下町下会所一番宿ニ致手当、木村殿ニ賦リ置キ其通、其外三軒旅宿モ内福之町人共居宅見合置、大目付ハ三人共出席、取締向厳敷及手当、着船相待居候処、七ツ後ニ山川湊午之刻時分出帆有之候、然レトモ風并悪敷相応隙取ニ相成可申段、陸地早打相達シ候、然ル処夕方蒸気船(汽)相見得、追々程近ク相成、此節モ瞬息之間ニ眼前ヘ参リ、弁天下波戸外ヘ碇ヲ卸シ祝砲二ツ打候ニ付、御軍賦役等早速出迎、木村殿上陸案内イタシ旅宿ヘ引入候、左候テ時刻見合拙者モ彼之旅宿ヘ差越扣居、田中仁右衛門挨拶等相済候後、御家老御役之所ニテ見廻イタシ、暫時ニテ退席、又々出張座ヘ参リ、四ツ過頃引取候御軍賦役・書役等ハ此内之通リ詰通候也、

一上様今昼ヨリ造士館ヘ被為　入、児二才其外師員之衆ヘ講議且ハ席書等被仰付、暮比御帰殿被遊候由也、御中途ヨリ御供目付四本休次郎被差遣、段々御差図事有之候也、

一五月十四日、夜前ヨリ雨、今朝之見掛終日難止見得候ニ付、五ツ過御殿ヘ罷リ出、御側役并ニ御小納戸伊集院中二等ヘ引合、御模様奉伺候処、最早御仕廻方御急

ニテ、御延引ナトノ御様子少シモ不被為在、段々御差図事共被遊候段承知イタシ候間、直ニ出張座之方へ差越、先日ヨリ承知仕居候通、御手当イタシ奉待上候、

尤今日四ツ時御供揃三本御道具ニテ万年丸へ被為　入

右御船ニテ御目付初勝殿(海舟)以下蘭人迄モ

御逢被遊、少々御愛惣(想)有之、右御船モ委敷御見セ被遊候テ、夫ヨリ御目付初都テ御引列出物蔵脇御渡戸ヨリ御上陸ニテ、真先左衛門殿御先乗、其次壱町計隔拙者御先乗、夫ヨリ半町計隔

上様御乗馬、御跡ニ則蘭人被召列、夫ヨリ御目付并勝(海舟)殿以下出役人等差越、其跡ニ龍衛殿押乗被致候様ニ被仰付置候テ、其通之手当ニテ奉待上居候、今日右通御召列之儀、此内蘭人廻着之節、若輩共猥ケ間敷所行有之候ニ付、思召之御程被為　在候而之御事ニテ、実ハ諸士之不勘弁故奉恐入御都合ニテ候、

一右通之御手当ニテ、天気悪敷候ヘトモ御延引之御模様ニハ不被為在候間、四ツ後ヨリ小船ニ乗、左衛門殿同様新橋下江差越、汐掛イタシ、供廻リハ入來院家石籠之角ニ廻シ置待上居候処、無程出物蔵脇御渡戸ヨリ御出有之、万年丸江被為

入候ニ付、則御跡ヨリ右之御船へ参リ居候処、無程木村殿・勝殿始蘭人迄モ御船へ被参、御手当之通暫時御逢ニテ、御馳走共被差出、夫ヨリ御上陸、直ニ御跡ヨリ木村殿始蘭人迄モ御引立、出物蔵脇渡戸へ御上陸之処、俄ニ大降リイタシ　上様ニモ御防キ難被調程ノ大雨ニ成、我々ハ陣(陣)笠壱ツニテ実ニ棒ヌレトハケ様之事ニテ、込(困)リ入タル天気、御目付始蘭人出役人等モ大込リナガラ、御手当之通リ追々御引立、左右衛門殿・拙者御手当之通御先乗相勤候処、此節ハ通路取締役々厳重ニテ、第一ハ強雨ニテ喜楽之見物モ不相調位、尤若年之諸士稀ニ罷出候者モ行義正敷、父兄老輩ヨリ申教モ行届候筋ニ相見得候、左候テ　上様ニハ祇園洲台場へ御待合被遊、御目付并ニ蘭人等ハ抱眞院橋ヨリ鶴江崎鋳製所へ差越、細々為致見物、夫ヨリ又本之道筋通

行、祇園洲台場細々為見候テ、夫ヨリ磯之方ヘ差越候、始終拙者并ニ龍衛殿ハ先後ニ付添候、

上様ニハ御待合之筈候得共、直様磯江被為入、左衛門殿台場ヘ残リ被居候、夫ヨリ我々三人ニテ致警固候、右新橋下御引立之時分ヨリ、平佐屋敷前辺北郷哲五郎殿「朱書」「浪江カ」辺迄ハ厳敷降リニテ、其後間々小降リモ有之候ヘ共、度々一シキリツ、強降イタシ難凌程之事ニテ、祇園ノ洲ヘ蘭人共モ罷在候内モ、大降リイタシ候ヘハ、夫レヨリ磯ヘハ参間敷模様ニテ大キ心配イタシ、通事等ニ手筈イタシヤウ〳〵御茶屋之様引立候、左候テ御茶屋ヘ参着候処、同所御庭内ヘ御日覆出来、卓子御取立、段々御手厚御取持被遊候、上段之場ニ

上様、御相伴ニテ木村殿・勝殿・蘭人上官三人・通事壱人、次之段ニ出役人二十人余罷在、我々モ次之段之末ニ罷出居候テ、酒・泡盛ナト取遣リイタシ取持相勤候、左候テ夕方ニ浜ニテ奥支配人数之調練等被仰付、百人余モ召出、小頭ハ御小姓与番頭ヘ被仰付、悴ナトモ相勤難有次第也、左候テ暮比ヨリ集成館ヘ御引列被遊候テ、彼所御目付始細々見方有之、余程隙取候、再度御茶屋内ヘ被召列、亦々種々御饗応被仰付、其内硝子器・焼物器ナト種々御送リモ有之、夜入五ツ過時分一同被罷立候、其節ハ小降リ也、上様ニモ直ニ御帰殿被遊候候(衍カ)間、我々ニモ則御暇仕候、又其節モ大フリイタシ四ツ過時分致帰宅候、今日ハ終日珍敷雨ニテ、丁度ノ折ニテ甚込リ入タル事共也、乍去何事モ為差不都合無之仕合之事也、

一五月十五日、雨終日不止強弱之降リ方ナリ、今朝相良情(晴カ)洲見廻候、此節蒸気船ニ乗込罷帰候トテ、暫時ニテ帰リ候事、

一四ツ出勤毎之通、

御出座、御礼罷出無程退出、下町出張座ヘ参リ候、今日九ツ半時分御供揃ニテ　上様蒸気船ヘ被為入候間、左衛門殿・拙者事ハ御供相願、前以ヨリ御中途ヘ小船

ニテ罷出居、御跡ヨリ直ニ蒸汽船へ差越候、今日モ始終降リ通シ、世話敷天気合ニテ御見合被遊、七ツ時分ヨリ

上様被為　入、日入時分御帰リ被遊候間、其内得ト船中見方イタシ、御側へモ罷在候テ、御帰リ之節御跡ヨリ直ニ左衛門殿等モ一所ニ引取候間、再出張座へ参、暮過罷立被致帰宅候事、

一五月十六日、雨間之細雨昼後ヨリ強降リ、今日四ツ時分ヨリ下町出張座へ出席、左衛門殿同断、蘭人等今日ハ滞在ナリ、尤彼等共モ致滞在度、江夏ナトハ段々質問イタシ度儀共有之、互ニ都合ニテ右之通也、乍去取締向ノ役々大込リ也、左候テ昼時分蘭人共下町内少々致遊歩度申出候間、取締イタシ歩行為致候、町内ニテ町門シメ切リ之故何モ無異儀候、然ル処下町中ニテ存分ニ無之トテ、上町其外武士小路遊歩イタシ度申出、断候得共不聞済模様ニ付、被致方（本ノマヽ）早々御殿へ御軍賦役両人差出、御側へ相付奉伺候処、名山堀通ヨリ新橋・大小路口・向築地罷通、鋳製所へ列越、帰リニハ柳町通リ辺通行イタシ候ハヽ可然旨承知イタシ、其通手当イタシ置候処、昼後ヨリ幸大雨ト成、無止間遊歩不相調候テ仕合之事也、

一五月十七日、朝曇昼時分ヨリ快晴、今朝五ツ前ヨリ出張座へ出席、今日五ツ半時蒸気船出帆之筈ニ付右之通ニテ、左衛門殿モ同断ニテ、時刻見合木村殿旅宿へ暇乞旁ニ見廻、致挨拶置罷立候、左候テ四ツ時分船中無異儀出帆相成候、折柄天気モ追々晴上リ、一同喜悦之体ニテ出帆故大安心イタシ候、船ハ以前之通瞬息之間ニ遙走行、沖小島近参候節出張座引取、左衛門殿一所ニ御殿へ罷出、御側役へ相付始終之成行御届申上置、八ツ迄相勤退出候事、

一今日御側役町田主馬ヲ以、此節蒸気船滞帆中無事ニテ取締モ行届候筋、掛リ御役々太儀ニ候半ト、難有

御沙汰承知仕候間、大目付・大番頭・御小姓与番頭へ相達置候、尤今日御沙汰書ヲ以テ諸向へモ被仰渡、難有次第ニ奉存候事、

一五月十八日、四ツ前浄光明寺へ(島津忠久)得佛様御忌日付太守様御代参宰相様御代拝

但

御惣霊様江御代拝

着服麻袴

右之通相勤、夫ヨリ出勤、左候テ八ツ退出、左衛門殿ニモ列立下町津畑へ立宿イタシ、田中仁右衛門・福崎助八御軍賦役・書役等相揃候上、上荷船二艘仕立、上瀬ヨリ沖小島等へ差渡、台場御造築之場所見分ニ差越候、諸所得ト致見分、暮過本之津畑へ帰船、直ニ銘々帰宅候事、

一五月十九日、曇微雨、今日出勤、八ツ退出、夫ヨリ二之丸調練御式日ニ付、左衛門殿列立罷出候、七ツ過再度之御入有之、大鐘前相済候間直ニ退出候事、

一五月廿日、八ツ後ヨリ伊東新五左衛門参候、此内頼置候拙者譜帳之一昨辰年之中取書出来、持参緩々罷在被帰候ニ付、亦々昨巳年中同断之譜帳中取書改メ方頼ミ遣シ置候事、

一五月二十二日、四ツ後江戸去ル七日仕出ノ町便到着、御内用封相届キ候間致開封候処、(島津斉興)宰相様御事御国許へ御湯治之御願立有之、去ル七日御願之通被仰出、御羽織迄モ御拝領被遊候由ニテ、即日仕出候御左右也、追テ急飛脚差立猶又表向可致問合トノ旨ニテ、豊後殿・永江休之丞等ヨリ自筆問合相達難有奉承知候事也、

一五月二十五日、八ツ後ヨリ梅北宗右衛門・伊東新五左衛門久々振リ相頼候テ拙者雑譜糺合、其外少々帳留等相頼、夜入四ツ過時分両人共被帰候事、

一五月廿六日、雨、此十日許晴天無之、毎日之雨ニテ諸人大込リ、乍去強雨不相続故川筋満水且ハ田畠水損無之、唐芋ナトハ至テ上潤ヒノ由也、

一今日七ツ後蓑田傳兵衛・岩山八郎太参リ候テ、沖永良部引替御心付向并ニ人撰・島詰人柄取シラヘ等旁段々長談ニ及ヒ候事ナリ、

一五月廿七日、晴天、今朝六ツ半時分ヨリ調練場ヘ出席、西目・東目長崎御手当人数調練致見分候ニ付左衛門殿同断、左候テ大調練是迄陣木屋打調候事ハ無之候得共、此節ヨリ陣木屋相調兵粮焚出等モ御定之通致手当調練有之候処、至極都合宜敷相調候間調練済ニ木屋々々等モ都テ致見分等、四ツ打候時分調練場引取候、夫ヨリ御船手引続塩屋村之内〔頭注〕「水軍方の誤ならん」ヘ水車方御座被召立候筈候地面致見分候、左衛門殿御軍役奉行以下召列候テ暫ニテ引取候事、

一今夜入左之通届有之候事、

口上

私事、江戸ヘノ正使并兼務之使者被申付、今月十九日那覇川出帆、同廿二日山川参着、陸地差越今日御当地上着仕候、先以賛議官此段申上候、以上、

五月廿七日　　伊江王子

一五月廿八日、御側向ヨリ御内用有之急飛脚差立候ニ付道島源五郎ヘ差向、当暑中ニ付御肴料金弐三百疋進上ニテ、

宰相様ヘ御内々伺御機嫌申上度候間、永江休之丞ヘ引合宜敷取計被呉候様申遣置候事、

一五月晦日、出勤、八ツ退出、直ニ帰宅ニテ二之丸御式

日ニハ不罷出候、今日六番組小与五・七・八番之三組御呼出シ有之候処、至極不揃ニテ上様余程之御不機嫌被為　成、段々御叱リ有之、発数等モ俄ニ相重候様ニ被仰付、夫ヨリ銃薬方ニ銃薬受取ニ差遣シ、御軍賦役始何レモ大心配イタシ、日入過迄稽古被仰付、何共奉恐候段次郎四郎罷帰リ申聞奉恐入候事也、

一六月朔日、出勤毎之通、退出ヨリ重富ヘ御見廻申上置七ツ前帰宅、重富ハ周防殿（島津久光）御末女お住殿昨夕方ヨリ御煩ヒ、急痢之症ニテ今暁御夭亡ニテ、今晩遺体私領ヘ引越候由ニ付テ也、右ハ去春比御出生之御女子也、今晩御引越ニ付テハ、挑灯共差遣用達茂右衛門見送リニ差遣候事也、

一今日次郎四郎ヘハ弓場奉行被仰付候事、

一六月三日、出勤、今日宰相様（島津斉興）御湯治御暇被為　済御祝儀有之候、且又今日昼時分宰相様御位階御昇進之宣旨御記録奉行伊東彦助才領ニテ罷下リ、則水仙之間ヘ御飾リ付有之、毎之通三御役拝見被仰付候、左候テ御前ヘ上リ、夫ヨリ御記録所御格護相成候由也、

一今日鹿之間格ヲ以於御座左之通、

新納駿河

右ハ当秋宰相様御湯治御暇御願之通被仰出候ニ付、御下向方御用掛被仰付候、

六月　左衛門

右之通被仰付候間、毎之通リ御請御礼申上置候事、

一今日例之通霊社様御祭致執行候、社人有屋田某参リ呉候事、今晩川上式部殿・東次郎左衛門・伊地知小十郎・森喜右衛門・梅北宗右衛門等被参候、且又大口小河

内定番人丸田利兵事年限リ筈合候ニ付、此節先祖代之由緒申立、代々相勤候儀願立候処願之通被仰付候、御受トシテ致出府今日此方ヘモ見廻、折柄之事ニモ候間緩々召留、夜入帰リ候、外之衆モ四ツ過時分被帰候事、

一六月四日、出勤、八ツ退出、夫ヨリ二之丸御式日ニ左衞門殿一所ニ罷出候、

上様毎之通リ御出有之、四番組之内三小与御呼出ニテ、七ツ半時分相済直ニ退出、今日之都合宜敷候テ難有仕合也、

一六月五日、今朝五ツ打直ニ出宅、下町石燈爐通下ヘ御召船小鷹丸・御足次船小蝶丸共御修覆ニテ廻船御成就相成候ニ付、今日致見分候、御側役代福崎助八・御勝手方御用人二階堂源太夫并ニ書役等相詰候、御召船爰元ヘ相廻リ候儀ハ稀成事ニ付、同席左衞門殿・伯耆殿・登殿・伊織殿・矢五太夫殿等モ拝見ニ被参候、右見分済ヨリ出勤毎之通也、

一六月六日、朝市來次十郎被参候、昨日夕方大島ヨリ上着ニテ島元之成行御届旁也、

一四ツ時ヨリ砲術館ヘ出席、先日被仰付候水軍兵士之人数砲術致見分候、尤今日御軍神祭ニテモ有之、参詣等モイタシ八ツ前退席候事、

一六月八日、七ツ後伊江王子初副使與那原親方・讃議官奥武親雲上・聞役新納太郎左衞門同伴ニテ見廻有之、例之通リ使者之間頭迄出迎直ニ引入、其外ハ順々着座有之候ニ付致挨拶、茶・煙草盆・菓子等差出シ、時宜見合セ吸物・肴等三通盃二返ハ掛盃ニテ三度目致取替、夫限リニテ出シ物都テ相下ケ候処、無程被罷立候間、最初出迎之通送リイタシ候、其以下之琉人ハ使者之間辺ニ引入リ茶共差出シ候也、且今日進物左之通、

覚

金御扇子　一箱
花入　一
紺地島細上布　一端
條綸（ママ）　一端
花毛氈　二枚
煙豚　一肢
焼酎砧　一双
以上、

伊江王子

覚
御扇子　一箱
十錦太碗　十
島紬　一端
紺地島細上布　一端
塩豚　一重
焼酎砧　一双
以上、

與那原親方

覚
御扇子　一箱
龍御菓子皿　十
巻子　一端
毛氈　二枚
塩豚　一重
焼酎砧　一双
以上、

奥武親雲上

一六月九日、朝加藤權兵衛被参候テ、今日左衛門殿宅ニテ天真流仕合見分有之候ニ付キ、拙者モ参リ候様承リ候ヘ共、持病差起リ出勤モ不致候ニ付断申入候事、

一六月十日、五ツ過福昌寺ヘ（島津重豪女子徳川家斉室）廣大院様

（島津重豪女子）
大慈院様
（島津宗信）
慈徳院様御忌日ニ付
太守様御代参
宰相様御代拝
但
御惣霊様へ御代拝
着服麻袴
右之通リ相勤メ別勤ニテ直ニ帰宅候事、
一今日本田三位ヨリ下着之土産トシテ重一組・取肴入二重物・煙草入三組・扇子壱箱・干鱈一折贈リ有之候、
右ハ上京之節御金弐百両余被下、三位ニ上階有之候御礼之訳也、

一六月十一日、朝五ツ過新在番嘉味田親方初テ見廻之儀昨日ヨリ承置キ候間、新納太郎左衛門同伴ニテ被参候例之通リ吸物三通リ・盃三献イタシ無程帰リ也、贈リ物モ毎之通リ也、

覚
御扇子　一箱
藤盆　十
十錦太碗　十
紺地島細上布　二端
縮緬紅白　二巻
白滑大綸子　一本
天青漢府緞子　一本
太白砂糖　一籠
焼酎砧　一双
以上、
嘉味田親方

一八ツ後御勝手方書役井上嘉左衛門・日置半兵衛当年御心付蔵方賦之吟味事有之、参候テ夕方帰リナリ、

一六月十三日、出勤毎之通リ、今日九ツ過八部位大暑入ニ付、大目付以上於御近習伺御機嫌申上、御広敷ヘモ

罷在上リ御同様申上置退出候事、

一今日暮前竪山武兵衛江戸ヨリ只今致着候トテ、玄喚(閑)迄見廻候テ被帰候也、

一六月十四日、出勤毎之通、今日竪山武兵衛出勤ニテ、毎之通三御役へ宰相様ヨリ御意難有承知仕候事也、

一退出ヨリ二之丸御式日ニ罷リ出、七ツ後毎之通リ被為入、大鐘時分相済ミ直ニ退席候事、

一今日指宿ヨリ暑中尋左之通申出候、

覚

一御肴　一折
一御酒　一樽

弐行料物壱貫五百文

一素麺　一折

料物壱貫文

一西瓜　三ツ

料物三百文

一紙袋　五ツ現

右御地頭様御方へ

一御肴　一折
一御酒　一樽

弐行料物壱貫二百文

一西瓜　三ツ

料物三百文

一玉子　壱台現

右御奥様御方へ

一御肴　一折
一御酒　一樽

弐行料物壱貫弐百文

一西瓜　三ツ

料物三百文

一玉子　壱台現

右御子様御相中江

合銭五貫八百文
金ニシテ三歩
大銭壱枚
小銭五十六文
〆玉子弐百
〆紙袋五ツ
右之通暑中御伺トシテ差上申候間、宜敷御取計奉頼候、
以上、
六月十四日　郷士年寄　寺田清太左衛門
指宿

覚
一鳥目五貫文
右御地頭様御方へ
一右同壱貫五百文
右御子様御相中
右ハ当春御地頭瀬挽トシテ、我々立会見分仕取得候魚
売払代銭ヲ以テ差上申候間、宜御披露奉頼候、以上、
浦役
午六月十四日　名前略ス、
一琉人與那原親方ハ此ノ内上国之節以来音信通融可致旨
申替シ置キ候ニ付、此節上国ニ茂別段土産トシテ拙者
父子ヘ左之通贈リ有之候也、

覚
御扇子　一箱
御吸物椀沈金　十
東道盆蒔絵　一
紺地島細上布　一端
紺島細上布　一端
水色縧綸　一端
花毯毯　一枚
以上、
與那原親方
一次郎四郎ヘ左之通、

覚

御扇子　一箱
蓋茶碗彩色　十
紺地島細上布　一端
山東紬　一端
白唐紙　一帖

以上、

與那原親方

一六月十五日、朝急雨、昼快晴、毎之通祇園祭礼有之おひせとの早朝ヨリ武之橋御かゝさま御誘引ニテ高橋家へ被参、お悦・彦熊ハ南泉院下へ見物ニ参リ候事、

一八ツ後ヨリ井上嘉左衛門・日置半兵衛蔵賦吟味ニ参リ候テ七ツ後帰リ候事、

一六月十六日、快晴、出勤、八ツ退出、夫ヨリ興国寺へ於鐵正忌日ニ付致墓参、七ツ過致帰宅候事、

一七ツ後比志島靜馬殿被参候テ、仁禮八郎左衛門先月廿七日西目・東目長崎御手当人数調練ニ不致出席段成行申出有之、甚不埒之体致シ形候旨申答置候、右ハ御家老座書役助之事候ヘハ、夫形難召置事ト内々存含罷在候事、

一六月十七日、昼之内都之城豊前殿奥方御見廻被成候由右ハ去ル十五日御出府被成、右ニ付十六日夕方ヨリお悦モ参リ夜入リ帰リ候、奥方ハ黒木屋敷無拠御方年回之法事有之、暫時被差越候由也、

一長崎へ
公儀御用船蒸気船乗付之惣督御旗本勝麟太郎殿ヨリ、去ル三日仕出之状并ニ蘭酒二瓶今日相届候事、

一翰拝呈、梅天後打続雨勝ニテ不揃之時候ニ御座候処、益御多祥被成御座珍重奉賀候、扨テ過日御城下へ罷出候節ハ、不相替御厚情被成下千万忝仕合奉存候、殊ニ出帆之砌ハ松節・御樽代御恵投被下御配慮不浅奉存候

其後山川湊へ一泊、天草同断、十九日夕刻崎着仕候、
然ル処前十三日ニ亜墨利加船一艘入津仕居、帰リ後彼
是多忙ニテ意外御無音申上候、又々亜船一艘入津、蘭
商船モ同断、甚港内船多相成申候、風説ニハ支那之戦
争漸ク和平ニ及候間、薪・水・食料ヲ乞ハンカ為、英
・佛・亜三国之軍艦廿艘余モ不遠入津イタシ申哉之儀
ニ御座候、乍然気遣候事ハ無之ト申事ニテ御座候、小
子五・六日中ヨリ少々不快平臥中相認メ乱毫不文御海
容奉希候、鳥渡過日之御礼申上度如斯御座候、以上、

六月三日　　勝　麟太郎
　　義邦

新納駿河様

尚々手元在合候蘭酒甚乍軽少拝呈仕リ候、御取捨被
下候ハヽ、大慶奉存候、再拝、

一六月廿日、当分磯江
御逗留之事候得共今朝
御帰殿ニテ、福昌寺・浄光明寺・南林寺へ御参詣被遊、
又磯へ直ニ
御出有之候也、

一六月二十一日、今朝興国寺へ役僧相頼ミ梅林様(新納忠光室)二百年
御回忌之御影(回)向イタシ候事、

一家老座書役助仁禮八郎左衛門事、先日之調練ニ不罷出
段不埒之致シ形ニ付、当務差免シ追テ支配頭前ヨリ相
当之取扱有之事ト存候也、

一六月二十二日、御軍役方書役(衍カ)書役勤永田與右衛門嫡子
直右衛門事、長々病気ニテ候処夜前致病死候由也、

一新在番嘉味田親方内証ヨリ之安否尋トシテ、桃餅一重
・工夫茶壱壺贈リ有之候事、

一六月廿三日、五ツ過福昌寺へ
慈照院様(島津重豪室)御忌日ニ付

太守様御代参
宰相様御代拝
但
御惣霊様江御代拝
着服麻袴
右之通相勤、夫ヨリ月香院・深固院・大興寺等へ自分致参詣、南林寺へ参詣イタシ九ツ過帰宅候事、

一都之城宗八郎殿事、嫡家四郎殿養子致内約置候へトモ、未表向一礼モ不申入候間、今日吉辰ニ付都之城へ肴一折・樽一荷差遣シ候、新納主税殿ヲ以テ末家中ヨリノ礼トシテ被参、彼之方ハ浪江殿へ出会ニ而申入置被呉候也、尤モ当分豊前殿奥方御出府被為居候ニ付、都合可宜トノ吟味ニ付テ也、

一六月二十四日、当分磯御逗留中ニテ、今日調練彼之方へ御呼出シ有之、悴次郎四郎等モ罷リ出七ツ半時分帰宅ニテ、首尾能ク有之候旨申聞候間、致安心罷在候、然ル処夜入五ツ時分、木脇嘉左衛門参リ、今日磯江御呼出シ人数御暇被下候時分、取馴候者共居残リ候様御沙汰有之候ニ付、書籍方人数并ニ兼テ小頭等相勤候面々残シ置候処、昼之内ヨリ　御茶屋前へ万年丸廻リ居リ、右之御船ニテ大砲打方可致旨御沙汰有之、前条人数配リ合セ打方之致手当居候処、直ニ
上様御乗込、且又周防殿・松壽院殿（島津斉宣女子）ナトモ御乗付有之、表頬之大砲三発ツ、沖江向ケ致打方候様　御沙汰ニテ其通リ打方イタシ候処、又内頬之大砲モ二発ツ、打方イタシ候様ニトノ御事ニ付、其通リ打方イタシ、終リノ一筒ニ成候節早鳴リイタシ、玉竿ノ田代助太夫海中へ落込、水面血アフレ候ニ付、一同驚キ則橋船へ引揚候処、右之腕付根ヨリ打切リ、左之手モ少々疵付、右之足ニモ火気相掛リ、大怪我イタシ居候ニ付、早速ヨリ養生方イタシ、只今宿元西田之様列越候段届申出、何共驚入次第、第一終リ之筒ニ成リ右次第、旁残念成

儀ト存候ヘトモ無致形、猶此上ノ養生方等入念候様申達シ置候事、

一川上筑後殿親父久馬殿事五・六日病気之処昨夕方死去今晩葬送之由ニ付見立トモ差遣シ候、右久馬殿事ハ以前御家老御城代迄被召仕候得トモ、御役御免ニテ隠居之人ニテ候事、

一六月廿五日、早朝田代助太夫へ左右聞キニ家来遣シ候処、先少シハ快キ様成モノニ候トノ旨承リ候事、

一今日七ツ時分北郷浪江殿、豊前殿ヨリノ使ヒニテ被参候訳ハ、一昨日此方ヨリ宗八郎殿貰受引結之為礼、肴・酒共遣シ主税殿被参候礼ニテ、彼之方ヨリモ鯛二枚・酒一荷被遣候、右ニ付則披キイタシ、挾肴一ツニテ祝之盃致取替候而暫時ニテ被帰候事、

一今晩モ田代助太夫左右承リ候処同様之旨ニテ候事、

一六月廿七日、今日東風吹出シ夕方ニ急雨等強、空色モ少シ悪ク懸念之事ナリ、夜中相成相応吹キ、暁暫時ハ甚敷雨也、

一当番頭之内若輩之面々不勘弁之楽書トモ被致候儀、先日ヨリ及吟味、既ニ今日何分申渡迄之間勤方差扣ニ相成候、人数第一桂小吉郎・川上主膳・島津掃部・川上源十郎・北郷作左衛門ト強弱之次第ニテ五人之事ナリ就中主膳殿ナト拙者モ続キ合ニテ甚タ込リ入タル事也

一六月廿八日、曇、東風終日雨モアリ、今早朝堀與左衛門参候テ、昨二十七日昼時分坊泊リ辺ヨリ山川迄之間、沖中三・四里又ハ五・六里之間之処、異国船西ヨリ東之方ヘ走セ行キ候段、夜前早打諸所ヨリ到着候ヘトモ、通船之向ニ見得候間、今朝取束申出候段被為聞候事、

一当分磯御逗留中ニ付、月次御礼触ナリ、且左衛門殿・矢五太夫殿事ハ出勤無之、決シテ実弟之桂小吉郎或ハ養子主膳引入ニ付テ遠慮之趣ニ存候事、

一夜入堀與左衛門参リ、異国船佐多尾波瀬前ニ致汐掛、

風ヨケイタシ居候段、早打相達シ候旨申出候間、則御軍賦役税所七郎左衛門・書役甲斐弥右衛門・唐通事召列差越候様申達候、右ハ万一汐掛リ之注進有之候ハヽ、右之人数差越候様申渡置キ候故也、

一夜入四ツ前木脇嘉左衛門参リ、今朝秋目之湊口ヘ蒸汽船壱艘漂来、碇ヲ卸シ候段注進有之候旨申出候ニ付、則坂元彦五郎・書役亀山甚介差越候様申達候、昨日方ヨリ東風・南風段々吹詰騒々敷天気故、風ヨケカト存候、乍然何分御面働成事ニテ候也、

一先日勝氏被遣候状之返答今日差シ出シ置キ候事、

不存寄御細簡被下難有拝見仕候、炎暑之砌御座候ヘトモ、弥以テ御安泰被為成御奉職、珍重御儀奉存候、此内ハ不計奉拝尊顔始終御懇命被成下、誠ニ以テ難有奉存候、当地ハ遠境殊更不調法而已御座候処、折柄其節ハ連雨ニテ、御奔走旁甚タ恐入候時宜合御座候ヘトモ、万端御懇意之御事ニテ、主人大慶之至ニ御座候、御帰帆御都合能ク御着崎重畳恐悦奉存候、其後亜・蘭等之船々入津ニテ何角ト御繁用可被成御座、尤モ風説ニハ支那戦争及和平、此末猶諸所夷船之多数艘可渡来哉ト之事ニモ御座候由、シカシナガラ如貴諭欠乏之品々乞受之為ニモ候得ハ、決テ異儀ハ有之間敷哉ト奉存候、乍去彼是御多繁ニモ可被成御座候処、被懸芳慮御懇書殊ニ蘭酒二瓶御恵投被下、重畳御厚意ニ御取扱、誠ニ以難有次第、幾重ニモ奉拝謝度、且御答礼申上度旁如此御座候、恐惶謹言、

六月廿八日　　新納駿河久仰判

勝　麟太郎様

追啓仕候、御帰帆後当地ヨリ為伝習方数人被差出、且ハ主用向品々御手厚御世話被成下候段追々承知仕候、誠ニ以テ難有次第、此上モ猶又諸篇御指図被成下候様御頼申上、且ハ是迄テ之御礼ヲモ申上置度、将又別テ麁品ニハ候ヘトモ茶壺二不取敢御書音申上候印迄拝呈仕候、御笑納被下置候様奉願候、此等之段申上度奉追

啓候、

一六月二十九日、夜前中終夜吹降リ且ハ少シツ、止間モ有之、今朝ハ横通シニ相成騒々敷風也、異国船佐多并ニ秋目共未滞船之様子也、

一夜半時分佐多之異船三艘トモ夜前深更致出帆、東之方ヘ走行候様相見得、且又秋目之壱艘モ、今朝四ツ時分東之方ヘ向致出帆候様相見得候段、追々相達候テ致安心候事、尤右之成行当分磯ヘ御逗留ニ付、時々御届申上置候事、

一先日於磯致怪我候田代助太夫事、折角致養生候ヘトモ終不相叶、今日八ツ前相果候由、八ツ後家来遣シ候節承候事、

一今夜中相成風和キ候事、

一七月朔日、今朝静之天気相成、気候モ南風ニテ宜敷候、今日モ磯ヘ御滞在ニ付御出座不被為　在候事、

一夕方新納三次并ニ四郎殿家来大工鎌倉次郎太参リ候テ三躰堂村ヘ四郎殿住居造立之絵図吟味旁イタシ候、尤三次ナト明日ヨリ三躰堂ヘ御見廻差越候筈也、仍而拙者ヨリ干肴百余・葉昆布・刻昆布之三品取合、代金壱歩弐朱文取入レ為致、且島焼酎四拾盃入壱壺・島晒五反御家内五人之衆ヘ致進覧候、島晒ハ壱反代銭三貫文宛ニテ候、直成迄モ記シ置キ、如何敷事候ヘトモ為見合記シ置也、

一お悦事七ツ後ヨリ都之城ヘ参リ夜入四ツ過帰リ候、御隠居奥方明日御打立被成候ニ付テナリ、

一今日佐土原ヨリ左之通相届候、

一筆啓上仕候、然ハ貴殿様ヘ淡路守為御見舞粕漬鰷一桶・酒一樽可致進覧旨被申付越候ニ付、此節差上申候、右之段為可申上如斯御座候趣キ、宜預御心得候、恐惶謹言、

新納　亘

六月廿四日　　久秀判
伊集院相馬　久悠判
山田　靱負　清輝判
酒勾　求馬　景命判

新納駿河様
参御用達衆中

一筆啓上仕候、雖甚暑之節
御座候、貴殿様愈御勇健可被成御座候、珍重奉存候、
暑中御見舞為可申上如斯御座候趣、宜預御心得候、誠
恐惶謹言、

六月廿四日　　新納　亘
久秀判
伊集院相馬
久悠判
山田　靱負
清輝判
酒勾　求馬

景命判

新駿河様
参御用達衆中

右之通相達候、佐土原書面之儀ハ定式ニテ候間、此内
モ折々往来有之候ヘトモ留略イタシ候事、

一七月二日、兼テ
上様御染筆頂戴仕度奉願置候処、今日御側役町田主馬
御取次ヲ以テ拝領被仰付、御小納戸山田宗右衛門等証
文ヲ以被成下、難有頂戴仕候事、

試筆　　左少将源齊彬

谷のほる日かけも
けさはあら玉の
としゆたかなる
春のはつかせ

覚

御筆御懐紙谷のぼる　一枚

右従

齊彬公拝領被

仰付候、仍証書如件

安政五年午七月二日　山田壮右衛門印（ママ）（花押）

新納駿河殿

右之通拝領被仰付候儀モ、左衛門殿ニモ同様ニテ、一所ニ御側役御取次ニテ難有奉存候段御礼申上置候事、

但

右之御染筆拝領之事ハ、本文通リ兼テ奉願置候得トモ　御在世中不被為整、実ハ　御逝去後七月廿二日拝領被仰付、左衛門殿共々殊更御形見ト奉存候ヘハ、落涙袖ニ余リ忍兼頂戴仕候事也、

一七月四日、先月末之中急今日被差立候間、御用筋取扱相仕廻九ツ過退出、夫ヨリ磯ヘ罷出候、尤今以御逗留中ニテ今日ハ横目・蔵方目付并ニ水軍方人数被召出候ニ付、先日ヨリ承知之訳モ有之候間右之通罷出候、大目付川上龍衛殿ニハ四ツ前ヨリ被罷出居候、今日両見聞役惣人数九拾人位ニテ、致稽古候人数七十人余ニテ、水軍方人数ハ無残程罷出候、太体之都合ニテ間々雨モ降候ヘトモ、大鐘時分惣テ相済候、拙者并ニ龍衛殿ハ御庭内　御前ニ被為居候御側ニ罷出居、段々　御沙汰之趣モ承知仕候、左候テ相済候節ハ拙者并ニ龍衛殿直ニ御跡ヨリ大奥ヘ被為召候テ、御茶・御煙草盆・素麺共被下候間、暫時ハ御前ヘ罷在右之御品共難有頂戴仕候、左候テ団扇五本モ龍衛殿・拙者ヘ被下候、是ハ先日大迫ヨリ相届候御品之由承知仕候、当分　御逗留中大奥相立居候ニ付、何事モ御年寄花野或ハお須广ナト取廻シニテ段々難有被仰付候間、右之面々ヘ相付御礼申上退席、直ニ御暇イタシ夕方帰宅候事、

一今夜入左之通被仰付候、

交御肴　一籠

右ハ今日引網ニテ御得漁之御肴、右之通リ御内々被下候ニ付、為持差上候間御頂戴可被成候、以上、

七月四日

追テ御礼之儀御取合申上置候ニ付、別段被仰上ニ及不申候、此段モ申上候、以上、

磯詰
竪山　八郎

駿河様

〆

右之通頂戴被仰付難有次第ニ付、御受書相応相調差出置、左候テ御肴ハ則料理イタシ家内中相揃頂戴仕候事、

但

御肴ハ数七ツニテ候事、

一七月五日、五ツ過前出宅福昌寺へ
(島津重年)
圓徳院様御施我鬼ニ付
太守様御代参

但

着服長袴

右之通相勤候、左候テ御霊膳下被差出候間致頂戴、別勤ニテ直ニ帰宅候事、

一七月六日、七ツ後與那原親方別段内証ニテ見廻有之候間、拙者父子致面会候、暫時罷在帰リ也、

一七夕、晴天南風、昨夕方ヨリ追々晴上リ其以前ハ連雨ニテ候、今朝五ツ過出勤、

上様昨夕方磯ヨリ御帰殿被為在、今日例之通リ　御出座ニテ御祝儀有之、九ツ過退出也、

一七月八日、晴天夜前至極冷気也、今朝五ツ打直ニ出宅、調練場へ出候(衍カ)候、今日五番・六番之惣人数調練、

御覗ニ付テナリ、四ツ時御供揃ニテ被為入直ニ相初リ、八ツ過時分調練ハ首尾能相済候、夫ヨ

リ八十封度・三十六封度・十八封度之三挺台場へ居付ニテ、上瀬ヲ目当ニイタシ五発ツ、打方被仰付、弾着彼是委敷

御覧被遊候、其内始終御側へ拙者并ニ田中仁右衛門ハ罷出居候様

御沙汰有之、訳テ今日ハ御手当筋旁難有御沙汰承知仕候テ、七ツ半時分相済、直ニ　御立同所ヨリ御乗船、

御釣リ被遊候間拙者トモハ直ニ退席、当分ハ左衛門殿出勤無之、伊織殿拝見被罷出、大目付主水殿詰也、

一帰宅後市來正之丞明日江戸へ出立ニ付キ暇乞且御用筋有之参リ、暫時ニテ帰リ也、市來へ肴料金二百疋・唐扇子壱箱・紺地島細上布壱反・練蕉布壱反為餞別差遣シ候事、

一七月九日、晴天南風、今朝五ツ過出勤、今日王子始参府之琉人初テ登

城、御目見得被仰付候間右之通ナリ、四ツ打出シ琉球館出立有之、手都合イタシ置候ニ付右之時刻ニ大目付以上互連立之前ニ参リ、御屏之上ヨリ致見物候、琉人登

城相揃候節、杉ノ間ニテ伯耆殿・拙者一所ニ王子へ面会致挨拶候、九ツ打直ニ

御対面所へ御出座、王子始都テ

御目見被仰付候間、拙者御先立相勤候、御引入リ後於敷舞台謁御家老、王子以下都テ

宰相様江之御祝儀等有之、其後王子以下退散八ツ前ニテ候、拙者八ツ退出ヨリ二之丸調練ニ罷出候、今日モ横目・蔵方目付被召出、大目付織部殿前以ヨリ出席被致居候、然処今日之

上様少々御腹痛等被為　在候ニ付

御出不被遊トノ旨御小納戸ヲ以承知仕候間、毎之通為致稽古七ツ過相済候間、直ニイツレモ退席候事、

一今日璞心院様（新納久敬室）御三回忌被為当候得共、王子登城　旁ニテ差支候間明日ニ差延置候事、

一今日王子始一同見廻、且贈リ物等多々有之左之通也、

一七月十日、五ツ時福昌寺へ、

廣大院様

大慈院様御忌日

慈德院様御正忌日ニ付

太守様御代参

宰相様御代拝

但

御惣霊様へ御代拝

着服麻袴

右之通相勤左候テ

慈德院様御正忌日ニ付御霊膳下頂戴イタシ直ニ罷立、

夫ヨリ興国寺ニテ

璞心院様御三回忌致執行、早朝ヨリ次郎四郎并ニ用頼

役人等差越相詰居候間、拙者モ致参詣　御牌前并ニ御

墓所へ拝礼仕廻直ニ致帰宅候事、

一八ツ後七ツ後ヨリ追々左之人数等相招酒・飯共一通リ

振廻候、

二階堂源太夫殿　島津仁十郎殿

新納　衛守殿　二階堂　蔀殿

伊集院周右衛門殿　新納伊十郎殿

新納四郎右衛門殿　伊地知小十郎殿

新納彌太右衛門殿　東郷　一介

平田八郎太　新納喜藤太

伊地知德四郎　長野　源助

林仲之丞　伊東茂右衛門

田代太郎太

およしとの・お熊との・おとき殿ナト被参候テ

イツレモ夜入リ五ツ過迄ニ追々被帰候事、

一右之人数其外ヨリモ野菜・まんちう其外志シ品色々送

リ有之候ニ付、此方ヨリ右人数来入無構菓子一重ツ、

遣シ候事、

一七月十一日、夜前深更ヨリ東風追々強相成雨ハ少ク候ヘトモ、今朝相応ニテ屏廻リ等木張ナト為致候位ノ風ナリ、

一今日出勤、八ツ退出

上様一昨日ヨリ少々御下痢之御塩梅ニテ、昨日ヨリ表江モ不被為　入御不例被為在候御事之由也、

一今日モ終日東風相応ニテ、雨ハ小降リ候ヘトモ風并一向不相替屋根廻リ屏ナト致用心候位也、今夜深更ニ成リ余程和ラキ候事、

一琉人ヨリ到来之品々之内、伊地知仁兵衛江当年琉球掛リニ付、紺地島細上布壱反・毛セン壱枚・練蕉布・徳之島織壱反・氷砂糖一重・泡盛一瓶取合今日遣シ候事

一七月十二日、夜前ハ風モ余程和ラキ居候ヘトモ今朝又々相応ニ成リ候、然トモ昨日ヨリハ和ラキカノ方ニ相成候事、

一今日出勤　上様御様体奉伺候処少々ハ御快方之由、一昨日ハ昼夜ニ三十度カ御下シニテ、昨日ハ四十壱度カ御下シ、始終血ナメ交(トカ)リニテ、御熱気モ夫ニ応シ被為在候得トモ、今朝ニ成リ候テハ何篇少シ御軽キ方被為(趣)赴候段奉伺候事、

一今日九ツ時分ヨリ二之丸御宝蔵ヘ差越シ候、御用ハ屋根之内少々シメリ候処相見得、雨洩リニテモ可有之吟味ニテ、明ケ改メ不致候テハ程合モ不相知候ニ付、御側役・御趣法方掛リ御用人・御納戸奉行等出会開キ方イタシ候処、御二階板敷江(原書ニ「ニゴリ」ナシ)ハドクヅシ虫多ク相見得、大極柱ノ根ニハ土ヲ壱尺五六寸位モ持立居諸所ニ巣作リイタシ居候、右御蔵当四月開キ方イタシ候節迄ハ左様之儀全ク無之、当夏中ニ右之通リ這出候筋ニ見得、存外之次第ナリ、就テハ御格護金御蔵直シイタシ、イツレ得ト致改方御修覆ニモ不相成候テハ不叶成行キニ見得及候事ナリ、右御蔵ハ纔十年位以前桧材木大坂切込之御新造ニテ、一棟千両余モ御入価ニ及ヒ結構成事無比類、御同様之御蔵玉里江一棟并ニ此一棟ニテ外ニ

無之、五十年モ御修覆ニ不及ト大坂大工トモ受合之御蔵之由候処、玉里御蔵モ此内大虫付相成、当春ヨリ御立替ニ相成候、右之玉里御蔵ハ此御蔵ヨリモ虫多ク生シ候、御小納戸方御秘蔵ノ品々ニモ虫付有之、御役々差扣トモ申上候位ノ事ニテ候由、右ハ地突之節地所ノ仕向ニテ土中ニ松ノ材木ヲ突込其上石堅ニテ候由、右之松ヨリ生シ候半、兎角土地ニ応シ候仕様ニ無之候得ハナランモノカト申合候事ナリ、此蔵モ御立替ニ不相成候テハ叶間敷吟味ニ及候事也、

一八ツ後伊集院周右衛門被参

上様之御様体得ト被相伺候処、追々御快方被為成候段被申聞、先ハ難有事ト奉存居候也、

一夕方相成又々風雨少シ辰巳ニ成リ、今朝ヨリモ少シ強ク今晩モ同断之吹降リニテ候事、

一七月十三日、夜前中矢張吹降リ今朝モ辰巳之風相応ナリ、乍去居宅雨戸惣占ニハ不及候位之事也、

一今朝四ツ前伊集院周右衛門被参、早朝ヨリ大奥ヘ罷上リ　御様体御年寄ナトヘ相付奉伺候処、昨日ハ以前ヨリモ昼夜之御度数四・五度ハ御減シ御熱気モ追々御サメ之方被為成、何篇御快方ニ被為　在候段被申聞難有次第ニ奉存候、尤右程之

御煩ニ被為在候間、御内々伺御機嫌之儀、御年寄迄宜敷御取成給候様被申入置度頼入候首尾モ被申聞候事也、

一今日出勤、八ツ退出、終日東風雨ナリ、誠ニ長々敷風ニテ一同込リ入リ、屋根廻リ等皆用心イタシ候事共也、

一七月十四日、今朝雨ハ細候ヘトモ風不和候、四時南林寺徳豊殿ヘ

太守様御代参

但

着服麻袴

右之通相勤、自分墓参リ等不相調位天気ニテ直ニ帰宅イタシ候事、

一九ツ時分伊集院周右衛門被参候テ、夜前今朝之御様体大奥ヘ罷上リ得ト奉伺候処、御度数ハ追々相減シ御快法之様体候ヘトモ、御労倦ハ余程御見得被遊候由、御年寄ナト被申聞候トノ段細々被為伺候事、

一夕方御小納戸伊集院周八被参候テ、御病体且ハ諸事ノ御成行細々被為伺、乍恐奉配念候御事也、

一今夕墓所ヘ燈炉等燈候方相調候丈ニ無之、乍去夜入追々風モ和ラキ雨モ深更ニハ止、月モ出候事也、

一七月十五日、朝頓ト止ミ至テ静ニ成皆人喜悦イタシ候追々快晴之空色ニ相成候、

一今朝五時分伊集院周右衛門被参、早朝ヨリ大奥ヘ罷上リ御様体奉伺候処、御度数ハ余程御減シ昨昼十五度夜八度位之御事ニテ、御食事モ此内ハ一度ニ三十目ヨリ内之御上リニテ、実ハ弐拾目ニモ不及位之御事候処、昨昼夜余程御進ミ被遊御快方被為入候由、乍去御脈状ハ至極御ワルク、中ニモ御左リハ至テ御沈ニテ恐入候御事ニ被為在候段、御医師ヨリ伺上候旨被申聞候間、何共当惑之至奉存候、何レ拙者ニモ追付大奥御次迄成リト罷上リ、奉伺候様可致ト互ニ致心痛、御側役竪山武兵衛事此間ヨリ病気ニテ出勤無之候間、彼之方ヘ周右衛門被参候テ委敷御様体為伺被置候様申達置候事、

一四ツ前出宅大奥ヘ罷上リ、御年寄ヘ面会御様体細々奉伺候処、実ハ弥以奉恐入御事ニ被為在候間、暫時罷在九ツ前ヨリ御座ヘ罷出、月番之登殿并ニ奥掛書役等ヘハ以前ヨリ掛合置候テ、則同席中ヘモ御様体内々致吹聴置候筋旁早々之申談イタシ、九ツ半時時分(衍カ)退出、夫ヨリ畠山家ヘ御牌参、興国寺・大興寺江急キ御墓参イタシ、八ツ半時分致帰宅候事、

一同刻伊集院周右衛門被参候、御様体之事ニ付テナリ、暫時ニテ被帰候、弥以当惑之御事也、仍テ此上ハ神仏ニ奉祈外無之、帰宅早々左之通南林寺住持ヘ頼ミ遣シ候事、

一今日モ無御障被成御寺務珍重奉存候、然レハ昨日

御代参ノ節粗御咄イタシ置候通リ
上様御痢病御度数ハ余度御減シ被為成候御事ナカラ、
御労倦ハ日ニ増御重ミ被遊、昨日方ヨリ夜前今朝迄之
処至極之御労倦様ニ被為入、御食事モ至テ御不進ニ被
為在候段奉伺、何共奉配念候御事ニ被為在申候間、極
御内々ニテ大中様(島津貴久)ヘ御祈願申上度御座候間、何トソ御
薬力御相応ニテ御速ニ御平快被遊候処御願申上被下度
奉頼候、此儀我々御役場ニテ申上候事共ニハ全無之、
御高恩之私式御座候間、左様御心得被成、此節之儀ハ
偏ニ御精力之限リ御祈祷御勤被為候処御頼申入候、右
ニ付御燈明且ハ伴僧等ヘ御賄方之儀モ可有之賦ニ付、
御香奠金五百疋差上申候、軽少ナガラ御当用迄ニ御座
候、此段早々申上候、以上、

七月十五日　　新納駿河

南林寺
仁山老大

追テ今昼之内ニハ御見廻先祖ヘノ御回向トモ被成下
候段忝存シ候、乍序御礼モ厚申上候、
一今晩五ツ過伊集院周右衛門被参、只今御殿ヨリ帰リ掛
ニテ候、御様体奉伺候処御下シハ弥以御少ク、殊ニ壱
度トモハ御本弁(便)ニテ、御上リモ今日ハ百七十五匁位之
御事ニテ、至極右之御二廉ハ御宜敷方ニ被為在候ヘト
モ、御脈状ニ付テハ返テ少シ御劣リニ被為入候段、朝
稲三益ヨリ承リ候、左候テ御用部屋ヘ罷リ出見候処山
口直記泊リ番ニテ相勤居、右之御成行故、御側役中并
ニ御側廻リ御役々モ罷出奉伺御機嫌候様申遣置候由ニ
付早々拙者ヘモ成行申聞候、乍去早速登　城ニモ及間
敷哉之旨承リ候間、先夫形リ罷居候、乍去何共当惑ノ
御事、只ニハ難罷居奉恐入候事也、
一右之御形行ニテトウモ夫形ニモ難罷居候間、書役長野
彦七召呼九ツ過比御用部屋迄伺ニ差出候処、宵之間ハ
御側役始御納戸奉行以下段々罷出候ヘトモ、押通御平
和之方ニ被為在候間、一同退出イタシ、最早御側役直
記老人相招(扣カ)居候、此上御模様御替リモ被為在候ハヽ則

可申遣トノ事ニテ、八ツ過彦七御殿ヨリ帰リ首尾申聞候間、先ツ少シナカラモ難有奉存居候事、

右之通リニ付休居候処、暁大鐘過キ山口直記ヨリ一封相達シ候間早々押シ開キ候処

太守様御不例御太切之段奥医師ヨリ申出候ニ付此段申上候、以上、

七月十五日　　山口直記

新納駿河殿

〆

右之趣ニ付早々罷出候支度イタシ居候処、伊集院周右衛門ニモ被参、彼之方ヘモ直記ヨリ申遣シ候間早々罷出候トノ事ニテ立寄有之候間、トモニ馬ニ打乗リ急キ候テ六ツ前

御殿迄罷リ出候処、御楼門辺迄亦々触番走リ迎ヒ、早々罷リ出候様トノ事候旨承リ候間、猶又急キ御家老座近ク罷リ出候処、廊下ニテ直ニ御寝所ヘ罷リ通リ候様承リ候間其通リ急キ罷リ出候処、前方私儀御尋モ被為在候由誠ニ以難有儀ニテ、則　御身辺ヘ罷リ出御通シ申上候得トモ、中々御意被為在候御様体ニ不被為在、極々御太切ノ砌リニテ、残念千万無此上遺憾之至リ奉存候、尤モ御究リニハ不被為成御事ニ付、ヒタト御側江暫時罷在御伺申上候処、追々奉恐入御様体被成為(ママ)丁度六ツ時分奉絶言語候御事ニ被為在候、今夜御太切ニ被為成候御模様之前八ツ時分ニテモ候哉、(島津久光)周防殿ハ御沙汰被為在候ニ付、御小納戸両人駆付申上候テ則御登城被成、其後大鐘時分カ左衛門殿其次登殿被罷出候由、拙者方ハ問合之触番間違遅成候段跡以承リ猶更遺憾之儀ニテ候、然ル処今宵之内山田壮右衛門ヘ此節之御病気ハ太切ニ被　思召上候間、万一ノ御事共被為在候ハ、御跡職之事ハ(島津忠義)又次郎殿御養子被遊度候旨ヲ第一ニテ数ケ条明日モ左衛門・駿河ヘ可申聞候間、其方モ承リ居、其方ヨリモ可申聞旨　御沙汰被遊置候段、イマタ御究リ無之内、左衛門殿・私・竪山武兵衛御一間ヘ相揃承知仕奉恐入御受申上候事也、

一御太切之御様体ニ付猶又段々御手当モ差上候ヘトモ、御薬功無之奉恐入候御様体之段御医師中ヨリ申出候、其節ハ大目付以上一同罷リ出居候間、先一往詰座ヘ相下リ候様可然旨御側役ヘ申出置、何レモ六半時分御寝所退席仕、詰席ヘ罷出則ヨリ右之御用ニ取リ付奉恐入候御事也、

一七月十六日、快晴暑気強ク今暁ヨリ詰通シナリ、今日則御不例之伺御機嫌諸向一同申上候様申渡、八ツ後迄掛リ諸触モ(ママ)イタシ、且又江戸ヘ今日則極々急飛脚差立長崎ヘモ掛合トモ申遣シ大混雑イタシ、大鐘過退出イタシ候、右江戸ヘ差立候極々急便ヨリ豊後殿ヘ一封差遣シ候事、

一七月十七日、五ツ前出宅、福昌寺ヘ左衛門殿・伯耆殿・登殿・伊織殿相揃、御側役竪山武兵衛、御趣法方掛福崎助八・中村新助、寺社奉行ハ三人共、尤御作事奉行等　御廟所致見分候処、明キ地無之、乍去

(島津継豊室)浄岸院様御脇

(島津宗信)慈徳院様御後ニ明キ地有之、此所至極可御宜敷ト相決シ、則只今ヨリ御地面取拵ニ取付候様向々ヘ内達イタシ候、左候テ御位牌殿モ御差詰リ、最早御一方様トテモ御居リ不被為叶候ニ付、是亦何様有之可然哉致拝見及吟味候処、纔五尺位御仏檀(壇カ)末之方廊下通御取込ニテ御仏壇仕調、御婦人様方御譲リ合ニニテ(衍カ)、此節之御新霊様ハ頭之方御順之処ニ被為　入候ヘハ御都合宜敷候ニ付、其通リ取付有之候様御作事方等江致内達置、惣体之

御廟所等茂為見合致見分、四ツ時分引取、夫ヨリ一同出勤イタシ、夜入四ツ半時分退出イタシ候事、

一今日御入棺被遊候ニ付、御仕廻シノ上大目付以上　御目見被仰付、左候テ直ニ　御入棺之筈候ヘトモ御仕廻引続ニテハ御都合不宜候間、其砌ヲ以御仕廻前御寝之所ニテ御目見被仰付候旨、御側役ヨリ致承知、

一同相揃罷通候処、矢張
御寝所へ御病体様ニテ被遊御座
御頭北ニ御直シ、御側ニ山田壯右衛門ヒタト付上、其
外御側向ハ少シ引退キ多人数相詰居、鳥渡拝シ上候処、
誠ニ以
御存生ニ違ヒ御サヒシキ御様体奉恐入御事ニテ、只々
頭モヒシト下リ落涙難忍、這コトクニテ罷下リ、直ニ
三役共一往ハ詰所江引取候、左候テ
御入棺被為済、御鎖占リ切封ハ御家老両人之合封御先
例ニ付、御仕廻宜敷節御側役ヨリシラセ有之候様申置
候処、五ツ半時分御都宜敷(合脱カ)段承リ候ニ付、則チ登殿拙
者罷出
御棺之御前後ニ御鎖占リ有之、夫ニ相切封差上候テ直
ニ退席仕候、其
御棺之外今一重桶箱御入ニテ其御切封ハ御側役之由、
夫等之御仕廻被為済候上、表御休息所江御直リ御棺廻
リ御取立之上、福昌寺住持始伴僧七・八人召列罷出勤
行有之、右相済候節四ツ過時分又々左衛門殿・登殿・
拙者罷出　御拝仕候、伯耆殿・伊織殿ハ早目ニ御暇被
致候故也、
一右御入棺之節始終共周防殿(島津久光)御詰被為大奥へハ松壽院殿(島津斉宣女子)
等モ御詰之由也、
一今日ノ御手当ハ無滞相調候、昨今日之御繁雑私式胸中
中々紙上ニ難尽次第ニテ候、
御存生中モ御用筋大小事トモ御残シナク被仰聞候御事
共ハ、訳テ難有御都合ニテ、十五日夜山田壯右衛門ヲ
以段々　御遺言被仰置候次第、旁以何共紙上等ニハ難
尽愁苦奉恐入候御事ニテ候、此旨乍恐モ後之見合ニ記
シ置也、
一御逝去ニ付テハ御側役ヲ以
宰相様(島津斉興)・御前様ヘモ申上相成候御先例、且御跡職御願
等ニ付テハ、御家老被差立候御先例ニ付、段々及吟味
御側役ハ山口直記、御家老ハ伯耆殿被差越度、尤周防
殿昨今日共御家老座ヘ御出席被成候ニ付、都テ御相談

申上候テ相決シ、其通ノ御手当ニテ、直記ハ明十八日、伯耆殿ハ明後十九日被差立候筋ニ致決定候事、

一七月十八日、早朝南林寺仁山被参候、先日御祈願相頼候首尾合旁ニテ暫時ナリ、続テ岩山八郎太参候、是ハ明日伯耆殿ヘ相付江戸ヘ差越候ニ付、段々御内用有之至極及長談候事、

一四ツ時出勤、夜入四ツ過退出候事、

一今日王子始詰合琉人并ニ着座門首以下諸士・諸組与力迄御太切之伺御機嫌有之、諸士ハ敷舞台ヨリ山吹之間ヘ掛至極込ミ合候テ、ヤウ〳〵四ツ計ニテ相済候程多人数罷出候、是程罷出候事ハ

御初入部涯初テ　御出座之外ニハ無之事ニテ、人情相察シ難忍次第ニ候事、

一御跡職（島津忠義）又次郎殿ヘ御願立

哲丸様（島津斉彬男子）御順養子御願之儀、御遺言之通リ御願書取仕立方等段々吟味事不容易御用筋多、終日及心配候事也、

尤右之御願書伯耆殿御使ニテ被差出候ニ付、御同断之儀前以

宰相様（島津斉興）ヘ伺之次第彼レ是大取込仕候事、

一御逝去ニ付頭屋能（ママ）モ差留相成リ、且又櫻島踊モ近在引続之事候得共、当年ハ天気悪敷渡海不相調十六日ニ差延相成居候得共、是又則差留ニテ候事、

一諸座書役其外ヘモ例年之御心付蔵方名代勤之儀此内取シラヘ

御前ヘ差上置候得共、御取込ニテイマダ不被相下御逝去ニ付、夫ナリニテ御側役ヨリ被相下候ニ付、前方取シラベ之節同席中ヘモ及相談相決シ候儀故、則シラヘ通リ申渡之筋相決シ、昨今日ニ都テ申渡シ相成リ候事、

一今日ヨリ御滞棺中毎日大目付以上拝礼之儀奉願其通被仰付候事、

一今日山口直記被差立候ニ付、御用筋細々

上之間ニテ同席中相揃申達、引続

宰相様其外様ヘノ伺御機嫌申上候事、

一七月十九日、今朝伯耆殿出立ニ付、琉人贈リ品之内扇子一箱・火炉一ツ大形・藤縁菓子皿十並ニ岩山八郎太ヘモ扇子一箱・紺地島細上布一反・金子二百疋取リ合セ差遣シ候事、

一伯耆殿在旅中地頭所志布志拙者預リ候事、

一今日四ツ時出勤、段々御用筋取込候ヘトモ七ツ半時分退出候事、

一退出後山田宗右衛(壮カ)門被参、御内用談且御遺言之趣等ニ付テハ段々重キ申談事有之、夜入五ツ半時分被帰候事、

一七月二十日、五ツ過出勤、日入時分退出候事、

一今日鹿之間格ヲ以テ於御家老座左之通被仰付候事、

新納駿河

右ハ

太守様(島津斉彬)御逝去ニ付御用掛被仰付候、

七月　登

右之通被仰付候間、毎之通御受御礼申出置候事、

一今日御逝去之御弘メ相成候ニ付、御一門方始月次御礼罷出候面々只今登

城申渡、被相揃候節於席々

太守様御事此内ヨリ御不例之処今朝卯之刻被遊御逝去候、右ニ付テハ御跡職之儀島津又次郎(忠義)殿御事暐姫様(島津斉彬女子)ヘ御聟養子ニテ

若殿様ニハ御順養子可被遊旨

御遺言被遊置候段、口達ニテ拙者ヨリ申達候、則伺御機嫌之謁モイタシ候事也、

一今日御逝去之御弘ニ付極々急飛脚海陸二手差立候ニ付段々問合ハ無申迄モ別段私ノ問合モ豊後殿・永江休之丞江差越シ候事、

今般御大変御出来誠ニ不容易御用筋左之通申上候、

一此節之御病気追日御労倦御増被遊候ニ付、至極御配慮被遊候筋ニテ、若哉

御急変御到来モ候ハヽ、御跡職之事ハ若殿(哲丸)様被遊御座候ヘトモ、誠ニ御幼少様ニテ当時外寇之憂第一之砌ニ

付、何分ニモ御国役御政事難被為整ニ付テハ、又次郎殿御聟養子被遊
若殿様ニハ御順養子ニ被遊度
思召候間、其段
宰相様へ申上御願立相成候様、左衞門・私・堅山武兵衞へ被仰付、何共奉恐入候御事ニ御座候、乍然御趣意ニ付テハ御尤様之御事、兎角左様無之候テハ何分ニモ御国役不被為整御時宜合ニ付、此節ニ相成候テハ
御遺言之通リ御願書御取立、伯耆へ御使被仰付昨十九日被差立申候ニ付、差急キ出府之賦ニ御座候、就テハ
右之通
御遺言之趣キ此節初テ奉承知候御事ニモ無之、此内
虎壽丸様御夭亡（島津斉彬男子）
御下国御暇之御模様被為在候時分、御仮養子御治定之砌ヨリ右之
思召ハ承知仕、其後モ度々承知仕居、イツレノ筋当時外寇之一条不容易御時節ニ付テハ、御手ツカラ御差図被遊候御方様ニテ無之候テハ御国役不被為叶御訳ニ付何トソ無御滞御願書之通リ被為運候所、只管貴所ニモ御差ハマリ御精勤被成度、左候テ
宰相様御介助被為遊候御儀乍恐呉々奉願候次第ニ御座候間、此段訳テ申上越候、幾重ニモ此節之御願意ハ無御滞被為運候様御精勉御頼申上候、
一御願之通リ御跡職被　仰出候ニ付テハ
又次郎殿五拾日御忌服御受被成則御出府ニテ、御相続之儀御承知可被成御事ハ勿論、其御一首尾多端御大礼可被為在、就テハ何事モ
公辺他所へ相掛候御用向ニテ、御家老モ第一他所向取馴居候者ニテ無之候得ハ不被為叶一大事ノ御事ト奉存候間、右之御一首尾相済申迄之間ハ豐後事御地へ被召置被下度奉願候間、同人事
宰相様御下向御供被仰付置候ニ付テハ、御道中御用モ可被為在儀ニ付難奉願訳合ニ御座候得共、今般之御大変御到来ニテ御相続之御一首尾ハ右之通

公辺他所へ相掛候御用筋ニ付、タトヘ豐後殿事御当地へ被罷在候テモ兎角此人へ出府被仰付候様奉願度事ニ候得ハ、是非ニ御供之儀ハ余人へ被仰付、豐後殿ハ在府被仰付置被下候様、呉々奉願候段何トソ御配慮ヲ以宜敷御取成御頼申上候、

右両条誠ニ御大変御到来ニテ御跡職之儀ハ御遺言之通リ被仰出、豐後殿出府之儀モ何トソ私共心願之通リ被仰付被下候様、幾重ニモ奉願候段、偏ニ御差ハマリ御精勉被成候所奉頼候、此段遮テ申上越候、以上、

七月廿日　　新納駿河

永江休之丞殿

猶々本文之趣伯耆殿出府之上被奉願筈候ヘトモ、其内早々申上越候間、何分ニモ宜敷様御配慮被成、是非両条トモ其通リ被仰付候様御取計御頼申上候、左候テ御供御家老且又交代等之儀ハ何様トモ宰相様思召次第被仰付被下候様奉願候、

別紙

御内用筋申上越候ニ付一筆致啓上候、時分柄候ヘトモ、先以

宰相様弥御機嫌能被遊御座恐悦御同意奉存候、於御当地今般之御凶事誠ニ当惑之至リ絶言語候段御同苦之事ニ御座候、先日ヨリ飛脚モ度々差立候ニ付彼是申上度尤此上ハ一涯

宰相様御下国昼夜奉待上候段申上越度存ナガラ、中々当惑イタシ筆モ取得不申痛心之事ハ申テモ難尽奉存候就テハ御内用筋別封之通申上越候間、何トソ両条トモ私共心願之通

宰相様御聞済被下無御滞被為運候様、呉々御精勤御頼ミ申上候、其外之御用筋モ段々御座候得共、追々奉伺候様可致候、御跡職之儀ハ不容易御事ニ付、弥以御遺言之通リ無之候テ不被為叶御事ニ付、無御滞被為運候所訳テ御取計幾重ニモ御頼申上候、豐後殿被残置御供之儀余人へ被仰付候事モ

御発駕御差掛相成、別テ難奉願儀候ヘトモ、不得止事申上候訳ニ御座候、

御同人様ニモ御老年被為成、ケ様之事御到来誠ニ奉恐入候御儀、難尽言語奉存候、然共

御発駕ハ無御相違筈ト奉存候、尤此御変事ニ付テハ前文之通訳テ

宰相様御下国奉待候御事ニ御座候間、猶又貴様等ニモ折角御精勤被成候儀分テ奉存候、爰元之儀無申迄モ

宰相様御下国迄之間ハ、何事モ周防殿ヘ御伺申上候テ致取扱候含ニ御座候間、夫等之段モ御都合ヲ以申上置可被下候、

一琉人参府之儀モ此節之御変事ニ付テハ兎角被差延候外有御座間敷、何事モ当惑之至、此儀ハ其元ニテ公辺御聞合之上ニテ御都合能貴様ニ御取扱可相成奉存候、然トモ何モ宜敷様御心添御頼申上候、

右ハ今日御弘ニテ極々急飛脚差立申候間、旁荒増申上越候、此節之御変事ニ付テハ、私共誠ニ当惑之次第、御用筋取扱モ頓ト行暮罷在候テ何事モ手ニ付不申、此等之趣不束之書面ナガラ早々申進候返々モ御跡之事且亦豊後殿事心願之通リ被仰付被下候様、御取扱御差ハマリ被下度御頼ミ申上候、書外ハ追々可申進候、以上、

七月廿日　　新納駿河

永江休之丞殿

一豊後殿ヘ前文同意之問合差越候ヘトモ大同小異故略ス

一今晩四ツ過時分江戸先月二十四日被差立候仕立町便到着ニテ、異国人御取扱一件、且ハ御老中堀田備中守様・松平伊賀守様御役御免、太田道淳様・間部下総守様御老中ヘ御再勤被仰付候儀トモ申来リ、段々江戸表御混雑之由ニ付当時柄重畳当惑之至、此末如何可相成哉ト甚心痛之事候、

一七月二十一日、早朝御軍役方書役永田與右衛門召シ呼ヒ御用筋段々致談合候事、

一四ツ過出勤ニテ段々御用筋多ク、七ツ過キ致退出候事、

一先日ヨリ東風少々ニテ細雨モ有之、至極欝々敷天気合之処、今夕方ヨリ又々東風騒々敷懸念之模様也、

一七月廿二日、出勤、大鐘時分退出イタシ、夫ヨリ重富屋敷ヘ見廻リ、夫ヨリ福昌寺ヘ差越、明日御入寺即夜御内葬之筈ニ付テ諸事見分ナリ、御石塔・御石棺等モ今日限リ御成就之賦リ、尤昨日ハ終日雨ニテ石工等大込リニ候得共、今日ハ追々小降リ相成晴間モ多ク仕合之事也、尤今通リニテハ明日ハ無相違可晴上ト相見得候事也、

一今日御殿ニテ御側役町田主馬ニテ御小納戸山田壮右衛門御取次ヲ以テ、先比御染筆頂戴之儀奉願置、其儀御調無之被為過候間、此内御認之御懐紙一枚、今日御在世中被下候筋ヲ以テ拝領被仰付候旨ニテ頂戴仕何共難有次第、誠ニ

御形見ニテ難忍奉存候、外ニ左衛門殿モ前方願之由候ヘトモ、是モ御同断之由ニテ今日一所ニ拝領御座候、

右之御詠歌等ハ去ル二日之拝領之筋故其場ヘ記シ置候事、

一七月二十三日、晴曇、今暁六ツ前御軍賦役安田助左衛門参リ、昨廿二日九ツ時分山川ヨリ佐多ノ御崎八・九里計モ可有之所ヘ、異国船体之船壱艘申酉之方ヲ志シ走居候段、届相達候旨申出候得共、先通船等敷相見得候ニ付承置候様イタシ、当時之御砌柄異国船迄モ渡来共イタシ候テハ如何可致哉、彼是誠ニ驚転之事也、

一今朝伊集院周右衛門被参

若殿様・典姫様御方御用等段々致承知候、尤先朝モ被参御年寄ナトヨリ之引合モ致承知候事也、

一四ツ前出勤イタシ候処、江戸先月二十七日被差立候御内用急飛脚今暁到着、問合数通相達候、専異国船御取扱振リ混雑之御用筋也、旁心痛之事ニテ候、

一今日福昌寺ヘ御移リニ付御用取込候、左候テ八ツ前比御座之間ヘ

御直リ御子様方御焼香被為遊、引続御一門方御同断、
且ハ大奥向都テ相済候節迄ハ奥計ニテ、我々何モ御構
不申上候、右被為済七ツ過大目付以上一同拝礼被仰付
候間、月次之御礼序ニテ脇差ハ脱シ拝礼申上候、左候
テ御側向御役人等迄モ都テ拝礼相済、大鐘過比御仕廻
能候付、
御出棺ニ付其節ハ御家老中御座之間末へ一列ニ相詰、
左衛門殿御先達ニテ登殿・拙者御通過御跡ヨリ
御対面所御駕籠台涯迄付上、同所ニテ御側廻リ御作事
方役々ニテ御仕合申上候内ニ、拙者ナトハ杉之間縁頬
ヨリ虎之間高欄罷通リ御庭へ出、股立等イタシ拙者御
行列先キ御供相勤候、且又大目付喜入主水殿モ拙者ヨ
リ先キノ御供ニテ候、今日晴曇ニテ御都合能、暮前福
昌寺へ御入、御所之間へ御安座被遊候事、
一暮過キヨリ御内葬御取付ニテ、無御滞四ツ過比被為済
候、左候テ御所之間へ仮御棺取立、御鬢髪御安置申上
御滞棺ニテ、奥向并ニ出家御番相勤候事、尤御廟所之
御番モ則ヨリ奥向并ニ出家等相勤候事、
一今日御殿ニテ又次郎殿御事別段ニ
御焼香被成、福昌寺へモ先達テ御越御入之節御縁先へ
御出迎ヒ被成候事、
但シ
御側へハ表御小姓四・五人付上候事、
一周防殿(島津久光)初御一門方ハ御殿ヨリ御棺跡ニ被成御供候事、
一上様御行列夜之形ニテ御挑灯為御持被遊候ニ付、拙者
等モ箱挑灯三対・弓張見計為持候、家来ハ七人手鑓・
長柄草リ取供押迄召列候、喜入家モ同断也、左候テ乗
物并ニ引添馬・合羽籠等ハ先達テ福昌寺供扣所へ遣シ
置候事、
一今日終日快晴程ニテ諸事御都合ハ宜敷仕合之事、乍然
蒸シ暑サニテ終日終夜汗之流シ候事ハ厳敷候也、
一七月廿四日、出勤、八ツ半比退出、夫ヨリ福昌寺へ差
越

御廟所并ニ御棺前等拝礼イタシ、大鐘前退席イタシ候事、

一今日都之城芳樹院殿法事来月四日之場引寄ニテ、於私領被致執行候間、爰元屋敷へ八ツ後ヨリ参候様申来リ候間、次郎四郎参リ暮前帰リ候、客人ハ別テ少数之由也、

一今晩八ツ時分書役助五代傳左衛門参リ候、江戸去ル六日被差立候町便、今夜四ツ時分到着ニテ御内用封等登殿ヨリ被差廻候、開封之処尾張様(徳川慶勝)御隠居ニテ御慎、水戸前中納言様(徳川斉昭)ニモ御隠居ナカラ又々中屋敷ニカ御移御慎被成候様、松平越前様(慶永)モ御隠居ニテ御慎被成候様等被仰渡、将亦此御方奥医師戸塚静海事去ル三日俄御用召ニテ御城奥医師被仰付候由、外ニモ松平肥前様御医師伊東玄朴・松平三河様御医師園田長庵トカ申モ同様被仰付候由共申来リ、異国人御取扱向ハ至極平穏ニテ被仰付候得トモ、当時ニテハ関東之御混雑何共驚入次第ニ付キ、此末如何可相治哉ト乍恐御心配イタシ候、右之問合セ又々同人へ為持左衛門殿へ廻シ候事、

一七月二十五日、江戸去ル三日被差立候急キ飛脚今朝五ツ時分到着、且又去ル九日被差立候極々急飛脚五ツ半時分到着、問合数通相達シ候趣ハ夜前到来相成居候、公方様(徳川家定)御不例被遊御座候処御内実ハ去ル六日夕七ツ半三部廻リ御事切レ被遊候段、極御内々申来候テ、誠ニ御当時柄天下之大変カト奉驚入次第也、

一今日出勤、八ツ過退出、夫ヨリ御用有之左衛門殿一所ニ周防殿へ参上、極々重キ御用談ニテ七ツ過キ御暇イタシ、夫ヨリ福昌寺へ参リ　御廟所并ニ御棺前等拝礼仕、日入時分夜中之筋ヲ以御行水之御式有之、住持并ニ拙者相柄杓ニテ御湯差上、其外住持ヨリ御式相勤候、右御式済御鬢髪箱之御切封イタシ、又々御棺ニ納リノ上御霊膳上リ勤行有之、相済候テ致拝礼退席仕、暮時帰宅イタシ候事、

一今日周防殿へ参上之御用ハ、彼方ヨリ被召呼候事ニテ、

基　公辺御役方并ニ大々名方ト京都之御趣意齟齬イタシ、至テ不容易時宜成リ立居候哉ニ、京都伏見辺ヘ滞在之御徒目付西郷吉兵衛極内御側向ヘ申上越候御書付弐通御見セ被成、段々御内談致承知、誠ニ以当惑之次第也、就テハ爰元之儀モ何様手当有之可然哉、更ニ以不能愚慮心痛之事共也、

一拙者事先日ヨリ持病之眩暈症差起リ、尤心下動気第一ニテ致難儀候間、先日ヨリ朝稲三益・西郷幽泉等相頼致養生候事共細記ハモラシ候事、

一七月二十六日、出勤、八ツ退出ヨリ福昌寺ヘ差越、毎之通リ

御廟所御棺前拝礼共仕、七ツ半時分退席候事、夫ヨリ都之城ヘ見廻候テ暫時ニテ罷立候、出雲殿事モ上様御病気ニ付先日急キ出府有之候ニ付テ也、

一拙者帰宅前磯永孫四郎事、長崎ヨリ只今罷帰リ候トテ届旁被参候由也、

一七月二十七日、出勤、八ツ退出ヨリ福昌寺ヘ差越毎之通リ拝礼トモ仕、日入時分退席候事、

一七月二十八日、朝磯永孫四郎且又伊地知喜十郎、先日致出府候トテ見廻也、

一今日出勤席々謁ニテ伺御機嫌有之八ツ退出、夫ヨリ福昌寺ヘ差越毎之通リ拝礼共イタシ大鐘時分退席候事、

一七月二十九日、出勤、八ツ退出ヨリ福昌寺ヘ差越シ毎之通リ拝礼共仕、大鐘比退席候事、

一今日例年之通リ御心付ケ蔵方之場現銀七貫弐百目、御趣法方掛リ御用人福崎助八ヨリ、用達茂右衛門ヘ被相渡難有頂戴仕候事、

一今晩モ朝稲三益相招、心下動気之事ニ付診脈共相頼候事、

一八月朔日、今暁町便到着、先月十四日江戸被差立候事

也、御用筋ハ第一
公辺御事多ニ付、琉人立被召延トノ趣申来リ、其外段々御内用之問合ナリ、右之御事多ハ
公辺御逝去之訳ニテ候由也、
一今日出勤、席々謁ニテ伺御機嫌有之八ツ退出、夫ヨリ福昌寺ヘ差越シ毎之通リ拝礼共仕、七ツ半時分退席候事、
一今日御慎中ニ付御祝儀事流ニ相成候間、地頭所之儀モ祝儀ハ不申出、役所迄産物等持参見廻リ置キ候テ帰リ候由、預リ所志布志モ同断也、
一夕方新納休蔵被参、四郎殿居屋敷鎌田甚七ヘ付属相成、代金四拾両余ニ相究メ、其内三拾両内入有之候由ニテ持参也、残リハ近々中入付之筈也、
一八月二日、出勤、八ツ退出、夫ヨリ福昌寺ヘ差越毎之通拝礼仕、七ツ半時分退席、夫ヨリ周防殿ヘ罷リ出、御位牌守之吟味形行共申上、彼是重立候御用筋相伺、暫時ニテ罷リ立候事、
一帰宅後奥御小姓谷村愛之助被参候テ、此節　御葬送之節剃髪ニテ御供相勤メ度内願細々承リ候間、相応申答置候事、
一八月三日、霊社様御祭日ニテ候ヘトモ、当分御停止中之故差延置候事、
一今日出勤、八ツ退出、夫ヨリ福昌寺ヘ差越シ御正棺成就ニ付御役々相揃ヒ致見分、其外段々御用承リ候テ、七ツ半時分退席候事、
一今晩伊集院弥平太被参候テ、御葬送之節剃髪ニテ御供相勤度内願再往承リ候間、相応相答置候事、
一八月四日、出勤、八ツ退出、夫ヨリ福昌寺ヘ差越シ毎之通リ拝礼共仕リ、大鐘時分退席、明日　御本葬ニ付御用筋段々有之候也、

一暮前川南清兵衛・成田彦十郎長崎ヨリ只今罷リ帰リ候トテ、届旁被参候テ暫時ニテ被帰候事、

右川南等便ニテ勝氏ヨリ書状被差越左之通候事、

猶々昨夜急便到着江府モ

公辺ニテ大切御座候趣、未タ極内々之由ニ御座候、

扨々不幸相重リ候事如何之時節ニ候哉、人世ノ難

頼今更驚候而已、

一翰拝呈、季(気)候不良流行病多候処、益御多祥被成御座重々奉賀候、扨潜ニ承候得ハ、其太守様(島津斉彬)御太病之由実ニ驚歎仕候、僕拝謁之後窃ニ如此之君大国守ニ被為在候事為国家深ク賀候事ト日夜独悦仕居候処、此節之御左右相承大ニ落力、日々天下危急ニ相赴、薄氷ヲ踏之思ヒニ御座候、此末如何成行可申哉甚(落字カ無ノ字落カ)覚束事共而已、僕其任ニ無御座候得共、乍不及焦思仕リ候事御座候、僕為公ニ一言咄候、願クハ太守是迄御力ヲ被為用候重事之相薄ラキ不申、其御志ヲ御続ナサレ候様乍蔭仰候処ニ御座候、僕不肖一度蒙回顧候事故深ク感銘仕、公ナラテハト存候事故憚ヲ不省申上候、倉于(卒カ)中心情紙筆ニ不尽早々如斯御座候、以上、

七月廿三日　　勝　麟太郎

新納駿河様

内事御直展

一今晩上村叶被参、御葬送之節剃髪ニテ御供相勤度谷村氏等申談シ願之趣キ細々承リ候ヘトモ、御格ニ付吟味六ケ敷候旨相応答置候事、

一八月五日、晴曇八ツ後暫時急雨、暮時分曇リ候ナリ、今早朝谷村愛之助被参候テ、剃髪成之儀細々承リ候ヘトモ、御格ニ付六ケ敷候旨夜前上村ヘ答ヘ候同様申達シ置キ候事、

一右之趣出勤之上及吟味候ヘトモ、御免難被成候間、左之通リ申答置候、

御心願之一条再度深致承知候間、可成被相達候様致勘

考猶亦席中ヘモ細々及吟味候処、御免相成候テハ近頃宰相様御沙汰被遊置候御趣意ニモ相触レ、以後御届相成候節

思召之程奉恐入訳合、次ニハ各方御同役中ニヲヒテ外々モ年数之方又ハ御厚恩之向モ可有之、左候ヘハ人柄取分ケモ難出来不平之筋モ有之、何分ニモ御役場之吟味御免之方ニハ難取向、就テハ御願望不相達儀、至極気之毒ナガラ右通リノ吟味ニ御座候間左様御落着被成此上ハ御役場之御法ニ被随候儀忠義ニ可有之御座候哉尤再三御深願之筋は人々致承知、乍恐

尊霊モ御剃髪被遂候同然之思召ニ被為　在候半哉ト、奉存候テ此段成行申上置候、将又弥平太殿ニモ同様願之事ニ御座候、是以前文ノ通ニテ異条モ無之候間、御申伝可給御頼ミ申上候、以上、

八月五日　　新納駿河

谷村愛之助様

薬丸猪之助様

上村　叶様

右之三人福昌寺詰ニ付彼之方ヘ申遣シ候事、

一今日四ツ時出勤、八ツ退出、夫ヨリ福昌寺ヘ差越、夜入四ツ前帰宅イタシ候事、

一今日御本葬ニ付七ツ後ヨリ正御棺ヘ御移リ勤行相始リ若殿様御名代周防殿ニテ御焼香、典姫様御代香御広敷御用人小森新蔵、夫ヨリ

又次郎殿(島津忠義)御焼香、夫ヨリ周防殿(島津久光)始御一門之御并家并四家方引続大目付迄拝礼有之、拙者并ニ喜入主水殿ハ掛リ之事ニテ

御棺前ヘ始終相詰候ニ付、後達テ拝礼仕リ、勤行等相済時刻御見合セニテ暮六ツ時

御出棺被為　在、無御滞御葬式相済候、御葬場勤行中空之色打曇リ、風モ少々吹出御燈火等モ両度吹消シ、急雨ニテモ廻リ可申哉ト心配イタシ居候ヘトモ、雨粒不落勤行相済

御鬢髪御移リ有之、出家ハ勿論御役々并ニ拙者モ御供

ニテ
御廟所へ御納リ被為　在、彼之所勤行相済ミ拝礼共仕退席候、今晩何モ無御滞被為済頓ト安心イタシ候、左候テ三役一同退出有之候ヘトモ、拙者少シ居残リ火之元等入念候様下知イタシ置退席、四ツ前致帰宅候事、

一八月六日、晴天、今朝五ツ時分出宅、福昌寺へ差越御取骨御安骨之御式有之、御灰床へ拙者并ニ寺社奉行壱人相詰、住持ト拙者相挟ニテ御骨三ツ振取御骨箱ニ入勤行有之、役僧御骨箱守上、客殿正面ヨリ被為入拙者御跡ヨリ付上、西玄喚(奥)ヨリ上リ縁頰へ相詰、勤行済拝礼共仕退席、暫時罷在四ツ前ニ退散帰宅イタシ候事、

一夕方新納四郎右衛門被参候テ、今日八ツ前松平肥前守様御使者御小姓頭役千住大之介ト申者参着、御病気御見廻ニテ御薬トモ被進候ヘトモ、御国ニ入込御逝去之段致承知奉驚入候、此上ハ右之御品　御牌前へ相備拝礼仕度申出候間、右御品四郎右衛門受取拙宅へ持参ニ付相受取置、御使者ハ下町下会所江旅宿為致候事、

一今日久々振寛暇ニ罷在候間、此内大口ヨリ参リ居候古文書三軸相調置候ニ付、左之通奥書共イタシ近日差返シノ手当イタシ候事、

一坪付并ニ知行目録等二通一軸

右坪付并ニ知行目録ハ其方家蔵ニテ此節致一覧候処霊社真跡等ニ付、加裱装差返シ候条無麁抹、永伝有之度者也、

安政五年午八月　　新納駿河
久仰判

太田良右衛門殿

一御文書等三通　一軸

右御文状等三通其方家蔵ニテ此節致拝見候処、格別成御書面ニ付加裱装差返候畢、向後聊麁抹被致間敷候、

新納駿河

安政五年午八月

篠原惠法院殿

一坪付并文状等十七通　一軸

右坪付并文状等拾七通其方家蔵ニテ此節致一覧候処霊社真跡又ハ忠清以下名前之知行目録等有之候ニ付加裱装差返シ候条無麁抹、永伝有之度者也、

新納駿河

安政五年午八月

篠原惠法院殿

覚

一請取渡記　一冊

一魚板記　一冊

但

料紙万合大和閉奥ニ……

伊勢兵部少輔貞昌自筆ニテ……

寛永十八年三月廿一日……新納

刑部太夫殿ト弐冊トモ同様ニ

有之

右ハ其方従先祖代格護之由、此節致懇望候処被応其意悦入候、仍テ此段申入置候也、

新納駿河

安政五年午八月

篠原惠法院殿

右之通貞昌之伝書二冊モライ受候ニ付、同十二月山カラシ脇差一腰相求、伊地知喜十郎中戻リ之便宜ニテ差遣シ、書面左之通、

此一半作片刃ノ脇差ハ実ニ山ガラシニテ候ヘトモ、篠原惠法院ヨリ当夏貞昌之伝書等致懇望候以後、イマタ寸志モ不報打過候間、先其内トシテ在合ニ任セ遣シ置候間、此節貴様御持越宜敷御取伝給リ度此段御頼申入候、以上、

十二月朔日　駿河

喜十郎様

一八月八日、長崎へ飛脚差立候ニ付、先日川南・成田退崎之節、（勝海舟）勝氏ヨリ伝言且書状トモ被差越候、返答差出候事、

猶々乍憚折角時候御自愛御在崎被成候様奉存候、

随テハ本文ニ茂申上候通、何レ此末猶亦御繁多奉存候得トモ、国内之手当向

成田・川南退崎仕候ニ付、御懇意

旁御内命奉願度奉存候間、何トソ

御伝言殊ニ尊翰被成下難有拝見仕候、

不悪御扶助被下候様奉願候、以上、

御礼申上度一筆啓上仕候、先以季候揃兼候ヘトモ、弥御勇健御滞崎被為成御奉職候段承知仕候、乍憚恭喜之至奉存候、扨御手帖再三拝誦仕候処、今般当境大不幸之仕合御内聴ニ達シ候哉ニテ、芳慮之御程細詳御懇命ヲ蒙リ実ニ肺腑ニ感銘仕候、日外御見聞被下置候通、外寇之御手当精々相励ミ申度、折角之申付ニテ万事発起之処如此仕合、此末如何取扱相成可然哉難及愚慮、実ニ不一通当惑ノ次第、暗夜之燈ヲ失ヒ候トハ此事ニ御座候、乍然海防始万端不及廃棄様、私共ニモ呉々相含居候処、別テ御懇意蒙仰難有次第恐律仕候、就テハ諸事為伝習方出崎之者共モ喪中一往退崎仕、夫々日立候ハヽ、又不相替出崎奉願度、其節ニ相成候ハヽ、乍恐何トソ宜敷様御沙汰被成下候処従今奉願置候、私式不肖者人数ニ加リ此内不図奉拝尊顔不敬モ仕候得共、夫等之辻ヲ以当境御遠察被下、今般段々蒙御懇命候儀ハ、誠ニ以難有次第奉存恭承拝喜之至御座候、殊更筆末奉恐入候ヘトモ、於

江府茂何トカ御太切之御事共モ被為在候哉ニモ御洩ラシ被下、重々不容易御芳慮紙筆ニ難奉尽、只々拝伏ニテ是等之段御答礼旁深厚奉謝度奉存候而已御座候、誠ニ麁毫御宥恕被下、宜御汲取被下候様奉願上候、恐惶謹言、

八月八日　　新納駿河久仰判

勝　麟太郎様

御左右

一夕方田中源五左衞門参リ、佐土原之用向、且淡路守殿御直書持参ニテ、暫時罷在被帰候事、御直書左之通、不取敢慷慨之儘申述候、

太守様御儀当月初旬ヨリ少々御不例被為在候処中旬ニ至極々不軽御様体之由奉伺候、実ニ駭愕之事ニ御座候、如何之御容体ト申処委敷ハ承リ不申候得共、誠ニ御急速之御事ニテ被為在候由、乍恐驚入次第御座候、殊ニ御存之通リ之事ニテ、野小（ママ）儀モ別テ奉蒙御厚恩今更御報恩之イタシ方モ無之、肺肝ニ徹シ当惑之事ニ御座候、猶又当地改革筋之処抔ハ申上候モ恐入候ヘトモ、是モ後来如何ニイタシ可申哉心配仕候、夫等之事扨置

若殿様ニモ未タ御幼少之御儀、嘸々一統御心配申迄モ無之候、何卒御開運之程奉伺事ニ御座候、最早高輪様ニモ御入国之御儀故、彼是御世話モ被為在候御儀ト奉存候、是亦御下国前ニテ御取込中尚更御混雑之御儀ト奉存候、イツレノ道ニモ御丈夫ニ御成長被為在候処奉祈事ニ御座候、今度致参上今一度御目見不仕段残念至極、何共筆紙ニ尽シ難ク候、右訳ニ付テ以来如何ニ相成候哉、是亦心配仕候、当分迄之通奉蒙　御懇命候程伏テ奉願上候処ニ御座候、扨右之次第ニ就テハ此後御家来之心配ハ申迄モ無之候ヘトモ、若如何様成御頼ミ御座候トモ身命ヲ抛相勤可申、元来愚知無痴（元ノママ）之拙者御用ニモ相立申間敷候得共、及候丈ハ何様之事タリトモ相違不仕候考ヘ御座候間、何卒是迄之御懇切ニ不相替、御内々御心付事モ御座候ハヽ、御知ラセ可給候、右極々内々之事ニテ筋立処ニ可尋ニアラス、若御心付モ候ハヽ、呉々モ御知ラセ可給候、如此儀イマタ差出構間敷候ヘトモ、不取敢駭然余リ如此御座候、以上、

七月廿三日　　嶋　淡路守

田中源五左衞門殿

一八月十日、御趣法方書役上村甚七明日江戸江致出立候トテ見廻ニ付、御金米繰合之事共細々申含置候事也、

一八月十一日、大坂留守居徳尾藤左衛門近日大坂へ致出立トテ見廻ニ付、御金繰等カタ〳〵申談置候事、

一八ツ後伊江王子并ニ副使與那原親方・讃議官奥武親雲上見廻有之候、全無音キラヘ（ママ）ノ由也、仍テ茶・煙草盆・茶菓子一通差出候、暫時ニテ被帰候、

一八月十二日、六ツ半比出宅、福昌寺へ相詰候、今日ヨリ御中陰御法事ニテ右之通リナリ、今日若殿様御名代周防殿ニテ御祭文御献納有之候、八ツ過比勤行相済候ニ付直ニ致退出候、其後諸門主諷経有之、惣済ハ夕方迄掛リ候由承リ候事、

一八月十三日、今日福昌寺へハ伊織殿詰也、

一今日八ツ半時分佐土原之酒田求馬・樺山岩記仮屋守宮里十兵衛同伴ニテ被参候、此節御逝去ニ付テ之伺御機嫌、且御代香等之由、且彼方改革不相替様出役被仰付被下度願、并当年中カ来春迄ニ淡路守殿事御当地へ被差越度御内願等也、暫時ニテ被帰候事、

一八月十四日、今日福昌寺へ左衛門殿詰ナリ、

一今暮時分ヨリ彦熊事腹痛差起少々難儀之由、然レ共熱気等ハ不見得候、四ツ過時分相応吐逆イタシ、夜半時分ヨリ腹痛止、随分安眠イタシ候事、

一八月十五日、出勤、八ツ退出、当分御法事中候ヘトモ、席々謁ニテ伺御機嫌有之候事、

一今日福昌寺へ左右衛門殿詰也、今日諸御役人等拝礼モ被仰付候事、

一彦熊今日ハ余程快方也、医師朝稻・西郷等相頼候処、暑邪且ハ懐虫ニ可有之被申候事、

一八月十六日、五ツ前出宅、福昌寺へ差越御法事満散ニ付相詰

若殿様御代参モ兼相勤候、八ツ過時分勤行相済ミ例之通リ御寄合有之、御名代因幡殿ニテ七ツ過比惣済也、然ル処其砌左右衛門殿被参御用談ニ及候、訳ハ去ル八日伏見ヨリ市來正之丞仕出シ候左右衛門殿并ニ拙者へ差向候極々急キ御内用封、今日八ツ時分左右衛門殿方へ相届及開封候処、關東ト京師御趣意行違御混雑之次第ニテ、既ニ大変可成立勢ニ付、万一之儀モ有之候ハ、、此御方へ近衛様ヨリ御加勢御頼被遊度トノ赴(趣)江戸表

宰相様へ御状被差向候由内々及承、市來モ驚キ入万一之為大坂迄少々人数ニテモ被遣置筋ハ何様可有之哉之旨ニテ、片時モ難差置訳合ニ付、左右衛門殿早々福昌寺迄持参ニテ相談承リ候得共、中々即席難及、了簡篤ト相考候処、イツレ列立周防殿へ参上御存慮之程相伺度申談、七半時分ヨリ彼之御方へ罷出、市來問合懸御目、得ト相伺候処、是モ何分不容易訳合ニ付即席ニ御沙汰モ難被成、乍去外行(不カ)届之儀トモ有之候テハ此節柄不可然儀ニ付、竪山武兵衛等へモ及相談、何分ニモ相決シ候方可然候半致承知、御尤之御儀ニ付、則今日中左右衛門殿宅へ武兵衛且永田與右衛門被召呼及相談候テ、何分被取究度委敷致談合置、周防殿御宅罷立夕方致帰宅候事、

一今晩四時分永田與右衛門参リ左右衛門殿宅へ竪山并ニ右之與右衛門出会深ク及吟味候処、何分当時柄之事ニテ江戸表ヨリ御差図モ無之ニ、我々卒忽之吟味トモイタシ候テハ不軽訳合ニ付、人数トモ被差出候様之儀ハ江戸之御差図奉待候方可然相決シ、周防殿思召ニ少シモ存寄等無之旨武兵衛等申出候段、右與右衛門ヲ以テ承リ候間、拙者モ弥同意ニテ委曲致承知置候旨申達置候事也、

一今日福昌寺へハ諸士へ拝礼被仰付候、至極多人数罷出候由也、

一八月十七日、出勤、昨日迄御法事被為済候伺御機嫌有之、江戸へモ御法事済之御届飛脚共差立候事、

一昨日相達候市來正之丞問合之趣ニ付テ、今日周防殿御出席モ有之、猶又及吟味候ヘトモ夜前之通ニテ異条無之候事、

一又次郎殿へ御跡目被仰出、御礼之節ハ御一門方之内モ御目見被仰付候、御先例ニ付、此節ハ垂水之御家督讃岐殿可然、尤今和泉之因幡殿モ被成御座候ヘトモ、是ハ先比ヨリ至極之御病気ニテ于今寸切ト不被成御座哉ニ候、左候得ハ外ニ御一門方無之、只一向垂水ニ決シ居候ニ付、其段江戸へ伺越相成候間、今日内々讃岐殿へ御内達イタシ、且又御家老之儀ハ左右衞門殿へ御参勤御供被仰付置候間、是モ矢張御供被仰付度旨江戸へ奉伺候間、今日左右衞門殿へ其段致内達置候事、

一今日若殿様ヨリ御仏事前へ御備へ残リ之由ニテ、御菓子一包ツヽ、大目付以上へ頂戴被仰付、且昨日迄御法事モ被為済候伺御機嫌右御菓子之御礼申上度、退出ヨリ左右衞門殿一所ニ御広敷へ罷上リ、御年寄へ面会之儀申入罷通リ御礼、且又伺御機嫌申上候処、御都合宜敷候間若殿様・典姫様（島津斉彬女子）御目見可被仰付承知仕罷出伺上候処、至極之御機嫌様ニテ難有奉存、暫時ニテ御礼申上退出候事、

一今晩伊地知喜十郎被参緩々也、尤二十日比ヨリ大口へ差越トノ事ニ付、彼是内用向有之候テ之事也、

一八月十七日、当分上国之與那原親方ハ別段通信可致旨申替シ置候ニ付、今日為土産家内中へ左之通リ贈リ有之候、

覚

一御手拭　一筋
一錫御煖鍋（ママ）　一ヒ置十一ヒ二
一紕桧垣紗綾　一端

右駿河様御内室様へ

一紗団羽　一本
一石之香合　一組香餅入付
一桃紅桧垣紗綾　一端
右次郎四郎様御内室様江
一紗団羽　一本
一紕花紗綾　一端
一御細工物　一包玉皆カネ三角櫛一作り花一包袋一
右駿河様御娘様へ
一白羽御扇子　一箱
一御硯箱　一
一御細工物　一包印石一通提鏡一面柄櫛一
右彦熊様へ
一白羽御扇子　一箱
一不枕人　一
一御細工物　一包提鏡一面

香提一
フリ〳〵二

右萬太郎様へ
八月十七日　與那原親方

一八月十八日、当分異星相見得、取々之説モ有之候、明時館ヨリ之届見及候間左ニ記、頃日晨昏彗星相見得申候処、光芒薄ク正側難調候得共一通リ測量仕候処、晨ハ丑寅之間ニ同星相旋リ、昏ハ戌亥之間ヘ二十八宿之内大抵翼宿ニ当リ出現仕申候、尤当分何ソ吉凶等ニ相拘リ候物ニテモ有御座間敷奉存、此段申上候、以上、
午八月十八日　御暦方　水間喜藤太

一八月十九日、早朝磯永喜之助参リ、江夏十郎事昨日長崎ヨリ帰着候ヘトモ、病気ニテ御届等得不罷出候間、追テ快気次第罷出、届且ハ御用筋可申聞旨、右喜之助ヲ以テ被申越候間承リ置候事、

一八月廿日、五ツ過出宅福昌寺へ
順聖院様(島津斉彬)初御忌日ニ付
若殿様御代参相勤候
但
着服染帷子・麻袴
大信院様(島津重豪)御忌日
賢章院様(島津斉興室)御正忌日
宰相様(島津斉興)御代参相勤ム
右勤済ヨリ大興寺へ、今日盛徳君(島津忠厚)御正忌日付御墓参イタシ、夫ヨリ出勤、八ツ退出、
一琉球ヨリ順道丸久志浦へ着船之由ニテ、御用封到来、及開封候処、琉球ニテ逗留仏人へ便リ蒸気船買入度旨約定相成候趣申来リ、此節ニ相成リ候テハ誠ニ以不容易御用筋ニテ致当惑候間、八ツ過迄罷在蓑田傳兵衛・永田與右衛門等へ委曲申達置退出候事、
一先達テ拝領被仰付候
順聖院様御染筆之御証文、七月二日付ニテ今日山田壮右衛門ヨリ被相渡候間、難有頂戴仕候、委細ハ七月二日之場ニ記シ置也、

一八月廿一日、摩文仁親方見廻且贈物等左之通、
覚
御扇子　一箱
御吸物膳　十
御笋寒　十
紺地島細上布　二端
紺島細上布　二端
緞子　一本
以上、
摩文仁親方
右ハ御暇被下候ニ付、御礼トシテ贈也、
覚
御扇子　一箱
御菓子皿　十

御吸物碗　十
縮緬　一巻
大桧垣紗綾　一端
以上、
摩文仁親方
右ハ在勤中段々預世話首尾能相仕廻候礼トシテ贈リ也
進上
大官香　三把
十錦御太碗　十
白花紗綾　二端
以上、
摩文仁親方
右ハ御暇被下、近々乗船ニ付テ之表向贈リ也、

一八月二十二日、七ツ後伊江王子初與那原・嘉味田聞役太郎左衛門同伴ニテ内意事有之被参候テ、暫時ニテ帰リ也、

一八月二十三日、朝竪山郷之丞・永田與右衛門且ツ又周防殿御付鹿島郷十郎等御用談有之被参候テ、段々長談候事、

一拙者儀先日ヨリ腕并居敷腫物イタシ居リ候ヘトモ押テ致出勤居候処、弥増ハレ難儀罷成候間、今日ヨリ引入致養生候事、

一今日伊江王子始琉人共上国ニ付テ見廻リ、且贈物有之候ヘトモ、定式故委細別帳ニ記シ置候事、

一八月二十四日、八ツ後永田與右衛門御用談ニテ参リ候引続鹿島郷十郎ニモ同断也、

一七ツ後江戸去ル八日被差立候極々急キ飛脚到着ニテ御用封相達候、

太守様御逝去之儀相達シ候返答ナリ、然トモ御届等ハ当月廿九日方御申出可有之御内評之趣、左候テ宰相様ニハ御弘無之内、来ル二十六日御発駕可被遊旨トモ申来候事也、

一八月二十五日、江戸先月末之定式中急、去ル五日被差立今朝到着ニテ御用封相達シ候事、

一公方様去ル八日薨御之御弘メ今日有之候事、

一今朝并八ツ後永田與右衛門参リ候、琉球ニテ市來正右衛門等逗留仏人へ便リ蒸気船買入度約定、取リ返シ不相成候テ不叶儀ニ付キ、段々御内用吟味事有之候テ之事ナリ、

一今日與那原親方ヨリ当春便此方ヨリ琉球へ贈リ物イタシ候為返礼、左之品々送リ有之候、

覚

御扇子　一箱
御茶碗　十
御茶家　一
島紬　一反

以上、

與那原親方

一八月二十六日、当分腫物ニテ引入罷在候ヘトモ、今日四ツ前古在番摩文仁親方召呼、先日到来之琉球ニテ逗留仏人へ便リ蒸気船買入之約定ハ、何様モイタシ断リ切リ取扱候様細々申達候、右摩文仁ハ明日乗船出帆之筈ニ付、書役永田與右衛門ニモ為詰置、尤新納太郎左衛門ニモ同伴ニテ参リ候間是ヘモ細々申含候、不容易御用筋ニ付先日ヨリ別テ及吟味右之通リ取扱候、九ツ時分親方等帰リ也、

一今日摩文仁へ例式之通リ餞別品等取揃差贈リ候事、

一八月二十七日、朝江夏十郎被参候、此内長崎ヨリ帰リ候ヘトモ病気ニテ、今日ヨリ致出勤候トテ、段々御内用筋被申聞及長談候、引続蓑田傳兵衛モ御用談ニテ参リ候事、

一近日琉球へ蒸気船買入一件ニ付飛脚船差立候間、高橋縫殿・島津帶刀へ御内用自分問合、且書状共今日相認候事、

一八月二十八日、当所辺祭礼ニテ候ヘトモ、当分モ御慎中ニテ何茂不相催候事也、

一拙者腫物快方ニ候得共、イマタ寸切ト無之候間矢張引入養生也、

一八月二十九日、今日定式飛脚差立候間、江戸ヘ段々内問合差越候事、

一四ツ後江夏十郎被参候テ長談也、

一八月晦日、今朝至極冷気ニテ拙者寝起ニハ綿入二ツ着イタシ候事也、腫物モ追々快方ニテ候事、

一今日伊江王子ヨリ橘餅并ニ甘物二重・万蜜漬一壺内証ヨリ之尋トシテ贈リ有之候事、

一当家御元祖様始御代々ノ御牌至テ麁抹、殊ニ香煙厳敷御法号モ見得兼候ニ付、此節近比之御尊霊様迄モ為永代御合牌二基ニ仕立御安置申上候、仍テ御牌陰ニ左之通記シ置候事、

吾家高祖以来之神主現成院殿夫婦以前署之于一板、書其陰日、宝暦十三年癸未久儔改之、按久儔君以其以前之神主有欠損毀壊次第易混淆、輯之一板合祭焉、蓋随易簡免欠損之憂、可謂良方矣、然歳月久遠、香煙薫蒸文字多堙没、是以更製一板新之、且其以来之神主各牌安之、亦非無欠損之憂也、故又輯之、逐次署之、其後冀子孫永世倣之、祭祀敬重無怠莫失吾意矣

安政五年戊午八月

十七代孫　久仰謹誌

一吾家庶子庶女它適者不置神主、適二三庶子親近者或有神主、余意不自安、謂庶子継它姓嫁它氏、皆是吾家之出、素祖考分身之血統、豈可去

之不祭耶、於是別製一板、悉署其名
字祭之、冀後来子孫、不遺却吾親々
之意、祭事莫怠焉
安政五年戊午八月
十七代孫　久仰謹誌

寄附状

高拾斛
右者其寺
御惣霊様御仏餉料、是迄弐拾石之所務附来候得共、此
節給地御蔵入高弐百石申請被仰付、殊ニ来ル未年
(新納忠元)
者翁君二百五十年御回忌ニ付、右之通相重、以来三十
石之所務致寄付候条、当秋ヨリ取納可有之候、仍テ如
件、
安政五年午八月　　新納駿河
久仰判
大口
泉徳寺

御高拾斛之所務
右者泉徳寺
御仏餉料被相重、当秋ヨリ御寄付有之候間、彼之方江
直納ニテ受取書ヲ以此御屋敷へ首尾可被致候、此段申
越候様致承知申越候、以上、
但
是迄御寄付高弐拾石之儀ハ其通ニテ、都合三拾石
所務被召付候、此段モ為心得申越置候、
安政五年午
十月(八カ)朔日　　御用頼
林仲之丞
長野源助
木之氏村
差引
新納五郎左衛門殿
右同
役々中

〔表紙〕

新納久仰譜

安政五年九月ヨリ
同年十二月迄

「久仰譜巻拾壱 安政五年九月ヨリ 同年十二月迄」

安政五年戊午九月以来

一九月朔日、今以居敷并腕之腫物全快ニ不相成、其上近頃ヨリ膏薬負イタシ、其煩別テ及難儀居候事、

一今日モ宅ニテ御用談段々ニテ福崎助八等モ被参、其外モ同断ニテ毎日程客対ハイタシ候事也、

一九月二日、八ツ時分江夏十郎被参、御用筋長談ニ及候事、

一引続書役染川喜八郎参リ、先月十九日江戸被差立候町便到着、

御前様御事先月十日ヨリ、相応之御不例被為在候段申来リ候問合差出、何トモ奉配念御事也、

一九月三日、江夏十郎被参候テ、今日モ御用筋及長談候事、

一御軍役御手当始リ時分ヨリ当家之家来共申談ニテ、毎月三日ニ役所ヘ打寄リ、何篇御軍役手当申談シモイタシ、毎月百文カ四拾八文位ツヽ人別講銭相納、夫ヲ積立御軍役用ニ致格護置、左候テ正・五・九月之三度、就中　霊社様ヘ御神酒共差上、祈願仕筋申談イタシ置候ヘトモ、追々異国船御取扱向モ平穏之方ニ相成候間、当家之家来共モ右ニ準シ少シ心静ニ相成リ、今日共ハ黒岩傳太郎外ニ壱両人参リ拝礼共イタシ候事也、

一九月四日、四ツ時前書役助大迫藤八郎参リ、只今江戸先月二十日被差立候極々急飛脚到着ニテ、御前様御事先月二十日辰上刻、御養生不被為叶御逝去被遊、然共先御病気御太切之処ニテ、御取扱有之候段申来リ候問合差出、打続之御不幸何共奉恐入御事也、

一九月五日、四ツ後江夏十郎被参至極長談也、左候テ被申聞趣ニハ、一昨夕豊後殿ヨリ御内用封相達シ候此節之御大変

宰相様御聞被遊候処、扨々残念成仕合、乍去此上致シ方モ無之、

薩摩守事ハ政事一向ニ差ハマリ、少シモ慰事等不致候間、左様ニテハ致心労何カ煩等モ出合候モノ故、何ソ慰事ニテモイタシ候様有之度申候ヘトモ、終ニ左様之儀無之、然共拙者ニヲヒテハ果報ナル事ト存居候処、此節之仕合残多事候、就テハ薩摩守イタシ置候政事向ニ付、誰人ニテモ致差引候者有之候ハ、其辺ニテハ差置間敷、何事モ此内之趣意不戻様無之候テ不相叶ト、宰相様御直ニ豊後殿ヘ押返シ、同様両返程御高声御沙汰奉承知、誠ニ以難有次第奉恐入御事ニ付、申越置候旨申来候間、拙者迄内分聞セ置トノ事ニ付、誠ニ以宰相様思召候御程難有御事、

御尊霊様モ御満悦被為入候半ト恐入相応申答置候、内心相考候ハ右次第重キ御沙汰事、乍恐我々モ御役柄ニ罷在候ヘハ、我々コソ右等之御用筋ハ第一ニ承知モ可仕、又御側役等ナトヘ御沙汰被遊置、御政事向評議ニテモイタス者有之候段被

聞召上候ハ、、屹ト御取扱等被仰付候議ハ当然之御事候得共、江夏事ハ御庭方御高預等ニテ御伽ナトノ勤柄ニテ、此内ヨリ段々世上ノ誹謗モ有之者候得ハ、夫々御役場モ差置右之江夏ヘ被申越候儀、別テ不得心之事、乍去又別段退テ考候ヘハ、我々敷ハ至テ不調法者候得ハ内々被差除、右之江夏等ヘ被仰付候事共カモ難計儀ニ付、彼是相考恐入相応之答申置候事也、

一今日岸喜右衛門・福崎助八・町田主馬引続御用談ニテ被参候事、

一今日御前様御不例御太切之伺御機嫌、月次御礼之面々有之候由、

一嘉味田親方聞役同伴、見廻且贈物有之、訳ハ求摩茶并繰綿重買下之儀、先三ヶ年願之通御免被仰付候御礼トシテ也、

覚

渋御扇子　一箱
十錦太碗　十
紺地島細上布　二端
嶋紬　二端
縮緬紅白　二巻
以上、

嘉味田親方
新納太郎左衛門

覚

短尺御扇子　一箱
彩色蓋茶碗　十
紺地島細上布　一端
島紬　一端
水色大桧垣紗綾　一端
以上、

嘉味田親方

一九月六日、イマタ痛所全快不相成、引入リ中ナリ、

一今日八ツ後鎌田出雲守殿江戸ヨリ大口筋通行今日下着ニ付、用達タンタト(都農答嚴)之辺迄差遣シ候事、

一七ツ後三原藤五郎只今江戸ヨリ着掛ケニ候トテ見廻、江戸先月十五日夜中十六日之筋ニテ暁立之由、第一宰相様ヨリ被　仰越候御用有之、御使之向ニ付段々御内用筋致承知、彼是ニテ及長談、夜入時分被帰候事、

一九月七日、伊江王子始與那原・奥武ヨリ安否為尋、氷

砂糖・白砂糖等一籠ツ、贈リ有之候事、

一九月八日、嘉味田親方ヨリモ同様贈リ物有之候事、

一九月九日、節句ナガラ御停止中ニ付、祝儀沙汰互ニ差扣候事、

一九月十日、四ツ後江夏十郎被参候テ、御用筋至極長談ニテ候事、

一九月十一日、朝永田與右衛門・竪山郷之丞・川南清兵衛・福崎助八等被参候テ長談也、訳ハ昨日江夏被申聞候趣ニ付段々不容易御用筋有之候ニ付而也、

一伊江王子ヨリ館内へ今日招請之儀、先日太郎左衛門ヲ以承候得共、御用多ニ付断申入候処、今日則玄喚(閃)迄見廻ニテ左之通贈リ物等有之候事、

覚

大花入　一
朱塗沈金菓子皿　十
彩色蓋茶碗　十
錫煖鍋(ママ)　二
朱塗堆錦重箱甘物入付一組
縮緬紅白　二組
巻子白天青　二端
焼酎　壱壺

以上、

伊江王子

一今日嘉味田親方見廻、館内届并ニ諸人自物砂糖ニ相掛手形銀御免之儀、来年ヨリ先キ二ケ年是迄之通リ御免被仰付候御礼也、仍テ左之通贈物有之、

覚

十錦太碗　十
紺地島細上布　二端
島紬　二端

縮緬〔白紅㊥〕　二巻
緞子　一本
以上、

九月十一日　新納太郎左衛門
嘉味田親方

一九月十二日、朝伊集院周右衛門相招、
若殿様・御姫様へ進上物一件相談イタシ候事、

一九月十三日、永田與右衛門参リ候、相良弥兵衛長崎へ出張并江夏十郎ヨリ蘭人共へ蒸気船調文一件、間違之儀有之旁之御用談也、

一今朝伊集院周右衛門相招、
若殿様・御姫様へ御肴一折ツヽ、現品并ニ琉人ヨリ贈リノ甘物大八寸重入付ケ一組ツヽ、
御二所様へ御銘々御内々進上仕度、御年寄永瀬へ相頼被呉候様申入置、四ツ後右之御品御広敷へ為持差廻シ差上候事、

一八ツ後相良弥兵衛参リ候、明朝ヨリ長崎へ致出立候トノ事ニ付、彼是申含置御用筋有之候事、引続伊集院周右衛門被参、今朝之御子様江進上物都合能ク相済候段為聞有之候事、

一九月十四日、朝稲留良助・飯牟禮八郎・川上釜八明日ヨリ佐土原へ差越トノ事ニテ被参候間、面会イタシ彼是申達シ置候事、

一八ツ後書役上村彦四郎参リ
宰相様先月廿六日五〔㊥時ツ後〕江戸御立被遊候段、御左右飛脚致到着問合相達シ持参ナリ、引続堀與左衛門参リ、坂本彦五郎京都ヨリ遣シ候御内用封持参ニテ候事、

一今日喜入主水殿江戸へ出立有之候事、

一九月十五日、此内腫物引続膏薬負等ニテ煩ヒ、今日ヨリ致出勤候事、

一明十六日伊江王子始相招候筈ニ付今日ヨリ段々手当、且餞別品取仕立方等大取込ミイタシ、今晩モ取込ミ八ツ過寝候事、

一九月十六日、晴天別勤ニ頼ミ置出勤不致、今朝ヨリ琉人へ餞別品取立方イタシ、昼時分王子並賛議官奥武親雲上始以下付役弐拾弐人へ例之通リ遣シ候、左候テ與那原親方ハ別段通信之事候得ハ、此方家内中江モ段々贈リ物モ有之候ニ付、此節返シ品モ相応不致候テ不叶事故、今日迄ハ不相調候事、

一七ツ後ヨリ伊江王子始與那原親方・嘉味田親方・奥武親雲上聞役新納太郎左衛門列立候テ被参、左候テ夜入五ツ前比被帰候事、尤今日ハ王子へ申達御用有之、右之席ニ引留候間会釈ハ軽クイタシ候事、

献立左之通、

一床龍虎画二幅対生花

一茶

一煙草盆

一茶菓子求肥アリ、糖

時分見合

一吸物スマシ鯛ひれ（ママ）

中皿小作鯛品々

猪口イリ酒

掛盃

一銚子二返済

一挟肴スルメコン布

一盃三ツ重

一取替シ相済

次郎四郎

志岐藤兵衛

蓑田傳兵衛

右三人出会挨拶有之則主居ニ着座、

一吸物味噌

藻魚

胡麻とふふ

椎茸

一硯蓋　一面大

盃相立

駿河初王子へ遣シ、夫ヨリ次郎四郎・藤兵衛・傳兵衛等取替イタシ候、且又用頼林仲之丞事ハ王子付用達ニテ江戸へ差越筈ニ付、王子上帆涯ヨリ館内へモ毎日差越致用弁候事ニ付、是モ出会盃之取替トモイタシ候事、

一吸物　大平雉子モトキ品々

一鉢　釣り鯛差身品々

一硯ふた　一面中程

一丼　三ツ　うなき樺焼　庭鳥三ツ煮　魚類

膳部

皿小作鯛　ナマス　品々　汁ツミ入　松露　小蕪

小皿漬物　品々

糸目梅干塩　肉掛　二

飯

長皿塩フリ焼　小鯛

平煎海鼠品々

汁ヒケ鯛　青昆布

湯

菓子杏目カン四切　松風二ツヽ

薄茶

以上、

供廻リへ左之通、

吸物一通リ

硯ふた一面大

丼　三ツ肴色々

五ツ組メシ

又末廻リ之供へ、

大鉢ニ盛合セ肴并数之子丼トモ取合

一王子并ニ親方へ飯後手渡シ品左之通、

煙草　一箱十二合入
手助　一箱二掛入
小菊紙　二束

外ニ

団羽壱本

右ハ近比磯ニテ拙者拝領仕候御品ニ付別段ニ致包方其段申理リ遣シ候事、

右之通王子へ

煙草　一箱ツヽ、六合入
煙具　一箱ツヽ、二組入
小菊紙　二束ツヽ、

外ニ

団羽壱本ツヽ、

前条同断之御品

右之通、

與那原親方

嘉味田親方
奥武親雲上へ

絵半切　一箱小
手助　一箱一掛入
小菊紙　二束

右之通、

新納太郎左衛門へ

一王子并親方等進物左之通、

氷砂糖　一籠
焼酎砧　一双

王子ヨリ

太白砂糖　一籠ツヽ、
焼酎砧　一双ツヽ、

與那原親方
嘉味田親方ヨリ

白砂糖　一籠
焼酎　一瓶

奥武親雲上ヨリ

肴　一折

新納太郎左衛門ヨリ

右之通リ互ニ取リ遣リイタシ、此方主居ニハ前文之通藤兵衛・傳兵衛等相頼ミ、内証世話人ハ折田善庵并ニ用頼等ニテ候也、

一今夕方江戸先月晦日被差立候飛脚到着、御用封相達シ候ニ付、王子帰リ後傳兵衛在合致開封、少々申談共イタシ候事也、

一おいつさまニモ八ツ前ヨリ御出被成、御加勢旁ニテ夜入四ツ時分御帰リ被成候事、

一九月十七日、與那原親方ヘモ餞別品取立相揃候ニ付、差遣シ候事、

但

昨朝王子ヘ遣シ候品々モ此所ヘ留置ク、

一扇子　一箱五本入繰足

一中奉書紙　一束

一白麻　五十帖

一晒布　一疋代銀百目余

一鰹節　二連

右王子表向

一蠟燭　三百挺箱入

一葉煙草指宿　二十斤

一吸物椀　十　箱入

一硯蓋　一　箱入

一島縮緬　一反代銀拾弐貫文位

右王子ヘ内証ヨリ

一扇子　一箱五本入

一白麻　三十帖

一杉原紙　一束

一晒布　一疋代百目余

一鰹節　一連

右與那原親方ヘ表向

一蠟燭　二百挺箱入
一煙草指宿　十五斤
一茶壺都城　壱箱二ツ入
一肥前蓋物　一箱入
一丁子風呂　一箱入
一団扇　十五
一大花入竹細工　一箱入
一八丈島　一疋御下地
一素麺　一箱関百把入
右與那原へ内証ヨリ
一扇子　一箱五本入
一白麻　三十帖
一杉原紙　一束
一晒布　一疋
一經節　一連
右奥武親雲上へ表向
一扇子　一箱三本入

一白麻　二十帖
右森山親雲上へ
一扇子　一箱ツヽ二本入
一白麻　十帖ツヽ
右

屋富祖親雲上
眞境石親雲上
眞喜屋親雲上
田里　親雲上
田石　親雲上
冨村　親雲上
仲嶺　親雲上
瀬嵩　親雲上
田嶋　親雲上
豐見城親雲上
平良　親雲上
安慶石親雲上

知念　親雲上　　一鰊鯑　一箱十斤入
座間見里之子　　右王子へ
幸地　里主
宜野灣里之子　　一扇子　一箱五本入
伊志嶺里之子　　一煙草　二箱十二合入
大宜見里之子　　一硯蓋　一箱入
譜久村里之子　　一水色布　二反代百目余
和宇慶親雲上　　一杉原紙　一束
桃原　親雲上　　一穂北紙　三十帖
　　一鰊鯑　一箱十斤入
右之人数表向　　右與那原親方へ
一次郎四郎并ニ家内ヨリ王子并ニ與那原等へ左之通、
一扇子　一箱五本入繰足　　一扇子　一箱五本入
一丁子風呂　一箱入　　一丁子風呂　一箱入
一小奉書紙　一束　　一煙草　一箱十二合入
一穂北紙　三十帖　　一杉原紙　一束
一蠟燭　二百挺箱入　　一鰊鯑　一箱十斤入
一素麺　一箱関百把入　　右奥武親雲上江
右三行次郎四郎ヨリ

一しま縮緬　二たん
一たはこ　一はこ巻煙草百
一絵はんきり　二はこ小振り
一くわしいれ　一黒ぬり蒔絵
一たばこいれ　二十
一さいくもの　しな〳〵
右

駿河内室
次郎四郎内室
相中ヨリ
一しおり形付　三たん
一手きん　二たん
一さけ物　三ツ
一さいくもの　しな〳〵
一うちわ　三ツ
右子供三人
相中ヨリ

右弐行與那原親方へ
右之通リ取立覚書等相調差贈リ候事、
一王子始一同滞在中贈リ物左之通、

一九月十八日、早朝王子始與那原・奥武等今日乗船ニテ帰帆ニ付暇乞トシテ見廻リ有之候間、面会イタシ茶・タバコ盆・菓子差シ出シ、次郎四郎ニモ面会イタシ候、暫時ニテ被帰候事、
一今日出勤、八ツ退出、夫ヨリ周防殿へ罷出候、尤今日罷出候様致承知候故ナリ、然ル処段々御用筋致承知暮前罷立候事、
一今日江戸去ル三日被差立候飛脚到着ニテ、又次郎殿御事、御忌服御受被成候様被仰渡候趣内々申来候事、
一王子等始今日大鐘時分乗船被致候由承候事、

一九月廿一日、七ツ後ヨリ武方へ乗廻シ、歩行ニ参リ東郷一介仮屋へ立寄リ、茶トモノミ暮過帰宅候事、

上様御逝去後歩行等全不出、今日初テ右之通也、

一九月廿二日、出勤毎之通リ、今日江夏十郎道奉行并ニ重久玄碩ナト御役替被仰付候事、

一七ツ後大坂ヨリノ御左右飛脚到着、去ル十四日宰相様同所御立被遊候御左右、且又豐後殿事去ル十二日大坂ニテ御勝手方掛リ等被仰付候段吹聴、且自分状共モ相届候事、

一七ツ後お悦都之城へ参リ、夜入緩々ニテ罷帰リ候事、

一九月廿三日、四ツ時福昌寺へ
慈眼院様(島津家久)御忌日ニ付
宰相様(島津斉興)御代拝
着服熨斗目・半袴

右之通相勤、夫ヨリ深固院并大興寺へ御墓参イタシ、同寺ニテ着替イタシ、用達并ニ地方検者勤之田中八郎兵衛、且大興寺法印モ召列、同寺境内上之清水ケ城畠地細々致見物、其所ヨリ上下町武士小路モ勿論、海上ヨリ向潟諸郷之遠山モ見得渡リ絶景之場所有之候ニ付其所ヘ暫罷在緩々致遠見、夫ヨリタンタトウヨリ瀧之上ヘヌキ掘通シ水掛込之事、先頃ヨリ御手元(伺計)ニテ江夏十郎ヘ掛リ被仰付、掘リ方有之候得トモ、当分ハ取止居候場所之内、瀧之上之方川涯水流レ出シノ所ヘ差越細々見分イタシ、夫ヨリカツラ山内罷通リ吉野街道壱里塚之本ヘ出候、此道当四月吉野馬追ヨリ上様御帰リ掛、俄ニ御踏込ミニテ銃薬水車方ヘ被為入候節之御通筋ニテ候、左候テ拙者共伊東猛右衛門屋敷ヘ立寄リ、昼飯トモ給ヘ暫時休ミ、夫ヨリ引返シ鞦韆ト之正真軒ノ下ヌキ掘初ノ所ヘ立寄リ細々致見分候、此所ヘ御譜請木屋モ有之、掛リ郡方地方役々モ壱両人滞在イタシ居候ニ付、委敷承リ候処、地中間数二百間余掘リヌキ候ハネハ水不通ノ由、当分ハ双方ヨリ二十間余掘リ掛リ、外ニ明リ取三ツ掘掛リ居候段承リ、拙者共愚昧ニテハ誠ニ不容易御普請、何程御金入ニテ成

就可相成哉無心元位ニテ候間、只アキレ居罷在候、此所モ暫時ニテ罷リ立帰リ、馬繋場ニテ大興寺法印并田中八郎兵衛ニモ相別レ、夫ヨリ拙者乗馬イタシ夕方致帰宅候事、

一近日飛脚差立候間、豊後殿・永江休之丞等ヘ左之通リ返答旁申越度相認メ置候事、

御発駕御当日并ニ御滞坂中ヨリ之御懇書相届難有拝見仕候、先以

宰相様弥御機嫌能無御滞御通行被為遊候段、追々御左右承知仕恐悦御同意奉存候、次ニ貴様弥御安康被成御発途、殊ニ御供同様之向ニテ時宜ニ寄リ御相宿ヲモ被仰付、御道中并ニ御国元ニテモ御用部屋ヘ御通御用御取扱被成候様被仰付候段御吹聴旁致承知、誠ニ以結構之御儀奉存候、且又御滞坂中御金繰彼是之儀モ宰相様細々被聞召上、近年難被捨置御入価御差屯（ママ）、無拠御新借ニモ被及候間、当時御改革中ナカラ猶又掛リ御役々一涯致精勤、其詮相立候様分テ被仰出、殊ニ御銀主共モ

御前ヘ被召出、段々

御沙汰モ被為在、尚又貴様方ヨリモ御口達書ヲ以細々仰達ニモ相成候処、弥以御受申上候段委敷致承知、是亦難有次第奉存候、御金繰之儀ハ此内ヨリ毎々申上候通リ、私共愚慮ニ難及事候処、始終　上様御厚配被遊、御差図被成下難有次第ニ御座候得共、追年之処何分ニモ奉恐入罷在、尤平田伊兵衛ヨリ頃日訳テ問合越候趣、不容易儀ニテ弥当惑之至リニ御座候処ニ、御大変御到来ニ付其後猶又私式必至ト致心痛、此末何様被仰付可然哉、イツレ　御光着且ハ貴様御下着等之上得ト御談合申上、何分共奉伺度儀ト独リ案シ居候処、此節段々御委敷被為及

御沙汰、貴様ヘモ御勝手方掛其外（㊀細々）被仰出、新御取立事之内御取止等モ被仰付候趣、且又永江休之丞ニモ御内用掛被仰付候段、私ニ至リ別テ難有次第奉存候、就テハ私式不調法者ニ御座候得共、御沙汰次第何様ニモ

相勤可申、乍然此節柄相成候テハ誠ニ以不容易御時節ト奉存候間、偏ニ貴様御差ハマリ被下候様訳テ奉願候、申迄モ無御座候得共、御米金之御繰合ハ細々御聞届被成候半、爰元ニテモ福崎等始別テ心配ニ御座候、爰元新御取立事等モ当時御慎中引続候訳ヲ以先々取細メ居申候、御光着之上何事モ御談合申上、其上奉伺度存念罷在事ニ御座候、御勝手方之儀モ平日ハ一人ニテ兎哉角相済候得共、御案内通御改革御内用方引合之儀モ多々有之候得ハ、折節ニハ込リ申事モ御座候ニ付、今壱人被仰付被下度此内

御直ニモ奉願、竪山ヘ粗申入候事モ御座候得共、是迄不相叶候処、此節被仰出候儀ハ別テ難有奉存候、何事モ御下着之上ハ一入力ヲ得奉待上申候、大坂御立之御左右モ昨廿二日八ツ後御到来ニテ、最早無余日御着ニモ相成候間、猶御自愛被成御勤度、別紙ヲ以御礼事等ハ申上候、余事ハ差残シ置、此等之段御懇書之御答礼旁申上度如斯御座候、以上、

九月廿三日　　新納駿河

嶋津豐後殿

一宰相様御介助之御事ハ

御老年様何共奉恐入御儀ニ候得共、此儀第一奉願候段申上越置候処、貴様方ニモ御同様ニテ疾御心付有之、早速御願モ有之候処、速ニ　御許容被為在、殊ニ三原藤五郎ヘ細々被仰含早々被差下

御沙汰之趣奉承知、誠ニ以難有次第奉存候、尤御受御礼ハ藤五郎ヘ相付表向申上候得共、貴様迄御礼モ申上候、且又是迄奥向其外被召仕候御役人等モ、不相替其儘可被召仕

思召之程茂奉伺、彼是

御仁慮之御儀、誠ニ以難有次第奉存候、

一御跡目之儀御願之通リ追々被仰出候由、無御滞被為運、誠ニ以難有次第、乍恐奉安堵候、爰元御発之儀ハイツレ

御光着之上ニモ可相成哉、尤
御参府之儀モ
宰相様御光着之上二十日計ハ御重リ合被遊、御不都合
有之間敷候御事之由、左候ヘハ何篇御差図モ可被為在、
私共ニモ段々奉伺度品モ御座候ニ付、彼是難有次第、
尤是迄之間心配共何トモ難申上、誠ニ以行詰リ居候儀
モ御座候処、何茂念願之通リ被為運、幾重ニモ難有奉
存候間、此等之段鳥渡申上置度如此御座候、以上、

九月廿三日　　新納駿河

島津豊後殿

一宰相様御発駕後、弥御機嫌能無御滞被遊御通行候段、
追々奉承知、誠ニ以難有次第御同慶奉存候、此節ハ御
国元之御大変ノミナラス、江戸表之御事共奉伺、何共
絶言語奉驚惑候御儀、殊更御老年様御発駕御差掛之御
事ニテ、只々奉案上居候処、御機嫌御差障不被為在、
御日取之通
御発駕被遊候段追々承知仕、幾重ニモ難有奉存候、爰
元ニテ
御子様方被為揃、弥御機嫌能被遊御座、是亦難有次第
御同慶奉存候、其外世上モ一同至極静謐ニテ、別テ仕
合之至御座候、次ニ貴様弥御安全御供被成候由、御多
用中御発駕御当日并宮之駅ヨリモ御懇書被遣忝致拝見
候、江戸其外ニテモ前代未聞之流行病有之、幾万人之
死亡共不知位之由、御当地ニテモ段々死失到来、誠ニ
以恐敷気候御座候処、御供中ハ一同無異之由、是以御
都合之御事ニ奉存候、当春以来珍敷雨勝ニテ、道中筋
モ諸所相損、飛脚等遅着之者モ有之候得共、頃日ハ晴
天続相成
御通行嘸御宜敷被為入候半、大坂御立之御左右モ昨二
十二日御到来有之、最早
御光着モ無御余日被為成、別テ難有奉待上候御事ニ御
座候間、何茂期其節細事申上残候、先ハ此等之段御書
答且ハ別紙ヲ以御礼申上度如是御座候、以上、

九月廿三日　　新納駿河

永江休之丞様

一今般
宰相様御介助之御事ハ奉恐入御儀ニ候得共、此儀第一
奉願候段申上越置候処、速ニ御許容被為在、殊ニ御政
事向御改革筋等三原藤五郎へ細々被
仰含、早々被差下
御沙汰之趣奉承知候、誠ニ以難有次第奉存候、又次郎
様御相続之儀ハ難有奉存候へトモ、御政事向此涯御取
馴モ被為在間敷哉、就テハ兎角一往御介助被成進候御
儀、御両方様御安慮之御事モ可被為在哉、第一私共始
御役々ハ勿論御領国中貴賤難有奉安堵候儀ニ奉存候、
殊ニ段々御沙汰之趣、誠ニ以
御仁慮之程之御事共細々奉承知、無限難有次第奉存候、
尤三原藤五郎へ相付表向御受御礼申上度貴様迄此段申
上候、猶又御取成之儀ハ宜敷奉頼候、
一御滞坂中御金繰等之儀猶御委敷被　聞召上、近年難被
捨置御入価御差屯、無拠御新借ニモ被及候間、当時御
改革中ナガラ猶又掛御役々一涯致精勤、其詮相立候様
分テ被仰出、且又御銀主共ニモ
御前へ被召出、段々
御沙汰被為在、猶又豐後殿ニテ御口達書ヲ以細々仰達
ニモ相成候処、弥以御請申上候段委敷承知仕、是亦難
有次第奉存候、御金繰之儀ハ私式何共愚慮ニ難及事候
処、始終
上様御高配被遊下、難有次第ニハ奉存候へトモ、此末
何分御難渋之御事哉ト奉存候、尤平田伊兵衛等モ頃日
追々問合越候趣不容易御金繰カト奉存、何様被仰付可
然哉奉存居候処、
御大変御到来ニ付其後必至ト心痛イタシ居候事ニテ、
此儀第一
御介助不被成進候テハ、私共ニモ奉恐入訳ニ御座候、
然処此節豐後殿モ被召列、殊ニ滞坂ニテ段々御用向取
扱モ被仰付、尤新御趣法事之内モ御取止等被仰付候段
承知仕、且又貴様ニモ御内用掛リ被仰付候儀共旁私ニ

至リ難有次第奉存候、是亦貴様迄御礼申上置度此段申上候、

一豊後殿事此節御勝手方掛被仰付、是亦私ニ至別テ難有次第奉存候、此儀モ末川家御免以後私壱人ニテ、平日ハ兎哉角相済候得共、御改革方御内用引合之儀、又ハ何ソノ折節ニハ別テ込リ入申儀モ有之候ニ付、此内御直ニ奉願儀モ有之、竪山等ヘモ粗申入候儀モ御座候ヘトモ、是迄不相叶候処、此節右之通被仰付候儀ハ誠ニ以難有次第奉存候、此段御礼申上度貴様迄申上候、右旁別テ難有儀ニ奉存候間、御礼申上置度此段申上候、何分ニモ宜敷御取成等之儀奉頼候、以上、

九月廿三日　　新納駿河

永江休之丞様

一御跡目之儀御願之通追々被仰出候由無御滞被為運、誠ニ以難有次第、乍恐奉安堵候、爰元御発之儀ハイツレ御光着之上ニ茂可相成哉、尤御参之儀ハ宰相様御光着之上二十日計ハ御重リ合被遊、御不都合有之間敷御事之由、左候得ハ何篇御差図モ可被為在、私共ニモ段々奉伺度品モ御座候ニ付彼是難有次第尤是迄之間心配共何トモ難申上、誠ニ行詰リ居候儀モ御座候処、何モ念願之通被為運、幾重ニモ難有奉存候間、此等之段鳥渡申上置度貴様迄申上候、以上、

九月廿三日　　新納駿河

永江休之丞様

一九月廿五日、出勤、八ツ退出、夫ヨリ静洞殿ヘ罷出候、

一昨日拙宅ヘ御出有之候由ニ付罷出候処、山吹之間衆無勘弁之儀有之、当時出勤モ被差留置候ニ付、御侘筋之趣御存寄リ細々致承知候、其外段々御咄モ有之、大鐘比罷立帰リ候事、

一今日谷村十郎太・伊東正八郎江戸ヘ致出立候ニ付、谷村ヘ相頼岩下佐次(方平)右衛門ヘ差向候書状并ニ金子五両差

登セ候、右之金子ハ彫物師瀬戸口矢兵衛江戸へ相詰居、其方へ縁頭鍔等之細工頼置候間右之手間料并ニ猶又調文等細々申遣候事、

一九月廿六日、八ツ後蒲生郷右衛門逼塞赦免、長髪見分イタシ御側御用人伊集院周右衛門相詰候、蒲生ハ本安藤名字之平八御金自儘ノ取扱ヒイタシ候儀ニ付、不念之御咎目也、

一近隣島津藤馬殿事近年至極身弱リ、近頃モ始終吐血等モ有之、何分懸念ニ存居候処、今朝ヨリ俄ニ吐血等有之、昼時分死去之由ナリ、且又汾陽次郎(光遠)右衛門事モ三日計リ煩ヒ有之前夜死去之由、是ハ当時流行之急症ニテ候由也、

一嘉味田親方ヨリ別段内証之贈リ物、拙者并ニ次郎四郎へ左之通リ有之候、

覚

一御茶(雀舌名色種)　二壺
一藕粉　二箱
一西国米　一重
一米素麺　一重

右駿河様へ乍軽品唐土産ニテ、御内証ヨリ進上仕度御座候、

一渋御扇子　一箱
一煎茶之碗　十
一島紬　一端
一白唐紙　一帖
一白砂糖　一籠
一焼酎　一瓶

右次郎四郎様へ差上度御座候、

久米村湖城親方并儀衛正
屋富祖親雲上楽童子六人手跡
一唐字　十二枚
一唐紙色々　十五(中枚)〔帖〕

右御慰ニモ可相成哉ト

御同人様へ御内々ヨリ進上仕度御座候、
右之通リ宜敷御取成被下度頼上候、以上、
九月廿六日　嘉味田親方
伊東茂右衛門様

一此節
宰相様御下向之節、於大坂豊後殿へ左之通リ被仰付候段通達有之候、且又御取縮向モ被仰渡候、
嶋津豊後殿
右ハ御用有之候ニ付、何篇御供同様中国・九州路被召列候旨、去ル十二日於大坂被仰付候段申来候、云々、
九月廿六日　左衛門
島津豊後殿
右ハ近来難被捨置御入価打続、過分之御新借ニモ被為及、当時ハ別テ御難渋成立、既ニ
公務モ難被為調御時節故、是ヨリ一涯御改革被　仰出候ニ付、新納駿河殿申談差ハマリ致精勤、近年中御改革之詮相立候様可心掛候、左候テ御新借之儀年々過分之利銀相掛、別テ御損亡之事候ニ付、何レモ涯々御返弁不相成候テ不相済訳合ニ付、御銀主等へモ及示談其通可致取扱候、勿論御改革方御内用掛ヲモ被仰付置、専御所帯引受取扱之事候ニ付、三都へモ時々被差出、依時宜長崎へモ被差出候旨、去ル十二日於大坂被仰付候段申来リ候、此旨向々へ可致通達候、
九月　左衛門

一先年来御所帯向御難渋ニ付御改革之儀被　仰出、追々其詮相見得候処、近年無御拠御入価打続御改革ヲモ相弛ミ、猶又過分之御新借ニモ被為及、当時別テ御難渋成立、夫形ニモ難捨置御時節故、当分御改革御年限中ニハ候得共、猶又当年ヨリ先拾ケ年ケ間厳敷御改革被相立、其内屹ト御改革之詮相立、御所帯向立直候様一統心掛可致精勤候、右ニ付テハ於向々モ綿密尽吟味、少事タリトモ御費筋之儀共無之様可心掛旨、
宰相様御沙汰被為　在候段申来候条難有奉承知、於向々茂右之御趣意一統厚汲受可致精勤候、此旨向々へ不

洩様可致通達候、

九月　左衛門
登
駿河
伊織

一九月廿七日、朝江戸去ル十日被差立候飛脚到着、御前様御不例之処御養生不被為叶候段御到来候、然トモ御運ヒニ付御差配之御訳有之、御弘メハ先ツ差扣被置筈ニテ候事、

一今日出勤、四ツ時打切リ退出ニテ大奥ヘ罷上リ、前条御到来之儀ニ付、御内々若殿様　典姫様ヘ伺御機嫌申上置直ニ退出、夫ヨリ畠山家ヘ立寄リ着替イタシ、タンタトウヌキ堀之所表立ニテ見分ニ差越候間、福崎助八・田中仁右衛門其外御役々出会細々致見分候、夫ヨリ實方御試紙漉所ヘ差越、是亦細々見分イタシ候、当分見聞役市來七左衛門・加藤清次郎等詰居候、夫ヨリ吉野牧内寺山ヘ御手許計ニテ当春比ヨリ炭山被仰付置候得共、場所柄ニテ運送旁大分之御損失相成候様ニ見得候間、今日モ細々見分イタシ候、寺山ヘ参着七ツ時分ニテ昼飯共給ヘ、直ニ打立山中細々致見分大鐘過仕廻、夫ヨリ中別府筋差急罷帰リ、圖師ケ迫ヘ参リ掛之比ハ六ツ過ニテ候ヘトモ、右之迫ヨリ水掛込ヌキ掘通ン集成館内ヘ相掛、水道御普請タンタトウ同様細々見分イタシ置、夫ヨリ急キ罷帰リ五時分帰宅イタシ候事、

一琉球詰郷原轉・諏訪數馬（伊勢）等琉球ヨリ早ク出帆ハ有之候ヘトモ、洋中不順ニテ朝鮮之内等ヘ三度計ツ、両人共乗戻リ、ヤウ〳〵近頃諏方ハ肥前之内松島辺ヘ着船ニテ、夫ヨリ今日御当地帰着、拙宅ヘモ着掛被立寄届等有之候由ナカラ、留守ニテ面会不致候、郷原モ久志辺ヘ着船ニテ、夫ヨリ陸地通行今日帰着有之候由也、

一九月廿八日、出勤毎之通リ、席々謁ニテ伺御機嫌有之、

八ツ退出、

一七ツ時分諏訪數馬被参候テ琉球之成行等細々届旁承候間、數馬ハ至極壮健之様子ニテ候、洋中之儀モ承リ候処余程及難儀候由、然トモ強運之至ニ候事、

一今晩近隣之藤馬殿葬送ニ付見廻、立挑灯トモ差遣シ候、尤昼之内大官香壱把・野菜料金百疋・酒一樽遣シ置候事、

一今夜四ツ時分左衛門ヨリ書状ヲ以、江戸去ル十日被差立候海陸二手之飛脚、只今到着候トテ問合被差廻候、然レトモ先日相達居候、

御逝去之御左右ニテ同案ニ候事、

一九月二十九日、今日飛脚差立候ニ付、岩下佐次右衛門へ書状并ニ為音信、芭蕉布九反・紬島壱反、且又諸調文代金トシテ壱両、用達猛右衛門へ取計為致差遣シ候事、

一今日例年之通リ御心付、田代太郎太名前ヲ以テ左之通被仰付候、

中之島

新納次郎四郎組
御小姓与
田代太郎太

〔朱書〕「本行拾弐両弐歩ニ佐々木弥兵衛江致付属、午十月九日金子入付有之候事、」

右之通来未春代在番申付候条可申渡候、

九月　駿河

右之通御用人川上正次郎取次ヲ以テ被仰付候、尤拙者名前ニテ候ヘトモ、此七島在番勤ハ御家老中并若年寄ナトモ一列ニ御内々御心付ニ付、月番之事候間拙者取扱イタシ候事也、

一八ツ後山田平藏見廻、明日ヨリ水俣ヘ人馬差引トシテ差越トノ事也、

一九月晦日、頃日天気続草木潤ナク、野菜類ハ干枯候程之事也、

一今日出勤、八ツ退出、夫ヨリ二之丸剣銃蔵へ御道具見分トシテ左右衞門殿列立差越、御役々出会七ツ時分相済、直ニ退出引取候事、

一三原藤五郎明日出立ニ付、今日三御役一同相揃宰相様伺御機嫌、且今般御介助并ニ段々御沙汰有之候御請御礼等モ申上置候事、

一七ツ後郷原轉被参、琉球之成行細々届共承リ候事、

一十月朔日、出勤、八ツ退出、今日宰相様江戸御発駕之御祝儀并ニ公儀御養君被仰出候御祝儀有之候、右モ此節之御停止中ニテ今迄御日合無之、当分モ江戸之御左右モ内々相届居候得共、今日御祝儀不申上候得ハ、猶又御日合無之故右之通ニテ候、右ニテ別段之御事ニモ被為在候間、退出ヨリ大奥へモ罷上リ、御祝儀申上候事、

一大口木之氏村取納米百六拾俵余昨日相届、今日迄モ計リ方用頼等見分也、例年遅方廻米相成候得共、当年ハ珍敷早目相廻シ候ニ付、至極一同心得宜敷相見得候段、褒詞申遣シ候様源助等へ達シ置候事也、

一夕方伊東新五左衞門被参、拙者雑譜昨年之処半分位中取写シ方イタシ候持参ニテ候、暫時ニテ被帰候事、

一大口泉徳寺へ当八月致寄付候高之所務取納方之儀、明暁打立木之氏へ今日之取納人共罷帰候ニ付、右之便ヨリ問合イタシ候様、長野源助等へ申遣シ置候事、

御高拾石之所務

右之通当秋取納ヨリ泉徳寺へ御仏餉料金トシテ御寄附被遊候間、彼之方へ直取納ニテ受取書ヲ以此御屋敷へ首尾可被致候、此段申越候様致承知申達シ候、以上、

但

是迄御寄付高弐拾石之儀ハ是迄之通ニテ、都合三拾石所務被召付候、此段モ為心得申越置候、

午十月朔日　　御用頼　林　仲之丞

長野　源助

木之氏村

差引

新納五郎右衞門殿

役々中

一十月二日、出勤、八ツ退出、夫ヨリ福昌寺へ、此節御取立之順聖院様御廟所最早半御出来ニ付内見分トシテ差越、七ツ半時分帰宅候事、

一十月三日、今暁宰相様大里へ御渡海被遊候、御左右申来候事、

一今日四ツ時ヨリ集成館へ左右衞門殿・福崎助八・田中仁右衞門・吉川源右衞門等始御役々相揃諸所委敷致見分候、御手広之事故大鐘過迄相掛リ、夫ヨリ引取候テ日入時分致帰宅候事、

一今晩新納矢太右衞門・伊地知小十郎・東次郎左衞門・磯永孫四郎・鎌田諸右衞門・五代才助等夜咄之儀相催シ置候処、拙者帰宅以前ヨリ被参居、緩々咄且ハ用向モ申談シ九ツ時分被帰候事、

一十月四日、四ツ時ヨリ玉里へ御光越前ニ付、彼是之御用有之罷出候、福崎助八・猪飼鋤太郎等同断ニテ八ツ過退出、

一今日嫡家四郎殿事登殿ヨリ月番御用人堀四郎左衞門取次ニテ御用被仰渡、病気等候ハヽ名代可差出トノ事候旨、今朝新納三次等参リ申聞有之候、四郎殿事于今内々三躰堂村へ滞在ニ付、病気之筋ヲ以御届申出、左候テ名代ニテ次郎四郎罷出候様申付四ツ時罷出候処、於敷舞台右之四郎左衞門引進ニテ登殿ヨリ左之通被仰付候、

新納四郎

右ハ未養子願申上、年輩ニテハ無之候得共近年多病有之、往々男子出生之期不相見得候ニ付、島津出雲二弟

北郷宗八郎儀養子被仰付被下度旨被申出、願之通被仰付候、

十月　登

右之通被仰付候ニ付、大目付以上へ御礼廻之儀モ次郎四郎ヨリ相勤候、左候テ出雲殿ニモ御用被仰渡、是亦当分足痛有之難被罷出候、北郷浪江殿名代ニテ前条同断之趣キ承知有之候由也、

一宗八郎殿事当春ヨリ学問稽古トシテ京都辺迄廻巡被致居候処、八月末都之城へ下着ニテ候得共是迄内分ニテ罷在、今暁御当地へ出府有之、今暁下着之由御届モ有之候由、且又都之城御懐おきよとのモ今暁御同列ニテ御出府有之、出雲殿御夫婦ハ此内ヨリ御出府ニテ候事、

一前条之通宗八郎殿事養子成被仰付候ニ付内々之祝可致候間、此方何レモ参リ候様申来リ候ニ付、祝儀旁トシテ則拙者夕方ヨリ参リ候、尤お悦モ参リ候、彼之方ヘハ北郷浪江殿御夫婦・黒木之御娘子壱人御出被成、極内々ノ祝ヒニテ中抑等モ不罷居位也、左候テ新納休蔵・同三次モ四郎殿方用向旁ニテ参リ候処、夜入奥之座へ被召呼候、右通極内祝ニテ緩々イタシ、四ツ過罷立候事也、

一右之通養子成被仰付候間、都之城へ拙者何レモヨリ肴一折・樽一荷為祝儀差遣シ候事、

一前条之通リ養子之儀願之通リ被仰付候旨、今日類中へ吹聴ハ勿論、三躰堂村へ則家来飛脚差立成行申遣シ候、尤末家中へ吹聴モ出シ置候事、

一十月五日、出勤、八ツ退出、夫ヨリ興国寺へ御墓参イタシ、七ツ時分帰宅イタシ候事、

一七ツ後鎌田諸右衛門・五代才助(友厚)参リ、再度長崎へ差越シ軍船等之乗方致伝習度内存之趣キ細々承リ、尤之儀ニ候得ヘトモ拙者存慮之趣モ有之候ニ付、篤ト其趣キ申入置候事、

一今晩梅北宗右衛門参リ、彼之方用向モ承リ候、右ハ此内ヨリ拙家之諸帳留并ニ雑譜中取共頼置候処、明日ヨ

リ國分高城方限ヘ取納米取締差引トシテ旅行之趣承候事共也、

一今日新納宗八郎殿京都ヨリ下着之土産トシテ、扇子一箱・鼻紙入一ツ・下緒大小・懐中品色々・子供用守袋等取合贈リ有之候事、

一琉球詰見聞役武宮十左衞門ヨリ安否為尋、紬島一端・木綿島一端・硯箱一ツ贈リ有之、書状共今日相届候事、

一十月六日、朝新納休右衞門被参候、且又都之城役人小杉丹左衞門モ被参候テ、段々用向一所ニ談シ合候事、

一八ツ後清水源兵衞被参、段々内用向承候、其内先頃蒸汽船参リ候節、拙者不調法之言語有之候由郡山被申候処、川畑弥以物笑有之候由モ承リ候事也、

一引続新納宗八郎殿御出被成暫時ニテ御帰リ也、其ノ内伊地知小十郎モ被参候事、

一三島并沖永良部与人トモ此内ヨリ致上国居、此節宰相様(島津斉興)従三位御昇進之御祝儀今日申上候ニ付、例式之通リ三役場ヘモ見廻、祝物左之通差贈リ候事、

進上

芭蕉布	十端	大島与人 福直靜志
真綿	三把	
黒砂糖 三十斤	一桶	
焼酎 四拾盃	一壺	

以上、

進上

芭蕉布	拾端	喜界島与人 当語
黒砂糖 三拾斤	一桶	
焼酎 四拾盃	一壺	

以上、

進上

芭蕉布内白五反 縞五反	拾反	

黒砂糖　三拾斤　一桶
焼酎　四拾盃　一壺
以上、

徳之島与人
奥奥山

進上
芭蕉布内白五反 縞五反　十端
黒砂糖　三拾斤　一桶
焼酎　四拾盃　一壺
以上、

沖永良部島与人
坦晋

一十月七日、頃日珍敷天気快晴続ニテ、八月十五日雨、
同二十六日雨朝之内ニテ、九月十四日細雨、其後頓ト
雨無之事也、
一今日四ツ時福昌寺へ
正覺院(島津重豪母)様御忌日ニ付
宰相様御代拝
但
御惣霊様へ御代拝
着服々紗・小袖・半袴
右之通相勤、左候テ今日
順聖院(島津斉彬)様御石塔御成就御供養有之候ニ付、右之詰モ相
勤候、
若殿様御名代島津讃岐殿ニテ昼時分勤行等相済候ニ付
直ニ退席、八ツ過帰宅イタシ候事、
一十月八日、嘉味田親方等見廻、且贈リ物等左之通也、
覚
一御扇子　一箱
一鍮銘火炉　一
一紺地島細上布　一端
一紺島細上布　一端
一桧垣紗綾　一端

一白縮布　一端
一島紬　一端
一龍紋緞子　一本

十月八日　新納太郎左衛門
嘉味田親方

右ハ琉球出米之内千石申受之儀、当年迄年限筈合候処、又々来ル未年ヨリ先三ケ年是迄之通被仰付候御礼也、

覚

一黒木骨金羽御扇子一箱
一石之盆　一
一彩色大碗　十
一紺地島細上布　一端
一紺島細上布　一端
一島紬　一端
一水色緞子　一端

以上、

嘉味田親方

右ハ館内届并諸士自物砂糖ニ相掛手形銀、来年ヨリ先キ二ケ年上納方御免被仰付候御礼也、

一十月九日、四ツ時ヨリ鋳製所へ左右衛門殿一所ニ差越、尤御軍役奉行田中仁右衛門・御趣法掛御用人福崎助八始御役々相揃ヒ諸事致見分、左候テ一往御取細メノ内評ヲモイタシ、八ツ半時分引取候事、

一当年御心付被仰付置候中之島在番佐々木弥兵衛へ、金拾弐両弐歩ニ付属イタシ候代金今日入付有之、猛右衛門受取リ差出シ候事、

一今晩宮里孫之進・福山郷士厚地次兵衛同道被参候、厚地ハ國分之内小村之内へ銅山当春比ヨリ順聖院様御手許計ニテ掘リ方被仰付、右ニ掛リ被仰付置候者ニ候ヘトモ、是迄拙者面会モ不致者候処、孫之進事馬之方ニテ知人ニ付召列被参候、右之銅山ハ至テ出方宜敷候ニ付今形被仰付置被下度内願之事ナリ、左候テ四ツ時分帰リ也、

一十月十日、晴天、昼ヨリ西風甚強シ、明十一日
宰相様御光着之御事ニ付、今日ヨリ段々世上賑々敷罷
成候事、
一今夜九ツ過時分西田方へ人声騒々敷候ニ付直ニ起出伺
候得ハ、西田町ニ当リ出火之由ニ付、則家来下々迄呼起
シ手当イタシ候処、山岡家近所之由承リ、今晩西北之
風烈敷別テ心配之事ニ付早々致出馬候処、山岡家合壁
笑岳寺之方極小屋ヨリ出火候処、右之通烈風ニテ迅速
ニ焼広、寿国寺下辺迄焼払、同寺之入口右手之供屋ハ
致焼失、其合壁長倉某ナト云内福之者共大家土蔵作リ
等モ両家共類焼、百姓家等ハ無申迄相応之軒数焼失、
誠ニ不慮之災殃、尤火元ハ無始抹故起リ候由ニテ何モ
異儀ハ無之由也、
一大出火ニ付新納宗八郎殿手廻外ニ家来・下男等召列御
出被成候由、乍然遠方故宗八郎殿ハ直ニ被帰、家来共
ハ拙者帰宅迄罷在候事、

都之城家来

大塔庄之助
永野　栄次
下男五人

此方家来共駆付

松雪伊太郎
黒岩傳太郎
新保正兵衛
武田治右衛門
恒見伊右衛門
又木元右衛門方
下人
棒頭之　善右衛門
陸尺之　市太

右之通リ早速参リ候事、
一用達伊東猛右衛門事ハ今昼ヨリ苗代川へ、今日
宰相様御着ニ付伺御機嫌トシテ、例之通リ同席中之用
達一列ニ差越候事、

今晩出火ニ付実弟伊東新五左衛門事ハタンタトウノ上居住之事候得共、早々見廻リイタシ候也事、

一十月十一日、朝曇西風弥強甚、昼夕刻少シ静ニ相成候事、

一今日五ツ半時分ヨリ玉里ヘ罷出、九ツ過キ御機嫌能御光着有之、其節御駕籠台涯ヘ御立之節通罷出候、其御小座内ヘ周防殿（島津久光）・又次郎殿（島津忠義）御出迎有之、御入之節御跡ヨリ付上御座末之様直ニ相下リ居候、左候テ無程拙者壱人ハ　御休息所ニテ

御目見被　仰付候間、御祝儀申上直ニ退席イタシ候、

御側向等ハ奥ヘ被為入候節、御通リ掛リ

御目見被仰付哉ニ承リ候事、

一豊後殿事モ御跡ヨリ則下着、至極元気之様子ニテ候、則ヨリ御用筋段々致承知、

御留守中御用取扱之筋モ御都合相成候段、色々御用取扱難有　御意之趣モ致承知冥加至極奉存候、御側役得能彦左衛門・永江休之丞等何レモ下着、元気ニテ祝儀挨拶トモ申入候事也、

一御着之御祝ヒ御吸物・御肴・御酒等詰席ニテ頂戴、御湯漬迄テモ被下候事、

一用達猛右衛門事ハ今日苗代川ヨリ罷リ帰リ候事、

一今晩大島与人福直静子緩々参リ度、先日ヨリ彌太右衛門ヲ以承居候間、不差支旨申入置候処、暮比ヨリ彌太右衛門召列被参候、右ハ先年彌太右衛門島方詰之節ヨリ親共始見知リ之者ニテ、此方ヘモ此内ヨリ致音信候者ニ付、次男國益ト申モ召列参リ塩豚一台・焼酎一瓶・紬島二端・澄砂糖一桶・百合葛二袋直静子父子ヨリ贈リニテ、四ツ時分迄致咄罷帰リ候事、

一十月十二日、初テ大霜昼晴天、四ツ時分ヨリ玉里ヘ出勤七ツ時分退出候、尤豊後殿出勤段々御用筋談合イタシ右之通リ也、

一今日帰宅之処御本丸永瀬・花野ヨリ文ヲ以左之通リ御

品々頂戴被仰付候、
返〳〵御めて度かしく
御めて度申入まいらせ候様ニ被仰
付候、まつ〳〵
御子様方御機嫌よく被為入候、
御事、御めて度難有かりまいらせ候、猶
御まゑ様御機嫌よく何方の御障
りも不被為在、御さへ〳〵しく御座あそ
ハし候御事、御めて度御歓申上まいらせ候、
さやうニ御座候得は、先達而ハ
御重
若殿様
典姫様（島津斉彬女子）江御進上被遊、御満そくニ思
召候、早そく御かこひニも被為成、皆々
へも御下候御事、いか程も御歓さまニ被為入
候、右之御挨拶かた〳〵として
此御さかな一籠
御ふんこ（文庫）の内
ま事に〳〵御そまつなから
御子様より御まゑ様江被下候まゝ、此
よしよろしく御申入まいらせ候様ニ被仰
付候、めて度かしく、
永瀬
花野
駿河様
人々
〆
右之通不存寄御品々頂戴被仰付候間、則御受まて左之
通申上置候事、
返々御見事成御肴、殊更
御文庫之内御うつくしき
御品々数々いたゝき、誠ニ〳〵
有りかたく頂戴申上まいらせ候、
御沙汰被下候由ニて、御くわしく
また〳〵罷上り御くわしく御礼、

御文難有拝見申上まいらせ候、まつ〳〵
申上候様仕り度其内御受之処、
若殿様幾重ニもよろしく御取成
典姫様弥御機嫌御よく日ニ増し
被下度御たのミ申上まいらせ候、
御めて度かしく
御成人被遊候御事、誠ニ〳〵御めて度
難有かり奉りまいらせ候、扨てハ此内恐
なから御伺申上度、御印までニ麁
相成しな〳〵御内々進上仕候処、
御満そくさまニ思しめし、御かこひニ
もあそハし、皆々へも被下候御事とも、
くわしく御挨拶被仰下、恐入奉り
まいらせ候、殊ニ
御肴一籠
御文庫之内
御両所様より被下候よし、こま〳〵
被仰下、誠ニ〳〵存寄り奉らす結構
の御品々頂戴仕、何とも御手厚
御取扱恐入難有く思しめし
さまの御礼申上尽しかたく、
いつれ御礼かた〳〵の御事、罷上り
厚く申上候様仕り度、其内御受まて
そなたかたさまて此よし申上
まいらせ候、よふそ〳〵御取なし被下置
候やうニ、御たのミ〳〵申上まいらせ候、
まん〳〵御めて度
かしく
新納駿河
永瀬さま
花野さま
人々
御請申上候
〆
右之通料紙小奉書二ツ折ニ相認メ、上包ニ折掛ニイタ

シ、宛書モ同様ニテ差出シ候事、

一十月十三日、朝霜相応昼晴天、今朝福崎助八・鹿島郷十郎・市來連右衛門・迫水善左衛門等、御用談旁ニテ被参候事、

一今日大奥ヘ罷上リ、昨日頂戴物被仰付候御礼申上候筈ナガラ、今日モ玉里ヘ罷出候得ハ其儀難叶候ニ付、近隣伊集院周右衛門ヘ相頼、永瀬・花野ヘ其内宜敷御取成給候様頼ミ遣シ候事、

一四ツ時ヨリ玉里ヘ出勤、七ツ前退出、豐後殿モ同断也、

一今日玉里御小納戸ヨリ手紙ヲ以左之通頂戴被仰付候事

青籠一

右ハ此節

宰相様御下向御中途御到来之品ニテ頂戴被仰付候、差廻シ申候、尤御礼之儀ハ取繕申上置候間、別段不及御参殿候、此段申上候、以上、

玉里

十月十三日　御小納戸

新納駿河殿

〆

右ニ付御受書相応ニ相認メ差出シ候事、

一新納猪之助ヨリ今日モ田代太郎太方ヘ参リ、權左衛門方ヘ先達テ申受被仰付候高十五石之儀ニ付、不勘弁之儀トモ申出候由、尤先日モ太郎太等ヘ申出候由、存寄申入置候処又々申出候由被申聞候間、甚不勘弁之筋候間、叱リ置候様ニ申達シ置候事、

一十月十四日、四ツ時ヨリ玉里ヘ出勤、八ツ過退出、豐後殿同断、左候テ今日四ツ時伯耆殿下着ニテ、此節御跡目御養子之儀御願之通リ被仰出候御模様ニ付、五十日拾三ヶ月之御忌服御請被成候、御出府候様ニト従公儀（甲仰）〔御〕達之御書付持下リ候ニ付則宰相様（島津斉興）御覧ニテ即明日

又次郎殿（島津忠義）ヘ御達シ申上候様ニトノ御沙汰ニテ、諸御手

当今日相成候事、

一右ニ付拙者退出ヨリ重富へ参リ、又次郎殿へ御用之儀被為在候間、明日四ツ時

御登　城被成候様申上候、重富ニテハ最早周防殿御出迎御挨拶ニテ御引入被成、左候而

又次郎殿御出被成候ニ付、其節前文之趣キ申上候処、又直ニ

御引入被成、周防殿(島津久光)御出ニテ直ニ吸物・掛盃・差身ニテ被下一通リ周防殿御盃致頂戴相済、直ニ一汁三菜之御料理被下候間、夫限リニテ退席イタシ候、右御用召之儀、先年

重年公御相続之節ハ、内用頼御用人へ達シ相成、夫ニテ

御承知為有之由候得共、其通リニテハ御軽御取扱之様見得候ニ付、此節ハ御家老ヲ以御申入ニ相成候方可然トテ、右之通拙者相勤、七ツ半時分帰宅候事、尤モ拙者参上之儀彼方納殿玄喚(関)ヨリ罷出、其辺ハ軽クイタシ候事、

一今夕方左之通御使ヲ以致承知候、

周防殿使口上

又次郎殿事明日御用之儀有之、御登　城被為成候様被致承知候ニ付テハ、心之祝被致答御座候間、明日八ツ後ヨリ御出給度被存候、此旨使ヲ以被申達候、以上、

十月十四日

右之通致承知候旁ニ付、則今日大鯛二枚・樽一荷用達ヲ以御祝儀ニ致進上候事、

一十月十五日、五ツ半時分出勤、八ツ退出、今日

又次郎様御事重富家格通之供廻リ被召列、高欄口ヨリ

御登　城、御部屋へ被成御扣候、左候テ豊後殿・伯耆殿始我々一同小鳥之間辺へ相揃、御座構等宜敷節御小納戸ヨリ御案内申上候節、

又次郎様御座之間へ御通、上之間下敷居ヨリ二畳目御

客居ニ

御着座被遊候ニ付、其節豐後殿・伯耆殿御跡ヨリ添上御着座之節直ニ御側へ被罷出、伯耆殿ヨリ此節順聖院御跡目御養子御願被為　在候処、五拾日拾三ケ月之御忌服御請被遊候御出府有之候様、従公義御達被為　在候間其段御達申上候段被申上、左候テ引キ続キ豐後殿ヨリ右通リ御承知ニ付テハ、則ヨリ二之丸之格ヲ以、桜之間辺へ御栖居被遊候様、宰相様御沙汰被為　在候段被申上候、右御手数之間左衞門殿・登殿・拙者・伊織殿ハ二之間末御主居之方ニ一列相詰居候、右両条伯耆殿・豐後殿ヨリ被申上候後、則御側役へ御案内申上候様豐後殿ヨリ被相達、大菊之間御敷込ヨリ御休息へ御通、実ハ則ヨリ二之間へ御栖居有之候、左候テ周防殿へ御対顔有之、引続御家老・若年寄・大目付へ御逢有之、夫ヨリ奥向御役々無残御逢有之候、右等之御手数相済直ニ壱本御道具ニテ玉里へ被為入候、右之為御持御道具モ則順聖院様壱本為御持之御道具ニテ候、尤桜之間御中門矢来御門御出也、右之御次第モ都テ昨日ヨリ御手当相成居候事、

一今日於唐子之間大目付以上へ御吸物・御核（ママ）・御銚子被下候、尤御精進品也、今日重富へハ御断申上不罷出候事、

一当年為御祝儀上国与人共今日拙宅へ召呼、例之通致面会盃一通リ遣シ候、於役所酒・飯共緩々振廻候、右ニ付御勝手方書役之内道之島掛リ井上嘉左衞門・吉村才之丞早目ヨリ参リ何篇致差引候、右与人トモ進物左之通、

進上

御肴　一折

御酒　一荷五盃ツヽ入

以上、

進上

真綿　三把

尺筵　一束

以上、

大島与人
福直静志

進上

御着　一折

御酒　一荷五盃ツヽ入

以上、

喜界島与人
当語

進上

芭蕉布　四端

黒砂糖弐拾五斤入　一桶

焼酎　拾五盃　一壺

御着　一折

以上、

喜界島与人
当語

進上

御着　一折

御酒　一荷五盃ツヽ入

以上、

徳之島与人
奥奥山

進上

芭蕉布内白一反
縞二反　三端

黒砂糖拾斤　一桶

焼酎　拾盃　一壺

塩豚　拾斤　一桶

以上、

徳之島与人

奥奥山

進上

御肴　一折

御酒　一荷五盃ツヽ入

以上、

沖永良部島与人
坦　晋

進上

芭蕉布内白二反島一反　三端

黒砂糖拾斤　一桶

焼酎　拾盃　一壺

塩豚　拾斤　一桶

沖永良部島与人
坦　晋

右之通ニテ、此方馳走之儀ハ去年之通リ致会釈候ニ付留略ス、与人共ハ夜入緩々ニテ帰リ候事、

一十月十六日、暁微雨、塵埃モ治ラン程ナリ、頃日珍敷照続キニテ候、今朝五ツ過出宅、豊後殿へ着之祝儀ニ玄喚(関)迄見廻、夫ヨリ周防殿・樂水殿・静洞殿へ、昨日又次郎様御上リ之御祝儀トシテ御近習迄見廻、夫ヨリ福昌寺へ参詣イタシ、夫ヨリ玉里へ出勤、八ツ退出、豊後殿モ出勤有之候事、

一今日玉里ニテ左之通被　仰付候、

新納駿河

右ハ此節

又次郎様就

御出府御用取扱被

仰付候、

十月　豊後

右之通被仰付候間、御請御礼申出置、御側役橋口今彦へ相付御札モ申上置候事、

一今昼之内北郷浪江殿奥方、此内嫡家へ宗八郎殿引結等之儀ニ付、見廻リ被成候由也、

一夕方四郎殿方へ宗八郎殿始豊前殿ナトヨリ之被遣物此

方迄参リ候間、明日モ三躰堂迄差遣度、今晩則新納三次・同休藏等へ申遣致手当候事、

覚

一御肴　一折
一金子　二百疋
一御樽　一荷

右

四郎様へ

一御肴　一折
一御樽　一

右

御家内様へ

右之通被致進上候、以上、

新納宗八郎使

十月十六日

右中奉書半切ニ認メ、上包美濃紙折掛

覚

一御肴・御樽代　三百疋

右

四郎様へ

出雲ヨリ

一御肴・御樽代　三百疋

右

御家内様へ

出雲何レモヨリ

十月十六日

右料紙等同断

覚

一御肴　一折
一紬　裏絹相添　一端

右

四郎様

一岸島　裏絹相添　四端

右

〔朱書〕
「お熊さま

おせひさま
おさとさま
おかねさま」

御家内様へ

右之通隠居夫婦ヨリ被致進覧之候、以上、

十月十六日

右料紙等同断

一十月十七日、朝新納休蔵参リ、昨夕方都之城ヨリ参リ候品々、今日家来飛脚差立三躰堂へ差遣シ候手当ニテ今朝休蔵受取被申候事、

一今日出勤、八ツ退出、豐後殿出勤無之、内実ハ村橋數馬殿内室豐後殿娘子ニテ、此内ヨリ永々病気之処至極不勝由ニ付、出勤無之由ニ及承候事、

一八ツ前竪山武兵衛ヨリ、此節又次郎様御出府ニ付テハ、御用掛被仰付候面々追々御供ニ可被仰付、拙者モ其内ニ可有之旨承リ候間、是ハ当惑イタシ候、余人ハ無申迄茂事候ヘトモ、拙者ニヲイテハ奉恐入候段申答置候、左候テ八ツ退出ヨリ重富へ罷出右竪山ヨリ致承知候趣難有儀ニハ奉存候得共、相成事候ハヽ此節ハ豐後殿へ被仰付、以後之儀ハ何様共御受申上度心事内存之趣細々申上候処、別テ難有御趣意ニテ候、暫時罷在御暇イタシ候事、

一今日例年御心付之金山蔵役人、来未秋代リ壱人前ノ附属料弐拾両金山奉行ヨリ用達猛右衛門へ被相渡候由、猛右衛門差出候間、受取致格護置候事、

一今日四島与人共へ餞別品例之通リ取合差遣候間、猛右衛門ヨリ書付トモ相添候事、

一十月十八日、朝山口喜三右衛門見廻、昨日御心付被仰付候御礼也、

一四ツ時出宅、浄光明寺へ
(島津忠久)
得佛様御忌日ニ付
宰相様御代拝

但
御惣霊様へ御代拝
着服々紗・小袖・半袴
右之通相勤夫ヨリ出勤、八ツ退出、
一又次郎様毎日福昌寺へ
御仏参被遊候間、四ツ時御供揃也、
一八ツ後三原喜之助御心付金被下候御礼ナリ、引続加藤清次郎来春代沖永良部島見聞役被仰付候御礼、引続黒葛原源助事近日ヨリ口之島へ渡海被仰付候御礼、且ハ御用筋有之候被参候テ、七ツ後迄テモ引続候事、
一今日道島源五郎へ田代太郎太ヲ以テ、七島在番付属料之内金八両程、昨年長野源助へ遣シ候例ヲ以遣シ候事
一十月十九日、朝伊集院直五郎・蓑田傳兵衛等御用談ニ付参リ候事、
一四ツ時ヨリ玉里へ出勤、八ツ退出、今日玉里ニテ豊後殿へ左之通申渡イタシ候、

嶋津豊後
右ハ御内用之儀有之、江戸へ被差越候条、此節
又次郎様御発足御同日致出立、御中途被召付候同様之振合ニテ罷通リ、出府之上御用相済次第罷下候様
宰相様被
仰付候、

十月　駿河
一拙者事先日ヨリ持病之疝癪・眩暈症ニ有之候間、当分西郷幽泉相頼ミ針治、且朝稲三益薬相用候事、
一十月廿日、今朝極少々時雨也、頃日ハ快晴続ニテ雨ヲ願候時宜也、今朝相良弥兵衛参リ、長崎ヨリ昨日帰着ニテ、此内在留カピタンへ引合、大島へ渡来品替等之儀取組有之候ヘトモ、此節
御逝去ニ付、以来左様之儀無之様断リ切リ之儀右弥兵衛取扱相済候段申出、別テ致安堵候、書付等モ見届置候事、

一今日出勤、八ツ退出、夫ヨリ周防殿へ罷リ出段々御用筋申上、且ハ勝麟太郎殿状江夏十郎へ被遣候ヲ江夏ヨリ周防殿へ差上候由、夫ヲモ御見セ被成候、右状之内周防殿御名モ見得居候ニ付、彼是御咄シ趣モ有之候、大鐘時分罷立帰宅候事、

一十月二十一日、四ツ時ヨリ玉里へ出勤、豊後殿同断ニテ八ツ退出、

一七ツ後永江休之丞被参段々御用筋モ有之候事也、

一十月二十二日、霜晴天、今朝六ツ半時分出宅、福昌寺へ差越候、今日

順聖院様御位牌御出来、御細工所ヨリ五ツ時福昌寺へ御廻リ則御供養有之候ヘトモ、御家老詰ハ無之、御一門方之内ヨリ

御名代有之迄ニテ候間、拙者自分ニテ参詣新御牌拝見仕、御供養相済ミ候上拝礼仕退席、夫ヨリ出勤、八ツ退出候事、

一今日名越左源太御弓奉行・有川十右衛門御右筆見習被仰付候、右両人先年右之通リ相勤居候ヘトモ、本高崎名字之五郎右衛門等無調法之節携居候者共ニテ、名越御役御免遠島、有川ハ御役御免逼塞ヵ被仰付候者共ニテ、今日再勤至極難有御取扱別段之事也、

一北郷作左衛門殿奥方ハ都之城豊前殿御娘子ニテ候処、此内ヨリ長々病気ニテ頃日至極不勝事之由、今日四ツ時分養生不相叶候由也、

一十月二十三日、朝迫水善左衛門見廻リ、先日御心付百両被仰付候御礼也、

一今日出勤、八ツ退出、今日御殿ニテ御小納戸堅山八郎ヨリ拝領物被仰付候間、大目付以上只今唐子之間へ相揃ヒ候様、左候テ今日ノ被下候者ハ

順聖院様(島津斉彬)御在世中御召之御品ニテ別段ニ候間、左様可心得旨致承知候、一同相揃ヒ候処御側役堅山武兵衛相

詰、御小納戸右之八郎御取次ニテ、拙者・左衛門殿初一同ニ御熨斗目・御ワタ入一ツツ、拝領被仰付、拙者戴ハ薄紺色ニテ殊ニ前文之通御召品御垢付ニ候得ハ、旁恐入難有頂戴仕候、外一同モ同様之御品ニ見得候、左候テ則武兵衛迄御礼申上候事、

但

奥向御役々ヘモ一同拝領物被仰付候哉ニ及見候事

一豊後殿事ハ此節作左衛門殿内室死去姪之続ニ付、忌中故今日忌御免之儀玉里ヘ奉伺候処、即御免被仰付候事、

一八ツ後相良正之助来ル廿六日江戸ヘ出立之筈ニテ、暇乞見廻也、

一千田傳左衛門先日長崎ヨリ帰リニテ、今日紅毛焼蓋物壱ツ・更紗一着・遠眼鏡壱ツ三品トモ能キ品物贈リ有之候、此内御心付等被仰付候儀モ有之候ニ付、心入有之候而之事也、

一此内上国唐之首尾使者宜野灣親方ヨリ、氷砂糖一籠・焼酎砧一双贈有之候事、

一十月二十四日、夜前ヨリ相応之雨ニテ草木人民喜ヒ候事ナリ、今朝名越左源太殿見廻有之候、是ハ先日再勤被仰付候祝儀トシテ肴・酒共、親父隠居之一庵殿并ニ右之左源太殿相中ニ遣シ候礼ニテ、一庵殿ヨリ之伝言共承リ候事、

一今日玉里ヘ出勤、豊後殿モ同断ニテ八ツ退出候事、

一今日玉里ヘ

又次郎様御事八ツ時御供揃ニテ被為　入、夜入過御帰殿被遊候由也、

一夕方竪山郷之丞・福崎直之丞参リ候テ、今日鎌田出雲殿ヘ差越病床ニテ致面会、大坂ニテ金百両受之儀ハ御用金ニテ候哉、其身拝借之事ニ候哉、且又日下部伊三次・伊地知龍右衛門京都ヘ学問稽古出張之儀ハ出雲殿差図ニテ被差越候哉尋候処、金之儀ハ自分拝借ニテ候間追テ返上之心得ニ候、両人出京之儀ハ何ソ屹ト立差図ハ不致候得共、承リ候儀モ為有之趣之事ニ付拙者承リ置候、其段豊後殿ヘ申入置候様竪山・福崎ヘ達シ置

候事、右

日下部事ハ先月廿八日方従

公辺御呼出シ有之被差出候処、則揚屋入被仰付候由ニ付、不容易御用筋ニテ候事、

一今終日西風騒々敷雨モ細雨ナカラ終日無止間候事、

一十月二十五日、今日ヨリ於福昌寺

順聖院様御百ケ日御法事有之、登殿被相詰候事、

一今日林仲之丞ヘ長野源助ヲ以金子八両遣シ置候、是モ道島源五郎ヘ遣シ候同様寶島在番之場ニテ候、林迄遣シ候ニ付キ、当時内用向世話被致候長野・道島・林・田代四人共三ケ年ニ八両ヅヽ遣シ、年来之挨拶一返ハ済候事、

一十月二十六日、今朝五ツ過唐之首尾使者ニテ上国宜野灣親方ヘ中山王ヨリ之用向申付有之、今日聞役太郎左衞門同伴ニテ参リ、内意之趣キハ来ル申年冠船引受之筈候処、唐国争乱等ニ付、年期延之願ニ付承置相応ニ相答置候事、

一今日四ツ後ヨリ豐後殿・拙者・玉里御側役永江休之丞并ニ御趣法掛御用人福崎助八蒲生郷右衞門・御軍役書役等相揃ヒ鋳製所ヘ出会、同所細々致見分、夫ヨリ祇園洲台場致見分、夫ヨリ集成館并ニ木之実油澄所等迄細々致見分、日入時分同所打立銘々相別レ暮前ニ拙者帰宅候事、

一十月二十七日、早朝山口喜三右衞門・福永直之丞・堅山郷之丞等御内用有之、追々参リ候、豐後殿ヘ申談シ為致京都表ヘ掛合事等ナリ、

一一昨日ヨリ於福昌寺

順聖院様三十五日・四十九日・御百ケ日御法事今日満散ニ付五ツ前出宅、拙者相招キ勤行中

宰相様

若殿様御名代参モ兼相勤メ候、左候テ勤行済

御名代島津圖書殿ニテ御寄合有之、惣済ニテ退席イタシ候、御寄合之御名代御一門方当然ニ候ヘトモ、当時垂水・今和泉御両人共御病気ニテ、其外ハ御名代勤御用捨且ハ幼少ニ付誰モ無之、右之通宮之城被相勤候事、

一帰リ掛月香院并大興寺ヘ法雲院様(新納久脩室)御忌日ニ付致参詣、帰リ掛ケ周防殿ヘ先日御使ヲ以肴一折・酒一樽・白紬二反・葉煙草十斤位此節御上リニ付御世話申上候趣ヲ以テ被下候間、右之御礼近習迄御見廻申上候テ七ツ半頃帰宅候事、

一今日次郎四郎事、豊後殿ヨリ表御用人肝付左門取扱ヲ以テ、明日御用致承知候間御受申出置候、乍去先日ヨリ口中之痛有之、明日迄ハ難罷出様体ニテ候事、

一宜野灣親方等ヨリ例式之通リ贈リ物左之通、

進上

大官香　三把
白花紗綾　三端
毛氈　二枚

以上、

宜野灣親方

進上

官香　三把
銅板齊(ママ)　一端

以上、

盛島親雲上

一相良弥兵衛先日長崎ヨリ帰リ、其前大島ヨリ帰リ涯引続候事等ニ付、出崎前御心付等被仰付候儀モ旁ニテ、今日更紗風呂敷二ツ・大島真綿一把・ブトウ酒一瓶・ゼネフル一瓶土産トシテ贈リ有之也、

一十月二十八日、次郎四郎事御用ニハ罷出体無之候間、病気之御届申出置候事、

一今日出勤、八ツ退出、夫ヨリ南林寺ヘ差越シ寺社奉行新納主税・御側役堅山武兵衛・御趣法方掛リ中村新助・御作事奉行等相揃同寺内ヘ、

順聖院様御石塔御建立之場所見分イタシ候、禅堂之西脇当時畠地之所へ能御場所有之候間其所へ致内決、七ツ半時分帰宅候事、

一今日御小姓組番頭島津壬生・御用人兼務伊集院平治御用人へ御役替被仰付候、平治ハ本物頭也、其外御勘定方小頭等壱両人御役替等有之候事、

一嘉味田親方新納太郎左衛門同伴ニテ、此節願之焼過砂糖五拾万斤重仕登セ年限筈合候ニ付、又々願之趣有之、来未年ヨリ先二ケ年願通御免被仰付候御礼也、仍テ贈リ物等有之候事、

一十月二十九日、四ツ時南泉院へ
文恭院(徳川家斉)様御忌日ニ付
宰相様御代参
但
着服のしめ、半袴
右之通リ相勤夫ヨリ出勤、八ツ時退出候事、

一今日豊後殿へ肴一折・酒一樽・玉掛床大壱ツ・毛掛子銀鼠壱ツ・東道盆朱ヌリ沈金蒔絵壱ツ彼是之礼旁トシテ遣シ置候、且又町田主馬殿へ肴一折・唐扇子一箱・藤縁長盆壱ツ・藤縁菓子皿十近日御供ニテ出立之事ニ付遣シ候事、

一佐土原家老伊集院相馬主用ニ付出府イタシ今日見廻ニテ、穂北紙三束贈リ有之候事、

一十一月朔日、白霜強ク晴天、今日玉里へ出勤、豊後殿同断、重立候御用筋段々有之、其内
宰相様御手元金六万両此涯表方へ御差出被下候間、右ヲ以テ江戸御借銀等無拠高利之株ニテモ御返弁ニテ、何辺御改革筋屹ト行立候様可取計旨難有御沙汰之趣、先日豊後殿承知、私ニモ同人ヨリ承知仕候ニ付、今日豊後殿申談シ、連名ニテ御請書相認メ、永江休之丞ヲ以テ差上置候、八ツ時退出候事、

一昨日町田主馬へ遣シ候通リ、竪山武兵衛江今日遣シ候、

一十一月二日、今日出勤、八ツ退出、次郎四郎今日罷出候処、御用人肝付左門引進ニテ左之通被仰付候、

一御用人兼務

一奏者番是迄之通　　新納次郎四郎

右之通被仰付候、

十一月　　豐後

右之通被仰付難有次第ニ付、則同席中ヘハ勿論、御側役町田主馬ヘ相付、御内証之御礼申上置候事、

一右ニ付八ツ後ヨリ類中并ニ三御家老座書役并ニ御用人座書役等召呼、祝酒緩々振廻賑々敷致祝候事、尤おいつさま并ニ武之橋御母堂モ御出被成候事、

一十一月三日、出勤、明日豐後殿出立ニ付、大目付以上一所ニ相揃、江戸御方々様ヘ伺御機嫌申上候事、

一又次郎様今日八ツ時御供揃ニテ玉里ヘ被為入候御事也、

一迫水善左衛門・伊集院周八ヘ明日御供立ニ付琉人贈リ品之内藤縁盆三枚・細上布壱反・永良部島芭蕉布二反・刻煙草二十包・唐扇子一箱ツヽ、迫水ヘハ現看一折、伊集院ヘハ看料金百疋差遣シ候事也、

一豐後殿娘村橋數馬殿内室此内ヨリ之病気養生不相叶内実ハ夜前死去之由、然レトモ先ツ病気之筋ニテ候由承リ候間、今日中何モ差扣使等不遣候事、

一今日豐後殿ヨリ扇子十本入一箱・革文庫壱ツ・朱ヌリ金蒔絵有リ革封箱壱ツ・堅文箱一ツ・手助一掛・極上袴地壱反・琥珀土産ニシテ贈リ給リ候事、

一諏訪數馬殿ヨリ琉球産トシテ豚・焼酎并ニ背負道乱二ツ贈リ有之候事、

一嘉味田親方ヨリ此内公方様薨御ニ付中山王ヨリ

公義江伺御機嫌之儀、来夏御当地迄親方使者可差登筈候ヘトモ、在番ヘ兼務被仰付度内意有之、其通被仰付候為御礼今日見廻リ、且贈リ物左之通有之候、

覚

扇子　一箱
紺地島細上布　一反
紺島細上布　一反
毛氈　二枚

以上、

嘉味田親方

一今日山口喜三右衛門ヨリ扇子壱箱・焼塩并楊枝・歯磨粉等三品包一ツ・木綿形付半天地一着・小倉袴地壱反江戸土産、且ハ御心付被仰付候為礼贈リ有之候事、

一十一月四日、晴天、今朝六ツ過出宅、三役一同出揃ニテ唐子之間ヘ罷通リ居候処、御吸物・御肴・御酒被下候、御精進物ナリ、左候テ無程御逢可被遊旨御側役ヨリ承知候間、三役一所ニ三四人ツヽ罷出候、左候テ奥向御役人都テ同様被仰付候、相済候テ御機嫌能御立桜之間ヨリ御出有之候ニ付、其節御駕籠台涯芙蓉之間之内ヘ罷出候事也、

一今日四ツ過退出、夫ヨリ三役壱人ツヽ玉里ヘ罷出、今日御機嫌能御発駕被遊候御祝儀申上候テ、拙者八ツ迄相詰退出、且一昨日次郎四郎事難有被仰付候御礼モ、今日御側役得能彦左衛門ヘ相付申上置候事、

一夕方東郷一介被参候テ、都之城家来トモ両人寺入申付有之候ヘトモ、此節先祖遠回有之候ニ付、恩赦申付度相談承候事也、

一夕方木場次右衛門被参、先日同人事御記録方見習再勤被仰付候御礼也、尤名越等一列御勘気ニテ再勤之故、別段難有狩リ被参候事ナリ、

一十一月五日、出勤、八ツ退出ヨリ祇園ノ洲台場当分御修覆中ニ付、左衛門殿一所ニ見分ニ差越候テ、田中仁右衛門御軍賦役等相揃ヒ差図イタシ七ツ半時分引取候事、

一今日拙者頭瘡之煩ヒニ付、一往惣髪成リ之儀左之通リ、月番御用人島津壬生ヘ用達ヲ以差出置候事、

口上覚

〔朱〕「願之通被成御免候、

十一月　左衛門

右之通同十日御用人同人取次ニ而御免被仰付候事、」

私事頭瘡之煩ヒ有之月代難儀仕候間、一往惣髪被成御免被仰付被下度奉願候、此旨御申可被下候、以上、

十一月五日　新納駿河

一おせひとの事此節舎弟清嘉殿御供ニテ出立ニ付、三日之晩ヨリ被参滞在ニテ今晩帰リ也、

一十一月六日、四ツ前御軍賦役折田平八被参、昨日江戸ヨリ下着之由、段々御用向承候事也、

一四ツ時ヨリ玉里ヘ出勤、八ツ退出、今日ハ此内豊後殿ヘ申談置候集成館内之諸事御取縮之一件、其外段々新御趣法事モ御利潤不相見得事ハ御取細之方ニ致吟味置其段先日ヨリ永江休之丞ヲ以御耳ニモ入レ置キ候ヘトモ、何辺拙者罷出御直伺ヒ申上候方可然トノ御事ニテ、今日宰相様御都合宜被為在候間罷出奉伺候様承知仕、直ニ罷出吟味之成行申上候処、何モ御都合能御聞取被下、都テ吟味之通リ被仰付候トノ御事ニテ、至極難有次第ニテ候、右通リ宰相様ヘ御直伺被仰付候ハ、余程人柄御見知不被為在候ヘハ不被仰付事ニテ、豊後殿外ニ近比御直伺被仰付候人ハ無之位ト存候間、拙者ニヲヒテモ別テ難有次第也、

一十一月七日、五ッ時分出宅、福昌寺へ、
正覺院様御正忌日ニ付
宰相様御代拝
但
着服熨斗目・半袴
右之通相勤帰リ掛周防殿近習迄御見廻申上、先日
又次郎様御機嫌能御発駕被遊候御祝儀申上置出勤、八
ッ退出候事、
一今日伊集院直五郎ヨリ扇子五本入一箱・風鎮一箱・絵半
切三折・小倉袴地一反・肴酒料金三百疋江戸土産、且
ハ先日御心付等被仰付候為礼贈リ有之候事、

一十一月八日、黒霜寒強昼晴天、毎之通リ出勤、四ッ打
切リヨリ二之丸御宝蔵へ差越候、御趣法方御用人福崎
助八・御側役代猪飼鉚太郎・御納戸奉行有馬次郎右衛
門其外御役々相揃ヒ、御宝蔵虫付ニテ此内ヨリ御立替
之筋ニ決シ置候ニ付、右御蔵へ御格護金頭高五拾万両
之内七万五千両ハ此内海防御手当旁ニテ一往被差出、
当分四拾弐万五千両ト大判金百枚御格護ニテ、外ニ御
家老方格護金箱弐拾七、又別段格護金箱弐竿、都テ外
御庭内御土蔵へ移方イタシ、且又御手本等へ有之候御
金等彼是取合弐万両余有之候、右之御金等モ角之御蔵
脇ニ近頃御取建相成居候小御土蔵へ入付有之候モ、都
テ今日外御庭内前条御蔵引并二棟有之候ニ付、右之二
棟ニ御金棚共配合セ御格護イタシ候間余程隙取、暮時
分御家老切封之分ンハ入付相済候ニ付拙者退出イタシ
候、御趣法掛切封等ハ夜入暫時不相掛候テハ難済時宜
ニテ候事、

一十一月九日、今朝田原直助見廻、且扇子一箱・麻絹上下
地一反此内長々伊豫国宇和島へ差越居先日帰リニ付土
産、且ハ成リ行届旁也、

一十一月十日、出勤、八ッ退出、夫ヨリ周防殿へ罷リ出、

此内豐後殿申談置候御取縮メ向等ノ条々、先日
宰相様へ御直ニ奉伺候処都テ吟味之通リ被仰付、難有
次第奉存候段成リ行御届、且ハ右ニ付段々承知仕候趣
モ有之、大鐘過御暇イタシ、夫ヨリ帰掛垂水へ、明日
出立ニ付御暇乞近習迄見廻置罷帰リ候事、
一去ル五日願出置候拙者惣髪成リ、今日願之通リ被成御
免候段、左衛門殿ヨリ御用人島津壬生取次ヲ以被仰付
候事、
一今日左之通リ致承知候、
宰相様近日之内ヨリ中村御茶屋へ被為入
御逗留之筈ニ付、何ソ其内
御伺不相成候テ難叶御用筋モ御座候ヘハ、
御聴被遊候上　御出可被為
在トノ御事ニ御座候間、其段貴所様へ私ヨリ申上越候
様被　仰付候間、御伺事モ御座候ハヽ、両日中ニ御伺有
御座度、何分明日モ承知仕度此段申上越候、以上、

十一月十日　　永江休之丞

新納駿河殿

一十一月十一日、夜前風今朝極冷気、花ヒラ等モ少々降
リ候位ヒナリ、極早朝田中源五左衛門・田原與兵衛列
立参リ申出候趣ハ、京都清水成就院トカ申所之住僧月
照僧名忍向今名鑁水ト申者夜前御当地へ参着、則日高
存龍院へ手紙差越致面会度申遣候由、然トモ月照事ハ
此内關東ヨリ御尋有之者之由、存龍院ニモ内々及承候
者候間、直様致面会候テ可然哉、親類之事候間田原與
兵衛召呼存龍院及相談候処、與兵衛ニモ同意之事ニ付、
則懇意之田中致同列拙者へ内々承リ候上、面会モ可致
トシテ右次第之由承リ候、就テハ忍向事此内ヨリ段々
聞得之趣モ有之、鎌田出雲殿へ差向候書状等モ有之、
彼是拙者共モ甚込(困)リ入タル者ニ候間、何分厄害成者入
来リタル事ニ候、乍去存龍院ハ宮様御猶子中間之由ニ
付、面会不出来旨之断モ難立存候ニ付イツレ面会ハ可
致、乍去懇意申談候儀ハ決テ不可然候間、其段ハ深勘

弁有之候様先当座之答イタシ置、猶細々吟味ニ及ヒ返答可致申達置候、右之両人ハ暫時ニテ被帰候事、

一今日玉里ヘ出勤、八ツ退出、

一九ツ時垂水モ出立有之、用達等如例水上迄差遣シ候事、

一十一月十二日、夕方御裁許掛リ築瀬源之進参リ鑁水一件段々申出モ有之、吟味事ニテ隙取被帰候事、

一十一月十三日、今早朝福永直之丞召呼ヒ、昨夕築瀬源之進申出候御用筋申達、致吟味候様申付置候事、

一今日四ツ時ヨリ中村御茶屋ヘ

宰相様被為　入

御逗留被遊候事、

一今日四ツ過ヨリ出宅、荒田塩浜近比ヨリ赤穂手筋ヲ以致焚方候様、

順聖院(島津斉彬)様御手許ヨリ江夏十郎ヘ掛リ被仰付御取付相成居候ヘトモ、御趣法立候儀無覚束候間、旧来通リ被仰付度吟味イタシ先日

玉里ヘ奉伺候処、其通リ被仰付候間右之塩浜ヘ差越、福崎助八・中村新助等始メ郡奉行其外御役々出会、当分之仕向御取止ニテ旧法通リ被仰付候差図共段々イタシ候、夫ヨリ郡元村之内ヘ浜手罷通リ同村浜手ヘ木綿植付方モ近頃ヨリ新法被付置候間、右之地面カタ〳〵見分イタシ候、夫ヨリ柏原川之涯ヘ硝石丘御引直シ之筈ニテ地面引立有之候ヘトモ、

御逝去ニ付是モ御取止之筋ニ吟味イタシ置候間、右之地面取除ニテ切組出来居候木屋等ハ本大射場之跡硝石丘御囲内ヘ御取立之筋ニ相決シ、大射場跡硝石丘ハ是迄之通リ被仰付置候ニ付夫ヘ差越、尤御軍賦役書役等モ相揃ヒ吟味且ハ差図イタシ、暮前帰宅イタシ候事、

一十一月十四日、出勤、今日モ蓑田傳兵衛・福永直之丞等打寄リ鑁水(月照)一件段々吟味、且ハ承候趣モ有之不容易時ニテ候事、

一八ツ後伊地知喜十郎被参、先日大口ヨリ差越シ今日御
届且伺御機嫌申上候処、即今日是ヨリ先三ヶ年当務勤
続被　仰付段吹聴、且御礼旁也、
一琉人ヨリ当夏贈リ物之内不相届品有之候処、今日差贈
リ有之候事、
一練蕉布　五反
一焼酎　壱壺
右年頭祝儀ニ付、
一練蕉布　五反
一太平布　五疋
一焼酎　二壺
右ハ
太守様御差之御大小被遊
御拝領候御祝儀ニ付、
一練蕉布　三反
一太平布　三疋
一焼酎　一壺
右ハ
姫君様御婚礼被為整
御台様ト奉称候御祝儀ニ付、
一練蕉布　五反
一太平布　五疋
一焼酎　二壺
右ハ
御台様御入城被為済候
御祝儀ニ付、
一練蕉布　五反
一太平布　五疋
一焼酎　二壺
右ハ
宰相様（島津斉興）従三位被為蒙
仰候御祝儀ニ付、
一練蕉布　五反
一太平布　五疋

一焼酎　二壺

右ハ

太守様御扣所結構被為蒙

仰候御祝儀ニ付、

一練蕉布　五反

一太平布　五疋

一焼酎　二壺

右

御台様御縁組御弘之

御祝儀ニ付、

一紬　拾反白五反島五反

一焼酎　二壺

右冠船渡来ニ付入用銀拝借

被仰付候御礼、

一錫煖鍋七并七置添（ママ）　壱ッ

一紺地縞細上布　二反

一島紬　二反

右封王使ニ付御役々被差越候儀

御用捨之御礼、

一鍮鈑火炉　壱ッ

一白花紗綾　二反

一紺地島細上布　二反

右ハ辰年江戸立ニ付、拝借金

返上年延之願申上候処、願通リ

被仰付候御礼、

一石之盆　壱ッ

一紺地島細上布　二反

右去年琉球出来之砂糖残リ分、

館内雇船ヲ以差登方御免被仰

付候御礼、

一唐焼花入　壱ッ

一紺地嶋細上布　二反

一島紬　二反

一焼酎　壱壺

右当年江戸立ニ付段々御取締
向被仰付費筋御省被下候御礼、
一白花紗綾　三反
右ハ冠船年期延納トシテ
宜野灣親方差登候ニ付、
右之通相届キ候間為見合記置候事、

一十一月十五日、出勤、八ツ退出、今八ツ前江戸先月十九日被差立候中急飛脚到着、御用向段々相達候、其内宮里八兵衛ト云御小姓組罷下リ候節、道中ニテ乱心イタシ人足共ヘ少々手疵為負候ニ付、大坂詰見聞役共差越内済之取扱イタシ、随分首尾相済ミ候様有之候ヘトモ、不行届所有之候哉、其段道中御奉行ヘ其駅ヨリ申出、江戸町奉行方ヘ掛合相成、江戸町奉行方ヨリ右之八兵衛早々御差出相成候様御達シ有之候ニ付、段々御聞合ニ相成候ヘトモ、兎角不被差出候テハ不叶向之問合相達シ候、且又日下部伊三次悴之裕之丞ト申者モ御呼出シ有之候得共、即日被相下同伴人御留守居付役立花直記ヘ御預相成候段申来候事、

一退出ヨリ島津登殿玄喚(関)ヘ立寄リ着替イタシ、乗馬ニテ大門口台場見分トシテ御軍役奉行田中仁右衛門・御軍賦役等相揃福崎助八モ出会、御普請之見分吟味等イタシ、段々差図モイタシ置、夫ヨリ塩浜踏切リ塩屋村硝石丘方ヘ見分ニ差越、同所細々見分イタシ彼是差図モイタシ置、夫ヨリ引続キ水軍方被召立筈之地面、塩屋村之内ニテ御船手引続ニ最早地面モ引立有之候ヘトモ御逝去ニ付先見合相成、地面モ片付方之吟味イタシ候此所ニテハ御船奉行岩下新太夫モ出会有之候、然ル処場中ヘ罷在候内雨降リ出候間、直ニ馬ニ打乗急キ候テ大鐘過致帰宅候事、

一帰宅之処御家老座書役伊集院直五郎・蓑田傳兵衛・福永直之丞・長野彦七参リ居候間則致面会候処、先日差越居候鑁水并ニ召列之雲外(平野国臣)并ニ下人藤次郎三人之者共ヲ筑前福岡之足軽カ三人列ニテ右之三人ヲ召捕ニ差越

爰元足軽之内へ知人有之、其者へ便リ右三人召捕之手都合相頼候ニ付、則其段築瀬源之進へ内々足軽共ヨリ申出候、就テハ何様有之可然哉之旨源之進申出候旨承リ、色々不容易致吟味候得共良計モ無之、乍去鑁水等三人其儘捕ヘサセ候テハ　近衛様御難題被成候儀モ差見得居候ヘハ、誠ニ以旧来之御由緒柄御不本意候訳合ニ付、極内西郷三助（隆盛）ヘ為致手都合、今晩中是非船ヨリ福山辺ヘ渡ラセ、夫ヨリ紙屋御番所カ也志布志之方ニテモ為忍、随分御関所出去リ候時分見合、筑前之者ヘハ最早立去リ候ニ付、足配（ママ）承候処ケ様ニ候間道筋追尋候様申達候ハヽ、其上之処ハ行形リニテ可有之致内評築瀬ヘ達シ置、大目付頴娃織部殿ヘモ内分申達置、西郷ヘ手筈之儀共モ源之丞ヘ申達シ、路銀等モ会所在金ヨリ拾両位西郷ヘ相渡シ道案内ト唱ヘ、肝煎坂口用右衛門召付候筋ナト、細々直五郎始致吟味、源之進ハ此方ヨリ四ツ時分引取候、右書役共四人モ四ツ過時分帰リ候、此儀至極不容易吟味筋甚及心配候事也、

一今日嘉味田親方見廻リ、且ツ贈リ物左之通有之候、

一短尺扇子　一箱
一沈金吸物椀　十
一錫煖鍋　一
一紺地島細上布　一反
一紺島細上布　一反
一紬島　一反
一鶴檀子　一枚

右ハ

公方様薨（去）（御）ニ付、来夏親方使者被差上筈候ヘトモ、在番親方ヘ兼務被仰付度願、并ニ焼過砂糖五拾万斤ツヽ重仕登セ、年限次之願先キ二ヶ年是迄之通リ被仰付候御礼ニテ候事、

一十一月十六日、早朝堀與左衛門参リ、昨十五日九ツ時分佐多之御崎ヨリ兒ヶ水之沖ニ七八里之所ヘ、異国船体之船申酉之方ヘ向ケ致通船候段今暁届相達候ヘトモ

通船之体故只今申出候段承り候間承置也、

一引続福永直之丞参り鑁水等三人夜前七ツ時分ヤウ〳〵手筈モ出来候テ、下町津畑ヨリ船ニ乗セ付、西郷三助(隆盛)モ案内者ト成リ、坂口用右衛門モ付添、兎哉角之都合ニテ致出帆候由、然ル処今暁坂口用右衛門・簗瀬源之進所へ参リ申出候ハヽ、前文通致出帆大崎之鼻近へ参リ候時分、三助小用ニ立候姿ニ見得候処鑁水モ同様立アカリ候得ハヽ、直ニ鑁水ト三助モツレ合海中へ飛入候ニ付、船中驚キ可引揚イタシ候ヘトモ、走リ船殊ニ其節月モ山端ニ隠レ暗夜ニテヤウ〳〵見出シ引揚ケ候ヘトモ、鑁水ハ疾息モ絶ヘ居、三助ハ呼吸有之候ニ付折角養生イタシ候、磯天神社之下迄引返シ渚ニ着船イタシ候ヘトモ、夜モ明ケ方ニ成リ人目モ恐レ候ニ付、前之濱沖之岸岐外へ参リ繋リ船イタシ、三助事ハ折角為致養生置、用右衛門早々源之進所へ参リ届申出候、此末如何取計可然哉之旨源之進申出候旨直之丞ヨリ承リ、亦々不容易時宜成行立候間、此上ハ何分トモ早々致出勤、御殿ニテ致吟味候方可然トテ、福永ハ直ニ差出シ拙者モ急キ致仕廻候事、

一仕廻次第早目ヨリ出勤、鑁水一件段々及吟味候処、何レ変死ニ付テハ、養生之儀乍跡越致手当、其上溺死相決シ候ハヽ、雲外(平野國臣)・藤次郎等ヨリ其段之証文為差出候手当イタシ、其外三助(西郷隆盛)事ハ宿元へ差返シ折角養生為致候、矢張息モ有之追々可致快気模様ニ付、猶又念ヲ入候様親類共へ申達シ為致候、左候テ筑前之者共へ引合旁段々六ケ敷吟味事ニテ八ツ過退出イタシ候事、

一佐土原之伊集院相馬近々出立之賦リ候間、今日海鼠并土器二品為返礼差遣候処、最早今日致出立候旨宮里十兵衛預リ置、便宜ヲ以可差送旨申来候事、

一十一月十七日、出勤、鑁水死体夜前南林寺山中へ致取置候由、然トモ今日問屋等取次ニテ表通リ葬リ方之儀、雲外・藤次郎ヨリ願出差免相成候、左候テ三助事ハ余程労レ居候由ナカラ追々快気可致模様ニテ候由、右忍

向相果候後懐中等改候処、鼻紙ニ歌二首書有之候由、
当分三助モ病気言語不通之由ニ候ヘハ、誰カ詠トモ不
知候ヘトモ左之通有之候由、

曇りなき心の月の薩摩かた
　沖の波間ニやかて入ぬる
大君の為ニハ何かおしからん
　薩摩の瀬戸に身は沈とも

右忍(月照)向当年四十六歳計之由、筑前之者共ヘモ今日中成
行シラセ候筈也、

一明日冬至ニ付御氏神祭例之通リ致手当候、然レトモ是
迄之次第チト誤リ居候事モ有之哉ニ見得候間、少々改
テ入念御祭相調度、尤以来之規定ニ付先日ヨリ新納次
郎九郎ヲ以本田三位ヘ承リ合、段々及吟味、当年ヨリ
改テ候手当イタシ候事、

一今日七ツ時御供揃ニテ
宰相様玉里ヘ御帰殿被遊候事、

一十一月十八日、今日玉里ヘ罷出、昨日
御帰殿之伺御機嫌等モ申上候筈候処、夜前ヨリ風邪気
ニテ今朝熱気相応有之出勤之体無之、其段玉里ヘ申上
置候事、

一今日冬至ニ付先日ヨリ手当之通
御氏神祭リ少々相改相調候、拙者儀前条之通リ風邪気
ニテ次郎四郎ニテ相勤候、社人モ請持之武村居住中馬
某先達テヨリ病気ニ付、名代壹岐雅一等参リ御神前相
勤候、委細左之通、

十一月冬至之日

一御氏神様御祭之事、

社人
中馬参河
居所武村
大明神之下

御手当左之通、

一御三方膳五ツ
　但御堂ヘ御格護有之

一盛物用土器弐十五
　但時々新御買入
一白飯
　但白米壱升位焚調
一小鯛五ツ
　但小あち類ニテモ
一当季之なりもの
　但みかん類
一野菜
　但大根之類
一干菓子
　但見合
一器五膳
　但河たふニテ相調白木器ニテモ
右五種土器五ツニ盛リ三方膳壱ツニ五ツツ、受、五
社様分御同様御取仕立被相備、
一甘酒瓶　壱対
一清酒瓶　壱対
一御供　二重
一花米　二升
一御初穂　拾三銅
右御氏神様并ニ稲荷山神水神荒神御相中ニ被相備、
一土器　壱ツ　御供次ク
一花米　壱重
一甘酒　壱瓶
一清酒　壱瓶
一御初穂　拾三銅
右大国主尊へ
一御供　壱重
一甘酒　壱瓶
一清酒　壱瓶
一花米　壱重
一御初穂　拾三銅
右八百万之神様江

但
御神体ハ無之、社人ヨリ空位ニ奉祭候、

一御供　壱重
一甘酒　壱瓶
一清酒　壱瓶
一花米　壱重
一御初穂　拾三銅
一升壱ツ
但御供次キ用
右竈殿

一土器　五ツ　但甘酒次キ用
一升　壱ツ　但御供次キ用
一湯洞　壱ツムルミ入　但甘酒ニテモ
右御蔵

右之通リ御祭リ方有之候ニ付、取揃方左之通、

一合テ土器三拾壱
但差渡二寸位ニテ宜敷候、

一合テ花米五升
一甘酒瓶五ツ
一清酒瓶五ツ
但五盃位
一御供五重
一御初穂四包
但拾三銅ツ、
一升壱ツ
一湯洞壱ツ
一白木器五膳
一河たぶ枝少シ
但器調用
一百田紙壱帖
一真ワタ少シ御神体様用
一麻苧一筋右同断
一シメ縄大二筋小二筋
一御幣竹三四本

一こふじ九升
一餅白六升
右弐行甘酒作リ用
但年ニ寄リ増減可有之事、
一餅白五升
一小豆五合
右弐行御供用
但同断
一白飯焚用白米壱升
一小鯛魚五ツ
但小あちニ而茂
一当季ノなり物みかん類見合
一野菜
但大根ノ類少ッ
一干菓子見合代銭弐百文余文（ママ）
右御祭リ相済役人相伴ニテ社人へ吸物一ッ・酒・取肴二三種差出飯迄振廻候、左候テ社人帰之後御供并ニ花米・甘酒・清酒等取揃為持差遣シ候事、
右之通御氏神祭被相定候、尤先々ヨリ之御仕来有之候得共、
久仰様段々御勘考之訳被為在、本田三位様御方へ新納次郎九郎様ヲ以被及御吟味候処、本文之通御改之方可然トノ御事ニテ、本田家ヨリ書付ヲ以委敷被仰進候ニ付、安政五年午十一月十八日冬至御祭之節ヨリ被相改候間、以来無間違様御手当可致旨承知仕候間此段記置候事、
但
以前御祭之次第ハ後年為見合、朱書ニテ左ニ記置候事、
〔朱書〕
一十一月冬至
御氏神様御祭之事、
社人
中馬参河
居所武村
大明神之下

御氏神様御前

一かわらけ　五ツ

内

弐ツ　御供

壱ツ　みかん

弐ツ　御酒

一錫瓶　二対

内

壱対　甘酒

壱対　清酒

一御供　二重

一花米　二重

但二升

諸神々様御前

一錫瓶　壱対

一御供　壱重

一花米　壱重

但壱升

一かわらけ　六ツ

御茶之前

一錫瓶　壱対

一御供　壱重

一花米　壱重

但壱升

一金はん升　壱ツ

但御供次ヰ用

一めしわんのかさ　四ツ

一湯洞　壱ツ

但むるミ入

但

御蔵へ入レ置キ御祭リ相済ミ三日ニ相成、朝御茶上ケ

本行下ル、

右御祭リ用払

一餅白三升

一小豆五合

右弐行御供用

一白米三升五合
一餅白三升五合
一白糀
右三行甘酒作用
一納米四升
但花米用
一銭弐百弐拾六文　諸物代
一真ワタ少シ
一麻苧壱筋
一百田紙壱帖
一河たぶの枝少シ
一しめ縄
一しめ竹
一かわらけ拾壱
右之通ニテ御氏神祭リ相済ミ、役人相伴ニテ社人へ酒差出シ飯迄振廻候、左候テ社人帰リ之後、御供弐重花米并ニ甘酒・清酒之瓶為持遣候事、」
右之通文化十五年寅二月書改之御規模帳ニ有之候ヘトモ御蔵祭之場カ三日ニ相成ル朝御茶被差上候事ナト第一神道ニ無之事之由御聞及有之、段々被及御吟味、安政五年午十一月ヨリ被相改候事、且又文化十二年亥十一月之役人為覚書記置候趣有之候ニ付、是又為見合左之通現写イタシ置候事、
〔朱書〕「文化十二年亥十一月二十二日冬至ニ付、御氏神祭リ社人中馬隼人参リ、七五三縄壱間計并ニ幣串・竹・河（ママ）柄之手当ニテ幣切リ方、器削リ方相済ミ御祭リ執行有之、相済候テ花米直ニ御茶之前ヘ奉備、金判枡ヘ御供次米（本ノママ）入、親椀之蓋ニテ飾椀之笠四ツ夜食膳ニ受ケ差出シ置、社人甘酒ヲ以テ次差上ル、」
右之通リ書留有之候間、為見合記シ置キ候事、
一今日冬至御氏神祭吉辰ニ付、彦熊事当年五歳着袴始メ今日相調ヘ候、左候テ近親中相招致祝候、然レトモ拙者事風邪故客対ハ相断リ候、川上式部殿・新納宗八郎殿・新納主税殿・平田直之進殿・伊集院周右衛門殿・志岐藤兵衛殿・新納彌太右衛門殿・同次郎九郎殿・伊地知小十郎其外用頼等ニテ、婦人ハおいつさま・およ

しとの子共召列被参候事也、

一十一月十九日、風邪気出勤不相調候、然トモ八ツ後福永直之丞参リ候間面会ニテ鑛水一件段々及長談候、左候テ筑前之者トモヘ成リ行聞セ候処、忍向事ハ公辺ヨリ御用之者ニテ筑前迄足配ツナキ召捕ニ参リ候ヘトモ福岡表吟味之訳有之、公儀足軽等ハ水俣辺ヘ残シ置、福岡之者トモ迄参リ候、右忍向相果候ニ付テハ死体等見分ニハ不及、下人藤次郎事ハ為証拠召列可申、雲外(平野国臣)ハ御用無之者ニ候間、何様トモ此方吟味次第可致申事ニ付、雲外ハ大口筋之様送リ出シ候手当イタシ、藤次郎ハ両日中ニ福岡之者共ヘ可引渡賦リ也、

一十一月二十日、病気、七ツ後再感ニテ又々寒熱往来強ク相成候間、混ト打臥シ発汗ノ手当イタシ候事、

一今八ツ後ヨリ次郎四郎事ハ御用人座書役トモ惣人数召シ呼ヒ、初テ酒トモ振廻リ候事、

一今日モ病気中ナガラ鑛水一件承候、下人藤次郎事筑前之者共ヘ為引合候処、則召捕足カセ入駕籠ニ乗セ付、出水筋召列レ罷帰リ候由ナリ、

一十一月二十一日、風邪再感ニテ致難儀候ニ付、今朝ヨリ段々御用談モ有之候ヘトモ皆断リ申入、終日不致面会致養生候事、

一今日次郎四郎事ハ、組所書役惣人数酒共振廻候事、

一十一月二十二日、白霜強晴天風、今日風邪余程快方也、夜前深更大里御渡海、無御滞吉田之駅ヘ御安着之段御左右相届候、其節豊後殿ヨリ西郷(隆盛)三助并ニ忍向(月照)事ニ付、筑前様ヨリ極内御沙汰被為在候趣トモ申来候間、今朝伊集院直五郎召呼右之問合相渡、永江休之丞ヘ引合イタシ置候事、

一十一月二十三日、病気同断、今朝伊集院直五郎・蓑田

傳兵衛等御用談ニテ、且先月末之定式中急当月二日被差立候飛脚モ今早朝到着ニテ、段々御用封相達候事、

一今昼岩下佐次(方平)右衛門ヨリ之書状并ニ調文之白粉・煙草入類相届、前賢故実二編三編取合セ六冊程佐次右衛門ヨリ志シニテ贈リ有之相届候事、

一十一月廿四日、朝相良角兵衛・永山源兵衛・田原與兵衛列立参リ、明日ヨリ佐土原へ差越トノ事ニ付段々御用談有之暫時致面会候、田中源五左衛門ニモ同列差越候筈候ヘトモ今朝ハ痛所有之、相良ハ其段承リ候事ナリ、

一十一月二十五日、風邪追日快方ナリ、八ツ前ヨリ梅北宗右衛門参リ、当分高城表取納メ差引キ勤メ中戻リニテ、明日ヨリ差越トノ事也、

一夕方新納休蔵参リ、近日中ヨリ三躰堂へ差越四郎殿住居所造立之筈ナリ、右ニ付爰元屋敷払代銀之拙者預リ居候内ヨリ拾三両程受取持越也、

一十一月二十六日、朝高田十郎右衛門参リ、其身当務ニテハ流儀指南方難行届候ニ付、何卒転勤ノ儀ハ出来間敷哉之旨内意承リ候ニ付、無拠訳ニテ候得トモ、此涯難運旨存分達シ置候事、

一風邪平快ニ付今日ヨリ致出勤候事、

一新納太郎左衛門悴宗太郎当年九歳罷リ成、今日吉辰ニ付次郎四郎ヘ相頼ミ元服イタシ度、先日ヨリ承居候間受合候処、弥今日八ツ後ヨリ太郎左衛門・宗太郎被参志岐藤兵衛理髪ニ而加冠イタシ遣シ候、右式相済着座之節拙者モ出会挨拶且盃取替トモイタシ候、今日会釈且祝物取リ遣リ左之通、

一吸物　掛盃

差身組付

一銚子二返廻シ

一挟肴

一盃　三重相立

右次郎四郎ヨリ宗太郎へ取替シ、引続拙者モ父子へ致取替候事、

膳部

皿なます　　汁ツミ入とふふ品々

小皿漬物品々

平海老・山芋其外品々　　飯

引物小鯛塩焼

菓子・高麗餅

以上、

一太刀　一腰現

一馬　一疋青銅百疋

一鞍　一口琉製朱塗堆錦

一肴　一折

一酒　一荷

弐行料物金弐百疋

右之通次郎四郎へ、宗太郎父子ヨリ贈リ也、

一鮮鯛　一折

一酒　一樽

一杉折重　一組

右駿河始何レモへ、太郎左衛門父子ヨリ贈リ也、

一太刀　一腰現

一馬　一疋青銅百疋

一三階房　一掛

一手助　一掛

右宗太郎へ、次郎四郎ヨリ

一鮮鯛　一折

一酒　一樽

右太郎左衛門父子へ此方何レモヨリ、今日之祝儀トシテ帰リ之上遣シ候事、

右之通杉折重等モ為持有之候ニ付、緩々引留開ニテモイタシ度候ヘトモ、宗太郎事モ今日元服済、産神福ケ迫諏訪社へ参詣可致之手当モ有之心急キ之由ニ付、申断リ麁飯等差出候事也、

一十一月二十八日、寒気強今朝櫻島白ク成リ、終日曇リ寒風也、今日玉里へ出勤、八ッ退出、暫時不罷出候間段々御用筋有之候事、

一今日喜味田親方・宜野灣親方見廻リ、且縮緬紅白二巻・毛氈二枚持参ニテ、冠船渡来之儀年限延ヒ、願之通リ御免被仰付候為御礼見廻也、

一十一月二十九日、今朝モ櫻島白ク終日寒風也、今日出勤、毎之通リ定式飛脚差立候ニ付、豐後殿(月照)へ御取縮之一件并ニ忍向一件等段々自分問合長文差遣シ候事、且岩下佐次右衛門へモ状共遣候也、

一十一月晦日、終日細雨寒風、今日四ッ時南泉院へ文恭院(徳川家斉)様御忌日ニ付宰相様(島津斉興)御代参

着服熨斗目・麻裃

右之通リ相勤、夫ヨリ玉里へ出勤、八ッ退出、今日玉里ニテ永江休之丞内洩ラシ、私事来秋江戸へ出府被仰付候トノ

御沙汰被為在候段承知仕、難有奉恐入候事、

一八ッ後蓑田傳兵衛・福永直之丞、今日唐反布取揚ヶ物之代金弐拾両ッ、被成下候御礼トシテ見廻ナリ、尤伊集院直五郎・堅山郷之丞・畠山吉次郎都合五人并大目付座ヨリ平田源之丞・竹内勇藏・若松次右衛門・湯地作之丞且又御裁許掛リ園田彦左衛門へモ被成下候一列也、

一七ッ後有馬雄之介参リ、左右衛門殿ヨリ拙者事明日御名代ニテ被仰渡御用有之候間、四ッ時可罷出旨直申達之筈候ヘモ、其筋ヲ以テ雄之介ニテ申達候段被申越、難有御請申上候事、

一夕方ヨリ伊地知喜十郎被参、夜入リ五ッ過帰リナリ、尤明後日ヨリ大口へ差越トノ事ニ付、段々用向有之候事、

一十二月朔日、今朝櫻島一面ニ大白砂ト成リ候事、終日曇寒気強シ、今日四ツ時早目罷出御用人川上右近ヲ以今日

御前御用承知仕罷出候御届申出置、猶又左衛門殿へ直ニモ申出置候、然ル処四ツ打切リ於椿之間

御名代島津信濃殿御着座、伯耆殿引進ニテ御座末ニ罷出候処、是ヘト

御意之節相進候処、来秋江戸詰トノミ被仰聞候間、承伏イタシ少シ引下リ、席詰左衛門殿方ヘ少シ相向キ候節、御書付左之通読渡有之候、

新納駿河

右来秋交代江戸詰被

被仰付候、

十二月

右之通致承知候ニ付御請申上退席イタシ候、席詰御側役代有馬舎人・伊集院周右衛門ニテ候、右ニ付退席之上左衛門殿・伯耆殿・伊織殿ヘ御礼申出、若年寄・大目付ヘ致吹聴候、今日周防殿モ御出席有之候間是亦御礼申上置、彼是御用仕廻九ツ過退出、夫ヨリ御広敷ヘ罷上リ御用人ヘ相付

若殿様・典姫様ヘ御礼申上置キ、夫ヨリ玉里ヘ罷出御側役橋口今彦ヘ相付御礼申上置無程退出、夫ヨリ

御名代信濃殿并首尾之島津左衛門(久徴)殿ヘ御礼見廻リ候テ八ツ過キ帰宅イタシ候事、

口上

私事今日来秋交代江戸詰被

仰付、難有仕合セ奉存候、右御礼参上仕リ候、

十二月朔日　　新納駿河

口上

私事今日来秋交代江戸詰被

仰付、難有キ仕合セ奉存候、右御礼イタシ伺公候、

十二月朔日　　新納駿河

右弐通トモ上包折掛イタシ候事、

一今日水仙之間格ヲ以御家老座ニテ左之通リ、

新納駿河

右ハ今般
又次郎様(島津忠義)御相続御願之通リ被
仰出候ハヽ御用掛被
仰付候、

十二月　　左衛門

右之通被仰渡候間、御請御礼毎之通リ申出置候、

一谷山郷士橋口助之丞・橋口勘之丞兄弟一代御小姓与被召出、左候テ勘之丞事ハ大和介ニ受叙迄モ被仰付候、口宣ハ十月二十二日之御日付ナリ、右之取扱モ拙者ヘ被仰付今日申渡相成候、尤右之通リ被召出候訳ハ極内禁帝様之御太刀打調方被仰付候ニ付、受領迄テモ難有被仰付、近日ヨリ精進潔斎イタシ候、
御太刀打方相勤候賦ニテ候事、

一今日拙者帰宅後類中并ニ懇意之向并ニ三御家老座書役等相招祝ヒイタシ候、尤およし殿子共召列被参候、男客大体左之通、

川上式部殿　　新納主税殿
諏訪數馬殿　　北郷浪江殿
二階堂源太夫殿　　平田直之進殿
伊集院周右衛門殿　　志岐藤兵衛殿
伊集院直五郎殿　　永田與右衛門
相良弥兵衛　　井上嘉左衛門
日置半兵衛　　市來連右衛門
福永直之丞　　鈴木勇右衛門
長野　彦七　　鎌田宗右衛門
伊集院次左衛門　　畠山吉次郎
甲斐弥右衛門　　伊地知小十郎
新納太郎左衛門　　同　次郎九郎
其外用頼等段々ニテイツレモ四ツ時分迄ニ追々被帰候事、

一十二月二日、出勤、八ツ退出、夫ヨリ重富ヘ昨日江戸詰被仰付候為御礼近習迄御見廻申上置、夫ヨリ月香院・

大興寺へ（新納久儔女子・畠山式部妻）淨貞君御正忌日ニ付致参詣、帰リヨリ都之城へ参リ緩々罷在、夜入四ツ過罷立候、訳ハ豊前殿事久々振リ出府被致、尤モ宗八郎殿嫡家へモラヒ受候後、初テ致面会候旁ニ付、段々咄シ合度事共多ク右之次第也、彼之方へ浪江殿壱人被参、外ニ客人等モ無之閑談ナリ、

一十二月三日、今暁ヨリ小寒入ニ付夫丈ケ之寒サ弥増シ相成候事、四ツ時ヨリ玉里へ出勤、今日寒入之伺御機嫌左衛門殿・登殿・隼見殿・織部殿相揃ヒ申上候、拙者八ツ時退出候事、

一八ツ後新納彌太右衛門・平田八郎太被参候テ、此節江戸詰被仰付候祝儀トモ承リ、彼是咄ニテ七ツ過時分帰リ也、

一引続志岐藤兵衛被参、同家小左衛門事、此節御心付金百両被成下候段別テ難有次第、偏ニ拙者共取成故ト存シ候間、謝礼之寸志ニ小左衛門ヨリ鞍一口被差贈、其段藤兵衛ヨリ委敷演説有之候様頼ミ有之候旨承ハリ、辞退イタシ度候ヘトモ、藤兵衛細々演説之事ニテ難断、直様別テ厚志之程深汲受、鞍モ可致秘蔵旨答置候、尤右鞍骨ハ小左衛門江戸ニテ下地木柄之宜敷ヲ以誂置候間、志シ迄ヲ受呉候様再三委敷承リ候ニ付、拙者モ訳テ恭ク存シ候段厚ク申入給候様藤兵衛ヘ頼ミ置候、鞍ハ黒塗無地海ナシニテ候事、

一今暁岩下清之丞被参候、是ハ此内江戸ヨリ無調法筋有之被差下候、御役御免、御奉公障リ被仰渡候ニ付、当分慎ミ居候ヘトモ、年来懇意ニ申馴レ居リ候間、暮過キヨリ被参緩々咄シイタシ候、四ツ過キ時分被帰候事、

一十二月四日、今朝薄雪昼曇リ間々花ヒラ降リ候得トモ夕方ニ成リ晴候事也、

今日出勤、四ツ過キ退出、夫ヨリ畠山家ヘ立寄リ着替イタシ、祇園之洲台場当分御修甫、尤此節ハ砲門ナシニ御築立相成、今日迄ニ太体之成就ニ付、福崎助八其

外御軍賦役等相揃ヒ致見分候、且又模寄(最)段々見分事モ相応隙取候、磯御取添屋敷諸所此節ハ御不用ニ相成候間、御引払之筋吟味相決シ居リ候ニ付、段々見分事有之、且集成館内モ段々御取細メ筋見分事有之、同所ニテ昼飯トモ仕廻ヒ、夫ヨリ焼物所モ近々御引払之筈ニ付、是モカタ〳〵致見分彼是差図モイタシ、日山端ニ掛リ候時分御用太体相済ミ候間、銘々直ニ帰リ、拙者急キ候テ暮前ニ致帰宅候事、

一今日終日極寒サ強ク候、度々花ヒラモ降リ候ヘトモ、夕方ニハ晴レ候テ仕合之事ナリ、

一今朝極薄雪ニ候ヘトモ嘉味田親方ヨリ安否為尋、蒸羹二箱・焼酎砧一双例之通リ贈リ有之候事、

一十二月五日、霜強ク今朝珍敷寒気ト存候、訳ハ早朝筆取リイタシ候処、硯水(凍)氷リ候テ、認メ物難調火入ニ乗セ認メ候間、近年無之覚候証拠也、

一今日出勤、九ツ打直ニ退出、夫ヨリ御鳥部屋ヘ差越シ彼方ニテ永江休之丞・福崎助八・御納戸奉行寄伊集院中二等相揃ヒ、御花園内ヨリ二之丸辺(中都ヲ)細々見分イタシ、近頃ヨリ御花園内ニ御取立相成居候御製薬物調合所并硝子吹所・焼物竈等、且ハ諸所御腰掛コトキ御家等モ段々御取除之筋ニ内々致吟味モ置候ニ付、今日御役々相揃致見分、吟味之形行

玉里ヘ奉伺候筈ニテ右之通也、左候テ七ツ過時分相済候間、助八・休之丞等何レモ別レ候テ退出候事、

一十二月七日、五ツ前ヨリ南泉院ヘ相詰候、昨日ヨリ(徳川家定)温恭院様三十五日・四十九日・御百ケ日御法事有之、今日拙者詰也、大目付ハ龍衛殿ニテ八ツ前勤行相済直ニ退席、龍衛殿ハ七ツ時分ヨリ之勤行ニモ被相詰候間居残リナリ、御家老ハ伊織殿被相詰筈ニ付拙者引取候事、

一八ツ後ヨリ新納宗八郎殿并同三次郎参候、是ハ先日ヨリ申合置候、訳ハ四郎殿家蔵系図文書等拙家ヘ預リ置

候ヲ、今日三次引合ニテ宗八郎殿へ都テ相渡シ候、且又重宝之山之内助眞長脇差・花セン鞍・蓋本庄之鞍等預リ置候品ハ何モ無程引渡候、左候テ第一ノ重宝助眞ニ相揃ヒ候長光在銘之刀ハ、先年ヨリ新納四郎左衛門預リ居候間、彼方ヨリ相渡候筈也、彼是咄トモイタシ夜入四ツ過三次一所ニ被帰候事、

一今日東郷左太夫ヨリ此節江戸下リ之土産トシテ、扇子一箱・越後島一反・八丈島一反・掛物三幅対一流（ママ）板谷慶舟筆ニテ、中人丸左右須磨明石ノ図也、

一十二月八日、鹿島郷十郎被参候、（島津久光）周防殿御使也、訳ハ此節之

御上リニ付御仕廻方跡補トシテ、昨日御金千両御内々申遣シ候間右之御挨拶、左候テ大鯛二枚・酒一樽被下候、右之取扱拙者致吟味御内伺等モイタシ候間、右之通リ致承知候事也、

一十二月九日、白霜強ク昼快晴、七ツ後ヨリお悦都之城へ参ヘリ、夜入リ四ツ過キ帰リ候事、

一鎌田出雲殿事此内江戸下リ中途ヨリ少々下痢之様有之下着後不相勝一日出勤モ無之、追々差重リ之由候処、内実ハ昨暁死去、今日御届有之、今暁葬送ニ付見立旁用達ナト遣シ候事、

一十二月十日、白霜甚タ強ク昼晴天暖気ナリ、四（申時）〔ツ過〕ヨリ玉里ヘ罷リ出八ツ退出、今日モ段々御内用致承知候事、

一八ツ後ヨリ御用人中一同相招候、尤次郎四郎難有被仰付候付テ之事ナリ、人数左之通リ、

川上　右近
肝付　左門
島津　壬生
北郷　浪江
二階堂源太夫

（小笠原　轍
伊集院喜左衛門）

此之両人病気ニテ断リ、肴トモ被遣候事、

川上正十郎
堀四郎左衛門
伊集院平治

右之通リ当分御用人也、

御勘定奉行　伊集院隼衛

右近頃迄御用人ニテ候間相招候、

新納　主税

右亭主振ニ相招候、

北郷清左衛門
橋口　彦八
平田直之介

右御用人座書役

木藤源左衛門
税所市兵衛

右組所書役ニテ候、亭主振リニ相招キ候、

一十二月十一日、八ツ後桂小吉郎・川上主膳・島津掃部・川上源十郎・北郷作左衛門五人逼塞御当リ申渡イタシ候、右ハ五人共当番頭ニテ当春山吹之間暦等ニ、色々致楽（落カ）書不勘弁之儀トモ有之、長々及吟味右之通リ今日御当リ相成候、伺旁之取扱ハ豊後殿ニテ、出立ニ付拙者へ頼ミ被置候事也、

一十二月十二日、八ツ後御趣法掛御用人田中仁右衛門江戸詰之節、本安藤名字之平八御内用金自儘取扱候節、詰合居不気付、大形之御当リ逼塞、御側御用人有馬舎人ニテ申渡イタシ候事、

一今日玉里ヨリ左之通リ頂戴被仰付候事、

御肴　一籠之内（朱）「大鯛二」
御酒　一樽（朱）「白木八盃位」

右ハ

宰相様ヨリ頂戴被
仰付候間差廻リ申候、尤御礼之儀ハ取繕申上置候ニ
付、
態々
御参殿ニハ相及不申候、此段申上越シ候、以上、
十二月十二日　玉里
御小納戸
新納駿河殿
〆
右之通リ被仰付候間、御受書相応相調差出シ置候事
一近比上国之琉人トモ両人今日例式之見廻、且贈リ物左
之通、
一大官香　三把
一白花紗綾　二端
一毛氈　二枚
志岐屋親雲上
一大官香　三把
一紗雲布　一端
一毛氈　一枚
名嘉地親雲上
一十二月十三日、白霜昼晴暖気、四ツ時ヨリ玉里へ出勤、
八ツ前退出、今日御煤払ヒ候ヘトモ、重キ御内用被仰
付置候ニ付右之通リ相詰、休之丞ヲ以奉伺候儀モ有之
候事也、
一今日御側役得能彦左衛門席詰ニテ、御小納戸早川連御
取次ヲ以、
宰相様御召物黒羽二重十文字御紋付御綿入壱ツ拝領被
仰付候段、得能ヨリ申達シ頂戴被仰付候間難有存、此
段即席得能迄申上置相下リ候処、御廊下ニテ御小納戸
同人御取次ニテ
一麻絹長御上下染地一着
十文字御紋付
一晒水色御染地　一着

十文字御紋中色染出シ
一呂鳶色小形付　一着
御紋所ナシ
一八丈島　一反
一白琥珀　一反
右五行ハ御残リ品ニテ被成下候段申達、頂戴被仰付候間、重畳難有次第奉存候段、同人ヘ申上置罷下リ候事、
一右之通リ御内外難有頂戴置被仰付候間、永江休之丞ヘ相付御礼申上置候事、
一御家老座書役玉里掛リ四人ヘ茂金弐百疋ツヽ被成下、難有次第ニ候事、
一今日八ツ後玉里ヨリ左之通リ相達候事、
江夏　十郎
右ハ先御役中段々不相当、且不束之儀トモ被　聞召通趣有之候ニ付、御役被差免御奉公方被障置候条可申渡旨、
宰相様御沙汰御座候、
奥医師
川畑　魯水
右当御役ニテ医学院講釈医師勤被仰付候条可申渡旨、宰相様御沙汰御座候、
十二月　永江休之丞
新納駿河殿
一今日伯耆殿ヨリ江戸産トシテ、扇子五本入一箱・風鎮一箱・三階房一掛贈リ有之候事、
一十二月十四日、朝櫻島雪昼晴、出勤、八ツ退出、昨日玉里ヨリ
御沙汰相成居候江夏十郎、今日八ツ後拙者宅ニテ御用人川上右近ヲ以当人病気ニ付キ、名代実弟甲斐右八郎ヘ申渡候事、
一十二月十五日、白霜強ク昼快晴、今朝五ツ過ヨリ出勤

八ツ過退出、今日
宰相様五ツ半時御供揃ニテ
御本丸へ被為入、御一門方始月次御礼罷出候面々并諸
士諸組与力迄御目見被　仰付、多人数参リ出テ御都合
之事ニテ候、右ニ付拙者事ハ
御座之間并ニ御書院　御対面所へ御出座之節、御先立
相勤候事、
一都之城豐前殿御夫婦久々振リ御出府被成候ニ付、今日
七ツ後ヨリ御出被成候様申入置候ニ付、御夫婦トモ御
出被下候、外ニ浪江殿・東郷一介御取持ニテ志岐藤兵
衛・東郷左太夫・新納休右衛門・新納三次相招おいつ
さまニモ早目ヨリ御出被下候テ、太体之御馳走イタシ
緩々之咄シニテ、夜入九ツ時分豐前殿御夫婦御立被成、
其余ハ追々帰リナリ、御夫婦ヨリ御肴一折・酒一樽此
方イツレモヘ被下候、且又お悦へ太織縞壱反被下候、
浪江殿ヨリモ鴨一番被下候事、
一十二月十七日、朝平田伊兵衛見廻ナリ、是ハ先キ頃大
坂ヨリ下着候ヘトモ、二十余日病気ニテ昨日ヨリ出勤
ニ付右之通リナリ、就テハ大坂表御用筋段々承候事也、
一四ツ時ヨリ玉里へ出勤、八ツ退出、今日休之丞ヨリ極
内被為伺候ハ、
忠元霊社御事今日一階モ御吹挙之儀
思召被為　在候間、其段本田三位へ取扱ヒ之儀申達シ
候様、且又氏瀬宮モ今一階御吹挙之
思召被為　在候間、是モ同様三位へ申達シ候様ニトノ
御内沙汰被為
在候段モラシ被為聞、難有次第恐入承知仕居候事也、
一新納太郎左衛門所へ今日同家中段々相招キ度催シ有之
次郎四郎ニモ七ツ後ヨリ参ヘリ候、尤モ先日嫡子宗太
郎元服モ相済ミ候祝ヒ之心持ニテ候由也、
一お悦事ハ八ツ前ヨリ都之城へ参リ、夜入リ四ツ過帰リ
也、

一十二月十八日、此節高申受被仰付、代金五百両余程位当月限リ上納ニ付、段々致手当候へトモ、自金大分致不足候ニ付、寺社方御在金拝借之儀相願候処、今日弐百八拾両余拝借被仰付候間、外ニ弐百両位自金致調達、明日モ上納之手筈イタシ候事、

口上覚

御銀弐拾弐貫五百目

右ハ新納駿河殿蔵方内々無拠入用之儀御座候間、寺社方御貸付銀之内右之通リ利付拝借被仰付被下度奉願候、利銀之儀ハ年々十二月限リ堅固ニ上納可仕候、為引当、駿河殿持高伊集院下神殿村之内有嶋門弐拾石、小林東方村下リ藤屋敷之内浮免三石、高城郡高城麥之浦村上浮免之内浮免六石四斗八升六合弐夕五才、水引五代村一浮免之内浮免拾石三斗五升八合八夕五才、大口木之氏村之内竹内門三拾石弐升四合三勺七才、大崎持留村之内中西屋敷弐拾四石合高九拾壱石壱斗八升五合九夕之内九拾石、名寄帳三冊差上置候間、万一御限月通リ利銀不納仕候ハヽ、右引当御法之通リ御取揚被仰付可被下候、此等之趣被仰上可被下候儀奉頼候、以上、

午十二月三日　　御用頼代
田代太郎太

寺社御奉行所

拝借状

御銀弐拾弐貫五百目　　利七郎

右ハ寺社方御貸付之内利付拝借被仰付御銀申受候儀別条無御座候、利銀之儀ハ年々十二月限リ堅固ニ上納可仕候、為引当、駿河殿持高伊集院下神殿村之内有嶋門弐拾石、小林東方村下リ藤屋敷之内浮免三石、高城郡高城麥之浦村上浮免六石四斗八升六合弐夕五才、水引五代村一浮免之内浮免拾石三斗五升八合八夕五才、大口木之氏村竹内門三拾石弐斗四合三勺七才、大崎持留村之内中西屋敷弐拾四石合高九拾壱石壱斗八升五合九才之内九拾石差上置可申候間、万一

利銀不納仕候儀御座候ハヽ、右高御法通リ御取揚被仰付可被下候、此旨駿河殿被承届証文如斯御座候、以上、

安政五年午十二月十八日　新納駿河殿役人　前田嘉平次

証拠人　田代太郎太

寺社御奉行所

手形

一弐朱金弐千弐百四拾九切

銭ニシテ弐千弐百四拾九貫文

壱切ニ付壱貫文ツヽ、

一銭壱貫文

〆銭弐千弐百五拾貫文

新納駿河殿

役人

右ハ利付拝借被仰付候間可被〔遊〕(渡)候也、

寺社方奉行所印

御内用掛

阿多　六郎印

午十二月十八日

寺社方蔵

役

右之通リ田代太郎太受取ニ罷出候処、掛リ銭九貫三百七拾弐文但銭壱貫文ニ付四文ツヽ、本行銭高之内ヨリ差引、現渡リ銭弐千弐百四拾〆(貫)六百弐拾四文金ニシテ弐百八拾両ト六百二拾四文被相渡候間、受取罷帰リ首尾申出候事、

一十二月十九日、四ツ時ヨリ玉里へ罷出八ツ退出、一昨夜ヨリ大寒入ニ付、昨今両日ニ掛大目付以上伺御機嫌、銘々罷リ出有之候事、

一今日得能彦左衛門ヨリ

宰相様(島津斉興)御事一昨日ヨリ少々御風邪カニテ御不例被為入候段、御年寄ヨリ致承知候ニ付、則御七志々目鎌受

へ申遣シ候処、只今罷リ出奉伺候処、少々御熱気被為在候段申出候、就テハ乍恐御老年様之御事ニモ被為入候ヘハ、御大事ニ奉存候間私限リ為伺置候、御当人様ハ至極御秘シ被遊候御様子ニ被為入候段、細々為伺有之候事、

一申受高代銀引付、去ル十一日相渡居候ニ付、今日致上納候成行左之通、

引付

金五百両

銭ニシテ四千貫文

但

両ニ付八貫文替

高弐百石申受代

壱石ニ付弐拾貫文ツヽ、

新納駿河殿

役人

右ハ此節高申受被仰付、高代銀之儀当年中上納被仰渡置候間、右之通上納也、

但

上納金別段差分置候様被仰渡候間、可差上分置候、

御勘定所

小頭

和田　乗助印

午十二月十一日

平田助右衛門印

金蔵

役人

受取

見分

森　藤九郎

禰寝覺太郎印

金五百両

両ニ付八貫文

銭ニシテ四千貫文

高弐百石申受高

壱石ニ付弐拾貫文

新納駿河殿

役人

右ハ此節高申受被仰付、高代銀之儀当年中上納被仰渡置候間、右之通上納候旨御勘定所小頭衆

午十二月十一日任引付上納也、

貴嶋平左衛門印

午十二月十九日

伊地知彦一印

一新納權左衛門へ申受被仰付候高代銀モ、当分權左衛門為稼徳之島へ渡海中ニ付テハ、上納之手段無之候ニ付、此方ヨリ致調達同様ニ致上納置候事、

引付

御物方

金三拾七両弐歩

銭ニシテ三百貫文

但

両ニ付八貫文替

高拾五石

但

壱石ニ付弐拾貫文ツ、

新納權左衛門

右ハ此節高申受被仰付、右之通リ高代銀トシテ上納也、

但

上納金別段差分置候様被仰渡候間、可差分置候、

御勘定所

小頭

佐多左次右衛門印

午十二月十一日

川上守之進印

金蔵

役人

受取

見分

森　藤七郎印

金三拾七両弐歩

銭ニシテ三百貫文
両ニ付八貫文
高拾五石
壱石ニ付弐拾貫文

新納權左衛門

右ハ此節高申受被仰付、右之通リ高代銀トシテ上納候旨、御勘定方小頭衆午十二月十一日任引付上納也、

貴嶋平左衛門印

午十二月十九日

伊地知彦一印

一十二月廿日、嘉味田親方別段之内意事有之、壱人参リ候間得ト致面会承候事、

一今日伊集院甚右衛門世話ニテ、森岡善助所持之身刀壱本無銘備前長船則光ト見得候長サ弐尺壱寸、七部本幅九部半重ネ、弐歩反リ、五部位表裏棒樋有リ、代金三両壱歩ニテ取入置候事、

一十二月廿一日、玉里ヘ出勤、八ツ退出、宰相様先日ヨリ少々御不例被為在候ヘトモ、昨日共ヨリ追々御熱モ御解被遊、御快キ方ニ被遊御座候由奉伺、難有奉存候事、

一七ツ後新納休蔵参リ、先日三躰堂ヨリ罷リ帰リ彼地形行承リ候、四郎殿屋敷代金イマタ残リ弐拾両程余預リ置候株、今日受取リ三躰堂方入用、且ハ竹之内宗助方ヘ金拾両返金之株ニ入付、用分旁トシテ皆同ク相渡候事、

一昨日嘉味田内意ニ被参候節、琉人手跡之事望置候処、今日左之通為持被遣候事、

覚

湖上親方鄭元偉手跡
一唐字　十枚
儀衛正屋冨祖親雲上手跡
一同　五枚
正使并副使手跡
一同　三枚

楽童子共手跡

一同　九枚

右駿河様へ進上仕度御座候間、宜敷御披露頼上候、

以上、

十二月廿一日　嘉味田親方

伊東猛右衛門様

一十二月二十三日、おいつさまへ歳暮ニ付、金壱両御仕用トシテ差上候事、

一例式之通琉球館へ在番親方ヨリ招請之儀承リ候ヘトモ御用多ニ付断之趣申入候処、左之通品々持参有之候事、

進上

御掛物林梅筆　一幅

御花入　一

沈金御夜喰膳　十

縮緬紅白　二巻

以上、

進上

御重甘物　一組

焼酎砧　一双

以上、

嘉味田親方

進上

散砂糖　一桶

以上、

琉球

役々相中

当分館内詰役々左之通、

在番

嘉味田親方

琉球館蔵役

勝連親雲上

同

平安座親雲上

琉球館書役
山髙原親雲上
嘉味田親方与力
饒平名親雲上

右之通リ品々贈リニテ見廻リ有之候事、

一宜野灣親方ヨリ安否為尋、今日蒸羹二箱・焼酎砧一双贈リ有之候事、

一佐土原ヨリ例之通リ寒中御尋トシテ、御状壱通・鯉二尾被下候事、

一筆致啓達候、雖甚寒之節候、弥御堅固可為御勤珍重存候、為寒中御見廻如是御座候、仍テ鯉二令進覧之候、聊書音之印迄御座候、恐惶謹言、

十二月十七日　島津淡路守忠寛判

新納駿河様
人々御中

一十二月二十四日、細雨、今日南林寺へ此節御建立之順聖院様御石塔、御成就ニテ御供養有之候ニ付、四ツ時ヨリ相詰候、

御名代島津信濃殿・寺社奉行新納主税、御側表御用人・御目付等相詰、九ツ前福昌寺住持應山御遺髪奉守　御入寺有之、客殿正面ヨリ御入御安座諷経有之、直ニ御切封、拙者差図侍衣手伝ニテ致改替、直ニ御石塔へ　御納リ御取建有之、勤行等相済、御名代御拝礼等有之、引続拙者共モ致拝礼候、尤御成就見分モ御役々相揃ヒ相済メ、彼是イタシ八ツ過時分退出帰宅イタシ候事、

一今日郡奉行吉田七郎事無調法有之、此内逼塞被仰付置候処、今日於拙宅赦免申渡長髪見分イタシ候、御勝手方御用人二階堂源太夫詰也、

一近隣之島津將曹殿事未拙宅へ緩々不相招候ニ付、先日志岐藤兵衛ヲ以年来乍存打過居候趣トモ細々申入候処今晩差支無之旨承リ候間仕合ニ存、大鐘比ヨリ將曹・織之介殿・清太夫殿相招候、右ニ付取持トシテ平田直

之進殿・新納主税殿・志岐藤兵衛殿・種子島次郎右衛門、且二階堂源太夫モ吉田七郎赦免ニ被相勤候間引留置候、左候テ緩々咄イタシ夜入四ツ過時分被帰候事、

右ニ付將曹殿ヨリ大鯛二枚・酒一樽、織之介殿・清太夫殿ヨリ右同二枚・〔㊥酒樽〕一〔㊥樽荷〕送リ有之候事、

一十二月二十五日、出勤、八ツ退出、昨日江戸先月末之飛脚到着、今日問合トモ見届ケ候事、

一地方検者田中八郎兵衛事当分帰リ居候ニ付、先日ヨリ毎日参リ、諸事之加勢ニテ候事、

一十二月二十六日、玉里ヘ出勤、八ツ過キ退出、段々重キ御用致承知候、尤日置等之事ナリ、且亦　霊社様今一階御吹挙之事、猶又今日モ御沙汰被為在候趣ヲ以、永江ヨリ内分聞セ有之、難有奉存候事、

一宰相様ヘ寒中伺御機嫌トシテ御肴料金三百疋并ニ当夏王子ヨリ贈リ之青貝大形東道盆一脚進上仕度、永江休之丞迄頼ミ置候処、今日同人御披露申上候ヘハ御都合至極宜敷候旨被申聞、難有奉存候事、

一名嘉地親雲上・志喜屋親雲上事ハ近々乗船ニテ帰帆之筈ニ付、今日置土産等例之通リ贈リ、見廻リ有之候事、

進上

御扇子　一箱

御中茶碗　十

以上、

名嘉地親雲上

進上

御扇子　一箱

御笋寒　十

以上、

志喜屋親雲上

一十二月二十七日、八ツ後林藤十郎靜洞殿之御使ニテ被

参、白坂七郎右衛門内意筋承知イタシ候、且又新納太郎左衛門ニモ参ヘリ、琉球方勝手向訴訟事承リ候也、

一拙宅役所用上聞、当時志岐藤兵衛壱人ニテ時宜ニ寄リ差支候儀モ有之候ニ付、土持叶之丞相頼度三日以前田代太郎太ヲ以テ申入候処、受合ニテ今日ヨリ参リ、役所向世話イタシ被呉候、且用頼林庄之助事モ大島渡海之後、御殿内勤メ之人用頼無之、チト差支候儀モ有之候ニ付、奏者方書役津留與右衛門ヘ相頼度申入候処、是モ受合ニテ候事、

一お悦今日夕方ヨリ都之城ヘ歳暮祝儀旁トシテ参リ、夜入罷帰リ候事、

一十二月二十八日、玉里ヘ出勤、八ツ退出、八ツ後澁谷喜三次逼塞赦免之長髪見分イタシ候、右ハ(島津斉彬男子)哲丸様御事御嫡子之御願被為済候ニ付、御恩赦者取シラヘ有之候得共、順聖院様御逝去ニテ其儀延引相成リ今日御恩赦申渡有之、澁谷モ其内ニテ候事、

一嘉味田親方今日見廻リニテ、当年中段々預世話御用向無滞相勤候趣ヲ以テ例式之通、品々差贈リ見廻有之候ナリ、

覚

一水色桧垣紗綾　一反
一白桧垣紗綾　一反
一重甘物入付　一組

以上、

嘉味田親方

一歳暮祝儀トシテ海鼠一重・焼酎砧壱双ツヽ、嘉味田親方・宜野灣親方ヨリ今日贈リ有之候ニ付、此方ヨリ肴一折・酒一樽ツヽ、差遣シ候事、

一地頭所指宿ヨリ寒中尋并ニ此節来秋江戸詰被仰付候祝儀トモ、郷士年寄園田宇左衛門并ニ組頭等出座ニテ、左之通リ申出候、

覚　　指宿

寒中

一御肴　一折生
一御酒　一樽
弐行料物壱貫五百文
一玉子　一台
一紙袋　五ッ
右御地頭様御方へ
一御肴　一折塩
一御酒　一樽
弐行料物壱貫弐百文
一玉子　一台
右御奥様御方へ
一御肴　一折塩
一御酒　一樽
弐行料物壱貫弐百文
一玉子　一台
右御子様方御相中へ

歳暮

一御肴　一折生
一御酒　一樽
弐行料物壱貫五百文
一里芋　一台
右御地頭様御方へ
郷士中
一御肴　一折塩
料物五百三拾弐文
一里芋　一台
右御奥様御方へ
郷士中
一赤貝　一台
一里芋　一台
右御子様方御相中へ
郷士中
一御肴　一折塩

料物五百三拾弐文
一玉子　一台
一耳組呉座　二十枚
右御地頭様御方へ　諸在中

一御肴　一折塩
料物五百三拾弐文
一玉子　一台
右御奥様御方へ　諸在中

一御肴　一折塩
料物五百三拾弐文
一玉子　一台
右御子様方御相中へ　諸在中

一御肴　一折塩
料物五百三拾弐文
右御地頭様御方へ　諸浦中

一御肴　一折塩
料物五百三拾弐文
右御奥様御方へ　諸浦中

一御肴　一折塩
料物五百三十二文
右御子様方御相中へ　諸浦中

一中紙　一束
料物百文
右御地頭様御方へ　町中

一中紙　一束
料物百文
右御奥様御方へ

町中

一中紙　一束

料物百文

右御子様方御相中へ

町中

来秋江戸御出府

御祝儀方

一御肴　一折生

一御酒　一樽

弐行料物金壱貫五百文

一玉子　一台

一紙袋　五ッ

右御地頭様御方

合料物拾貫九百三拾弐文

内

五貫六百六拾四文

御地頭様御方

弐貫九百文

御奥様御方

弐貫三百六拾四文

御子様御相中

右之通リ差上申候間宜敷御頼ミ申上候、以上、

午十二月　郷士年寄　園田宇左衛門

覚

午正月改本

用夫弐千三拾五人

内

弐拾壱人　死人

三人　新年季者

現用夫弐千拾壱人

銀ニシテ四百九拾弐匁六分九リ五毛

銭ニシテ四拾九貫弐百六拾七文

但

壱人ニ付弐分四厘五毛ツ、

外ニ

銭五拾壱貫弐百七十七文

右一行御郡方へ相納申候、

右ハ当午七月ヨリ同十二月迄、狩夫銀上納仕リ度申出候ニ付、納リ方頼存候、以上、

午十二月十七日　郡見廻
佐土原新左衛門
郷士年寄
園田宇左衛門

御地頭所
御役人衆中

一十二月二十九日、細雨風終日寒気厳敷候、今日出勤、八ツ退出、今日定式飛脚召立候ニ付、豊後殿・筑後殿へ御用向并ニ来秋江戸詰被仰付候御礼等内々ヨリモ申遣シ候事、

一今昼猪飼鉚太郎ヨリ若殿様御事、去ル二十六日頃ヨリ少々時候ニ御感シ御座候哉御不例被為入、先ツ御軽キ御事之様伺上候ヘトモ、全体御虚弱被為入候ヘハ何トモ奉配念候、乍然只今モ現事奉伺候処ハ御軽キ御事之様奉存候ヘトモ、御程合難計候間、先内々拙者迄此段為伺候様被申聞候事、

一今日夕方玉里ヨリ道島源五郎へ被相渡御花活壱ツ、但シ檳榔木ニテ竹筒形ニ作リ、葡萄ニ栗鼠ノ高蒔絵、結構仕立候二重切并ニ桟留御袴地二反、先日伺御機嫌トシテ御肴料并東道盆進上仕候御返シトシテ被下候旨、御小納戸永江休之丞・早川連相会申達シ被相渡、左候テ御礼之儀モ御取合申上置候段モ被申越、難有頂戴仕候事、

一今日モ昼ヨリ田中八郎兵衛加勢被参候テ、夜入四ツ時分帰リ也、

一夜入過書役助堀剛十郎参リ、暮時分ヨリ奥御小姓之面々段々走リアルキ候ニ付承リ候処、

若殿様（哲丸）先日ヨリ御不例ニ被為入候処、今日ハ少シ御塩

梅御宜敷不被為在由ニ付、諸神仏へ御祈願トモ申上ニ
参リ候旨承リ候間、早々拙者へモ為伺候段承候ニ付、
能モ申聞候旨相答置得ト相考候処、何分ニモ大切之御
事ニ付、直ニ同人ヲ以テ御広敷御用人迄相伺候処、夜
入四ツ前参リ被申聞候趣、今大鐘時分ヨリ少々モ御快
キ方被為成候、乍然御小児様之御事ニテ、何トモ御程
合不相知、心配ニ罷在候段致承知、甚以奉配念候ヘト
モ、直様伺御機嫌罷上リ候儀モ難致、乍恐少シ御快キ
方ニ被為在候段承知ニ付、追々御宜敷方可被為成哉ト
奉存、差扣罷在候事、

一十二月晦日、今朝櫻島白砂甚シク其外諸方山々同断也
今早朝御広敷番之頭折田八太夫参リ、
若殿様御事夜前中ハ御同様ナガラ今暁大鐘時分ヨリ御
熱気少々被為起、夫丈ケハ御苦シミノ方ニ被為入候ヘ
トモ、格別成御事ニ茂不被為在段致承知候、先ハ難有
奉存候、乍然何分ニモ
御小児様極御虚弱被為入候得ハ、恐入奉存候御事ニ付、
追付私ニモ伺御機嫌罷リ上リ度申答置、八太夫ニハ直
ニ是ヨリ左衞門殿へ参リ、成リ形申入被置度申達シ置
キ候事、

一今朝六ツ半時分南泉院へ
文恭院様(徳川家斉)御忌日ニ付
宰相様御代参
着服熨斗目・半袴
右之通相勤夫ヨリ直ニ大奥へ罷リ出掛リ候処、登殿角
ニテ左衞門殿ニ茂出会、引続一所ニ御広敷へ罷リ通リ
候処、折田八太夫出迎御年寄へ被通候処、直ニ奥へ罷
通リ候様致承知、左衞門殿共ニ御客間へ罷リ通リ候処、
御年寄ヨリ
御住居へ罷リ通リ奉伺御機嫌候様被申聞候ニ付、直ニ
左衞門殿一所ニ御住居へ罷リ通リ奉伺御機嫌候処、御
医師其外女中等多人数相詰居、
御小児様奉伺候処、我々敷素人ニテハ何トモ難申上、

先ツ太体之御事様ト存上候ヘトモ、御医師中ハ至極大切之御不例ニ伺上居候哉ニ見得候、然処伯耆殿・登殿ニモ被罷出、是モ我々同様　御寝所ヘ被罷通候、左候テ暫時御次ニ罷在候ヘトモ何ソ御用モ無之候間、御座ヘ四人トモ出勤イタシ平日之通リ相勤、八ツ退出イタシ候事、

一八ツ前　若殿様御方掛リ御側之御用人猪飼鉚太郎ニテ相伺候処、今朝ヨリモ少シハ御宜敷方ニ被為入候段伺上候旨被申聞候間、先ツ難有奉存候事、

一今七ツ後伊集院直五郎参リ、玉里ヨリ極々御内用承知仕候事、

一島津登殿嫡子權五郎事、長々病気之筋ニテ出勤無之、既ニ此内御役御断リモ再度迄出候ヘトモ得ト養生有之快気次第出勤可被致旨達シニ相成候、右ハ実病ニ無之、当春以来山吹之間人数互ニ雑談落書等イタシ有之、夫ヨリ起リ引入ニテ右落書等イタシ候面々モ五人程、近頃別段之吟味ニテ、別テ穏便之御取扱被仰付難有訳ニテ、權五郎モ右ニ準シ退役等ニ不及、穏便ニ被仰付候段登殿細々被致承知候処、至極難有狩リ之由ニテ、今日肴料金百疋・遠目鏡一ツ但シ宜敷品也、右之為礼贈リ有之、何トモ痛入候次第也、

一今日暮之祝儀等見廻衆モ段々有之候得共、名前略イタシ候事、

一暮過福崎助八被参候テ、只今御殿ヨリ退出之処ニテ候、若殿様御様体先ツ昼之通リ被為入、何ソ御替リモ不被為入様ニ見上候旨被申聞候間、先難有奉存候旨互ニ申合セ候、左候テ助八ハ急キ帰リ也、

一今日終日曇天気也、

一平田伊兵衛先キ頃大坂ヨリ下着ニ付土産旁トシテ、干鱈五本・上方酒一樽四斗入・美人画昇龍筆官女一幅贈リ有之候、其外歳末ニ付祝儀且ハ年末之礼分トシテ被下候向、重立候分左之通リ記シ置候事、

一塩鰤　一尾

一酒　一樽

一肴料　金百疋　重富屋敷ヨリ
一樽料　金二百疋

一肴料　金百疋　垂水屋敷ヨリ
一樽料　金二百疋

一肴　一折　加治木屋敷ヨリ
一酒　一樽
一生蠟　一玉五拾斤位

一肴　一折　今和泉屋敷ヨリ
一酒　一樽
一中小蠟　百五拾挺

一肴酒代　金二百疋　花岡屋敷ヨリ
一布海苔　一包

一塩鯛　二枚　種子屋敷ヨリ
一白紬　一反　都之城屋敷ヨリ

右之屋敷都テ内用向承リ候ニ付、年分之為礼被下候筋相見得候、右之外親類中并ニ懇意之向キニハ互ヒニ取リ遣リイタシ候ヘトモ、細記難調略シ候事、

一当年中朝昼夕晩御用談客或ハ内願筋之客来ハ夥シク候筆記ニ難及候事、

一当年家内中無事致加年候事トモ一同喜悦目出度暮ト存酒共少々酌替シ、子哉孫トモ機嫌能四ツ過時分休ミ候事、